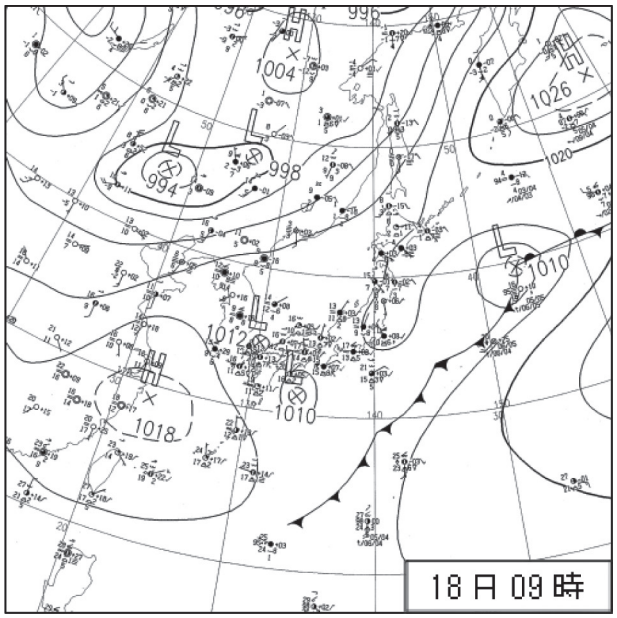
1998年

［平成 10 年］

1998 年（平成 10 年）4 月 18 日　ひょう（あられ）　雷雨（寒気の移流）

上空に寒気を伴う低気圧が対馬海峡から四国を通り南東に進んだ。これに伴い大気の状態が不安定となったため積乱雲が発達し，昼過ぎから夕方まで県内の所々で発雷し，ひょうが降った。

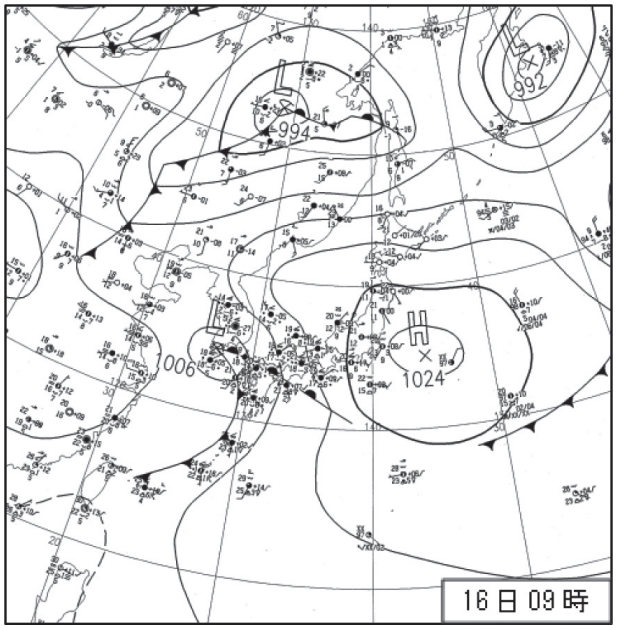


【被害概況】

農作物：[梅] 名西郡神山町・美馬郡美郷村「果実の落下」138ha, 12,600 万円, [ほうれん草]徳島市・名西郡石井町「葉の損傷」24ha, 7,800 万円, [ごぼう] 徳島市「葉の損傷」24ha, 7,300 万円, [なし] 徳島市・鳴門市・板野郡松茂町「果実の傷」43ha, 4,800 万円, [サヤエンドウ] 美馬郡脇町「果実の落下・傷」5ha, 600 万円, [レタス] 美馬郡脇町「葉の損傷」2ha, 500 万円, 落雷害：18 日午前 3 時板野町で落雷により納屋 40 平方メートルを焼く。山腹崩壊：18 日午後那賀郡木沢村横谷県道木沢－上那賀線高さ 25m・土砂 100 立方メートル山腹崩壊長さ 35m（幅員 4m）を覆う。27 戸が孤立。崩壊の影響で周辺民家 53 戸が停電。

参考資料：ひょうの大きさ，美馬郡美馬町，直径 3 センチ，2 センチ程積。13 時頃から 10 分間。名西郡石井町，直径 2 センチ，3 センチ程積。13 時 15 分から 15 分間，15 時頃から 15 分間，徳島市国府町，直径 2 センチ，1 － 2 センチ積，14 時 30 分頃から 10 分間，15 時頃から 30 分間，徳島市大和町（気象台）直径 1 センチ，15 時 10 分から 10 分間

1998 年（平成 10 年）5 月 16 日～ 17 日　大雨　波浪（日本海低気圧　暖気の移流）

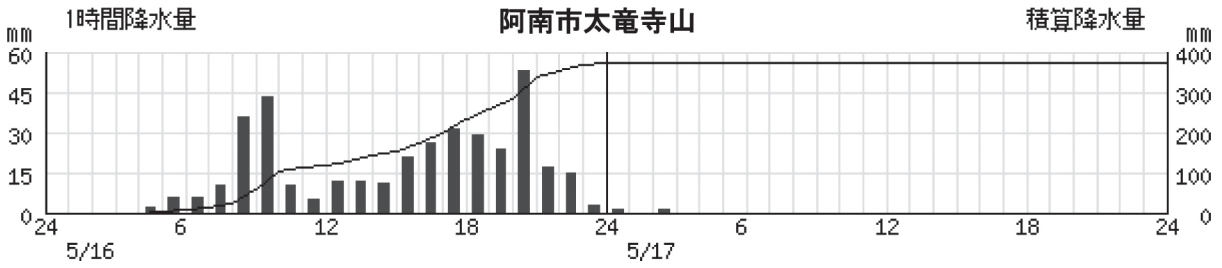


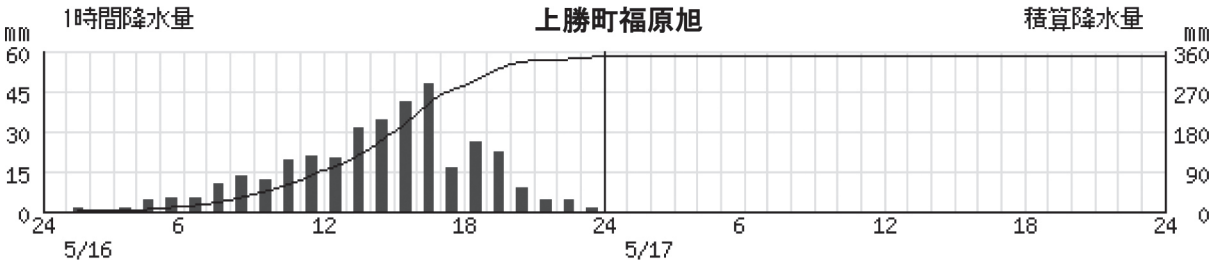
前線を伴った低気圧が日本海を北東進し，四国地方には暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となった。そのため，県南部を中心に大雨となった。

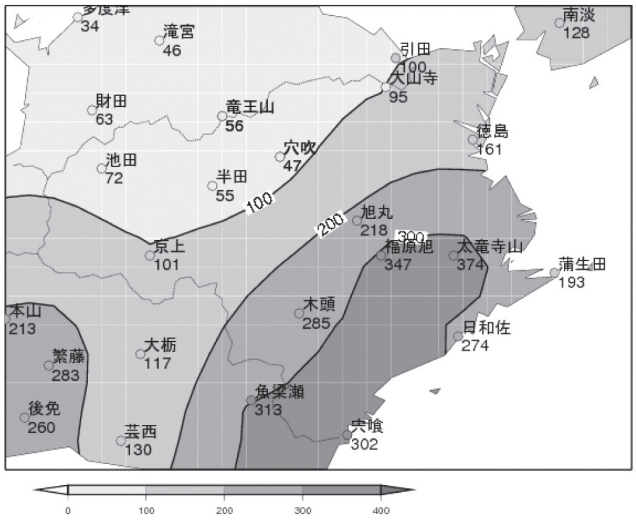
16 日から 17 日にかけての総降水量は阿南市太竜寺山で 374㎜, 上勝町福原旭で 347㎜を観測した。また，阿南市蒲生田では 16 日 19 時 00 分までの 1 時間に 87㎜の猛烈な雨を観測した。

【災害状況】

漁船転覆：16 日 06 時頃，海部郡牟岐町古牟岐港口付近，たこ漁中風浪により転覆，1 名溺死。山腹崩壊等：14 箇所。電話回線：宍喰 90 回線，阿南 90 回線，不通。海部郡宍喰町船津地区民家裏山崩壊幅・高さ 200m，全壊 1 戸，半壊 1 戸。県道久尾宍喰線及び林道大山線不通により海部郡宍



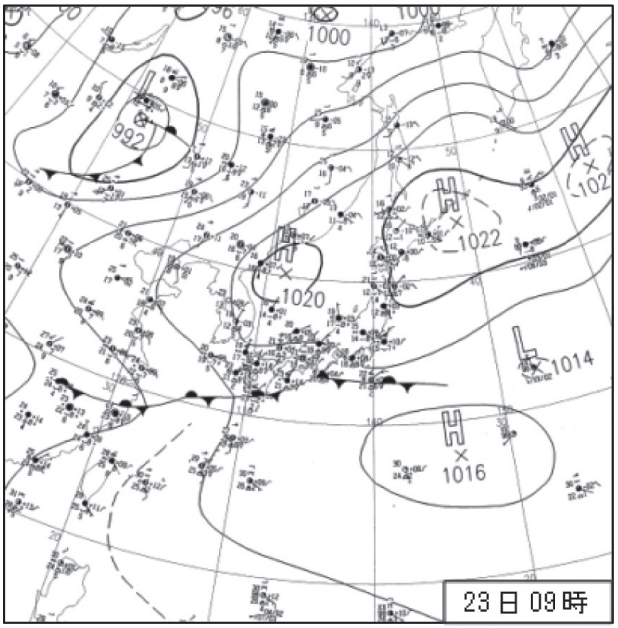


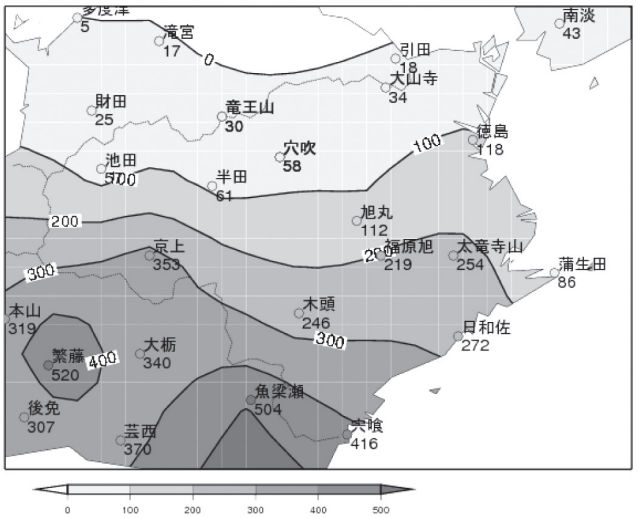


総降水量（mm）

喰町船津地区 27 世帯が孤立。県道芥付海部宍喰線山腹崩壊により宍喰町小谷地区 16 世帯孤立及び停電，河川の氾濫：宍喰川，宍喰町八山地区，母川，海部町。農作物被害:135ha（ニンジン，キュウリ，トマト，レタス他），被害額 26,700 万円。畜産物被害：ブロイラー 11,000 羽冠水により溺死，600 万円。農林水産業施設被害:279,300 万円，復旧費込み。公共土木施設被害 258,525 万円，復旧費込み。鉄道牟岐線阿南－牟岐間上下 7 本が運休。高速船徳島－大阪 16 日 20 便欠航。徳島－和歌山 16 日最終上下 2 便欠航。航空便徳島－大阪 16 日 2 便欠航。参考資料：佐喜浜有義波高 05 時 1.96m06 時 2.03m09 時 2.67m

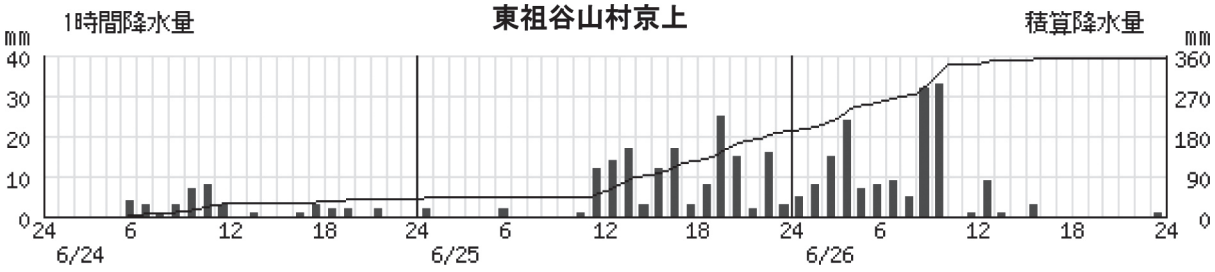
1998 年（平成 10 年）6 月 24 日～ 27 日　大雨（梅雨前線　暖気の移流）

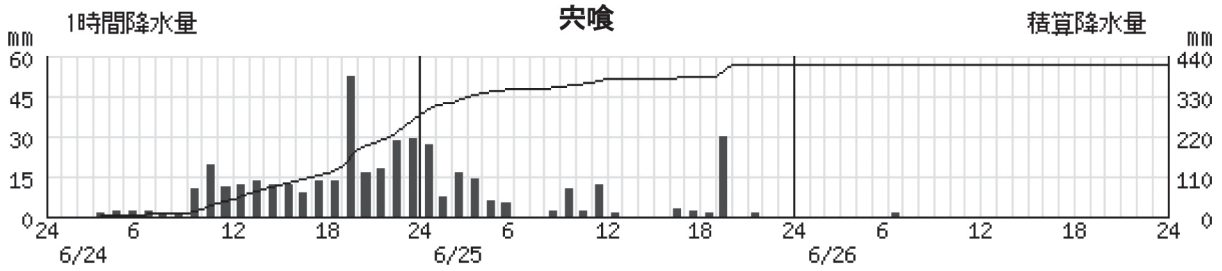




総降水量（mm）

四国の南海上の梅雨前線が活動を強めながら北





上し，南から暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定になった。そのため，県南部を中心に大雨となった。

24 日から 26 日にかけての総降水量は宍喰で 416㎜，東祖谷山村京上で 353㎜を観測した。また，宍喰では 24 日 20 時 00 分までの 1 時間に 52㎜の非常に激しい雨を観測した。

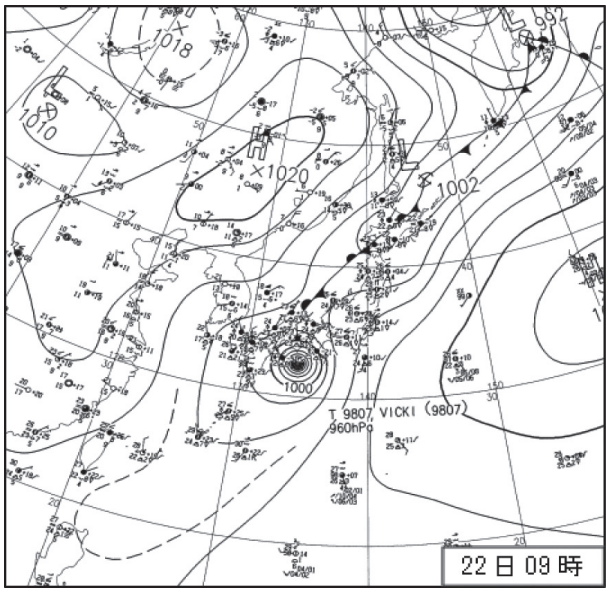
【災害概況】

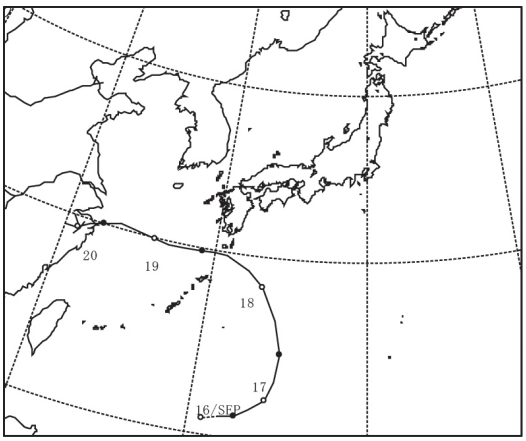
山腹崩壊：8 箇所，路肩決壊：1 箇所，土砂流出：2 箇所

交通規制 24 日～ 26 日：道路冠水 4 箇所，潜水橋冠水 8 箇所，異常気象 8 箇所，鉄道 25 日牟岐線 2 本運休

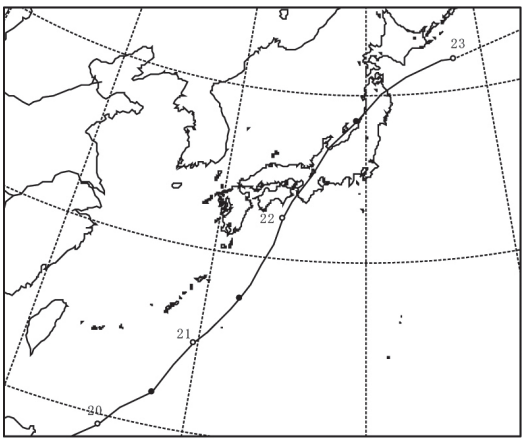
1998 年(平成 10 年)9 月 18 日～ 22 日　大雨　波浪　強風(台風第 6 号　第 7 号　第 8 号 暖気の移流)

18 日は台風第 6 号が日本の南海上から北西進し，種子島付近から西進したため，南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が不安定となった。21 日は台風第 8 号が紀伊半島の南海上から北上し，16 時前和歌山県田辺市付近に上陸，紀伊半島東部を北上し日本海に進んだ。22 日は台風第 7 号が室戸岬の南海上から北東進し，13 時過ぎに和

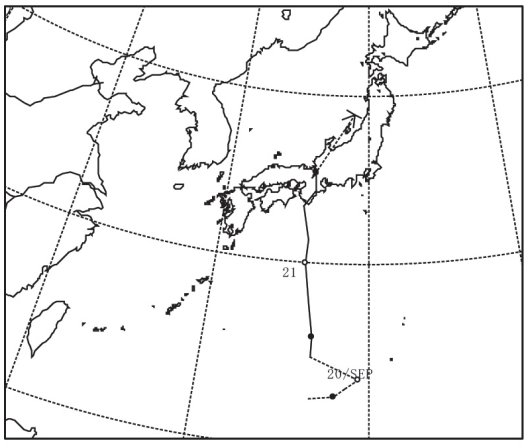




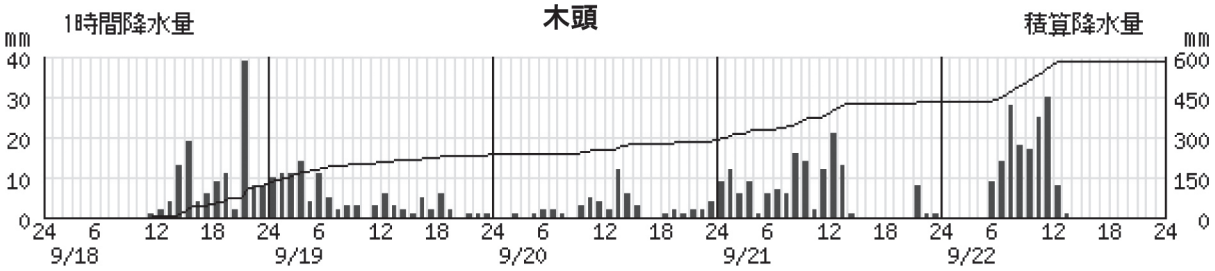
台風第 6 号　経路図

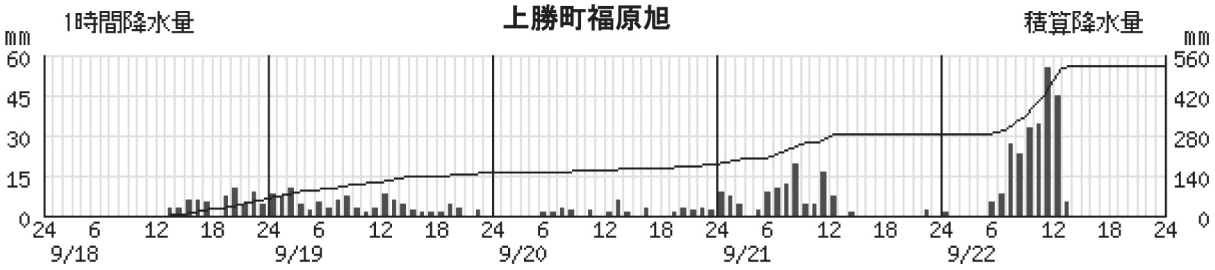


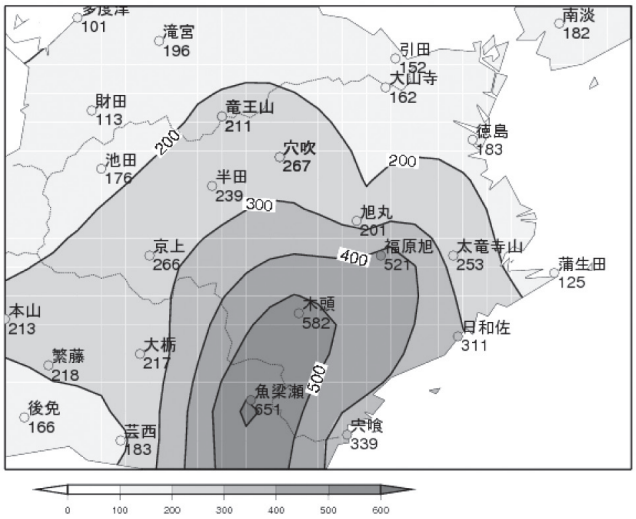
台風第 7 号　経路図



台風第 8 号　経路図







総降水量（mm）

歌山県御坊市付近に上陸，近畿・北陸地方を縦断し日本海に進んだ。一連の台風により徳島県では長期間にわたって雨が降り続き大雨となった。

18 日から 22 日にかけての総降水量は木頭で 582㎜，上勝町福原旭で 521㎜を観測した。また，日和佐では 22 日 13 時 00 分までの 1 時間に 92㎜の猛烈な雨を観測した。最大風速は日和佐で 22 日 12 時 00 分に北西の風 16m/s，最大瞬間風速は徳島市で 22 日 12 時 14 分に北の風 29.6m/s を観測した。

【災害概況】

負傷者：2，羽ノ浦町・由岐町。家屋破損：11 棟，小松島市・鳴門市・阿南市・由岐町・穴吹町・山川町・半田町。床上浸水：102 棟，阿南市を中心に 7 市町村。床下浸水：735 棟，阿南市を中心に 18 市町村。停電：8,623 世帯，2 市 3 郡。交通規制：国道 4 路線 17 箇所・県道及び主要道 30 箇所自動車道。鳴門･淡路及び徳島自動車道一時通行止め。高速船徳島関西空港ライン･南海徳島シャトルライン全便欠航。南海フェリー 18 便欠航，早朝の 6 便運航。高速バス徳島－高松間及び徳島阪神間 11 時から 17 時運休。一般路線バス 12 時から 16 時運休・徳島佐那河内及び徳島勝浦町全便運休。鉄道：徳島本線 26 本･鳴門線 11 本･牟岐線 30 本･高徳線 34 本運休。航空便：東京線 5 便･大阪線 10 便･名古屋線 3 便･福岡線 1 便欠航。農林水産施設：371 箇所 2,518,000 千円。公共土木施設：道路 218 箇所･河川 233 箇所･橋梁 2 箇所･砂防 2 箇所。地すべり防止施設 1 箇所･崖崩れ 2 個所 2,855,710 千円。農産被害 406,000 千円，畜産被害 1,000 千円。商工被害 6,260 千円。合計 5,786,970 千円。

1998 年（平成 10 年）9 月 24 日～ 30 日　大雨　波浪（台風第 9 号 停滞前線 暖気の移流）

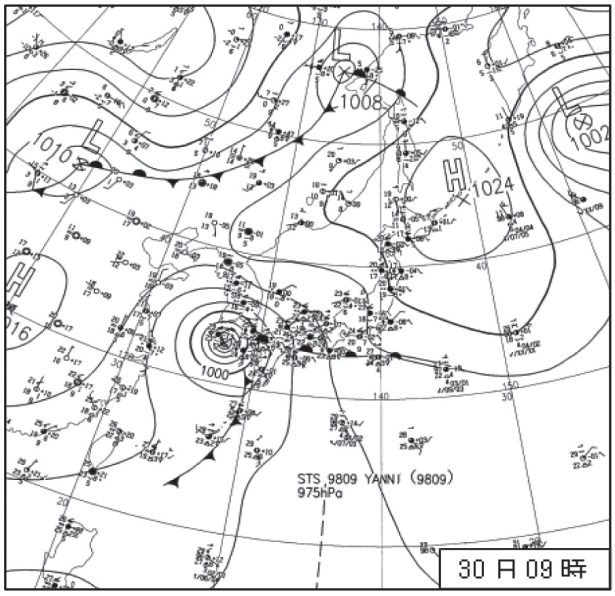
24 日から 29 日にかけて秋雨前線が四国付近に停滞，30 日は台風第 9 号が九州西方海上を北上し朝鮮半島南部に上陸した。この前線や台風に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み，徳島県では全域で長期間にわたって大雨となった。

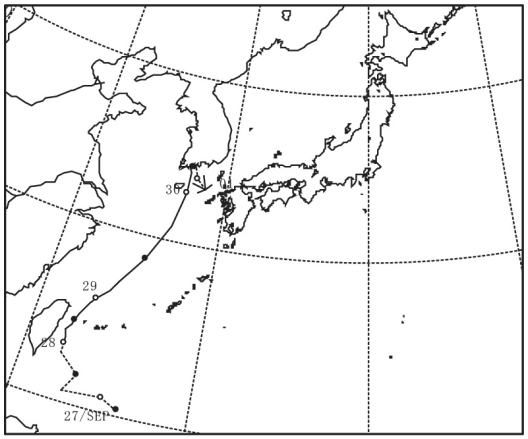
24 日から 30 日にかけての総降水量は上勝町福原旭で 530㎜，東祖谷山村京上で 386㎜を観測した。

【災害概況】

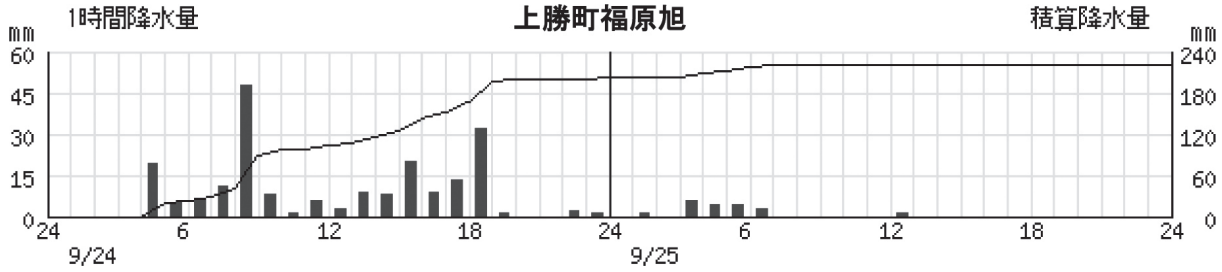
浸水：24 日，床上浸水 6 棟・床下浸水 8 棟。小松島市中田。山腹崩壊：24 日，海部郡由岐町東

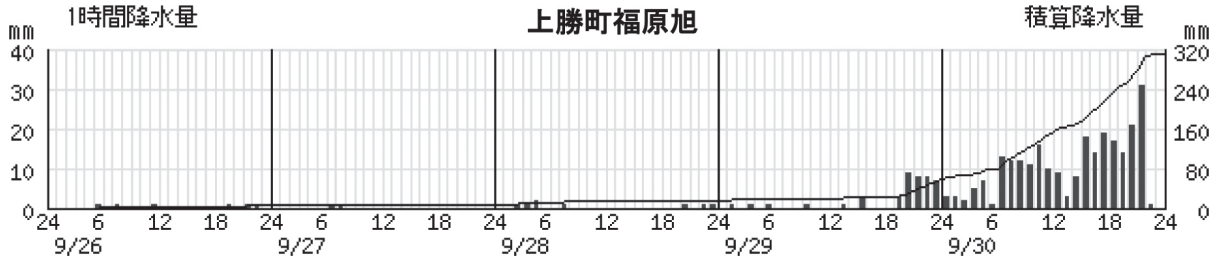
由岐地区コンクリート製壁に落石がたまり砂防壁の崩壊の危険。自主避難：5 世帯。那賀郡木沢村県道木沢上那賀線小畠土砂崩れ 26 世帯孤立。通行規制：24 日，那賀郡・三好郡・海部郡などで 26 個所。25 日，那賀郡・美馬郡・名西郡などで 17 個所。交通機関：鉄道 24 日，土讃線高知市布師田で鉄道土台 50m 流出，他十数個所で土砂が流入。大豊高知間不通，阿波池田から高知間代替えバスを運行，全面復旧に 3 か月以上必要。航空便：24 日，東京線 3 便・大阪線 3 便欠航。30 日，東京線 2 便欠航。高速船：30 日，関空ライン 2 便・南海シャトルライン 4 便欠航。

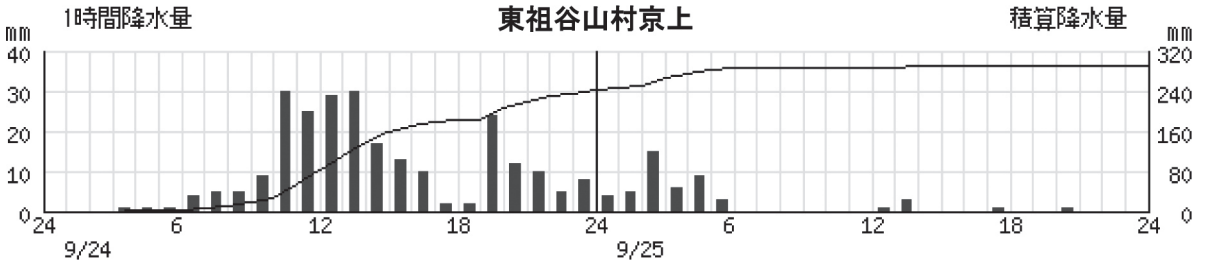


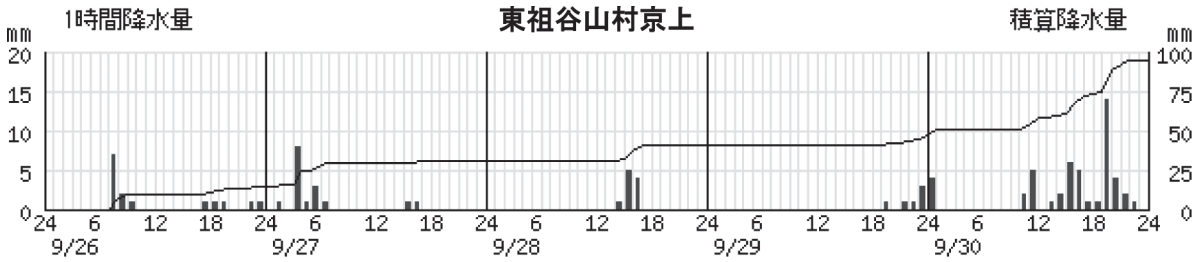


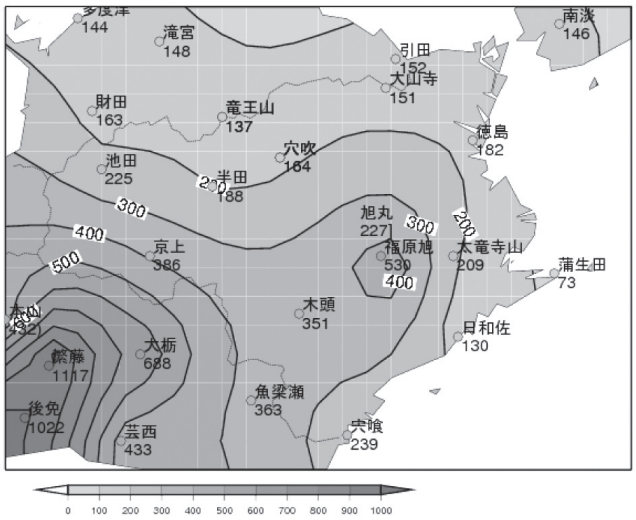
台風第 9 号　経路図





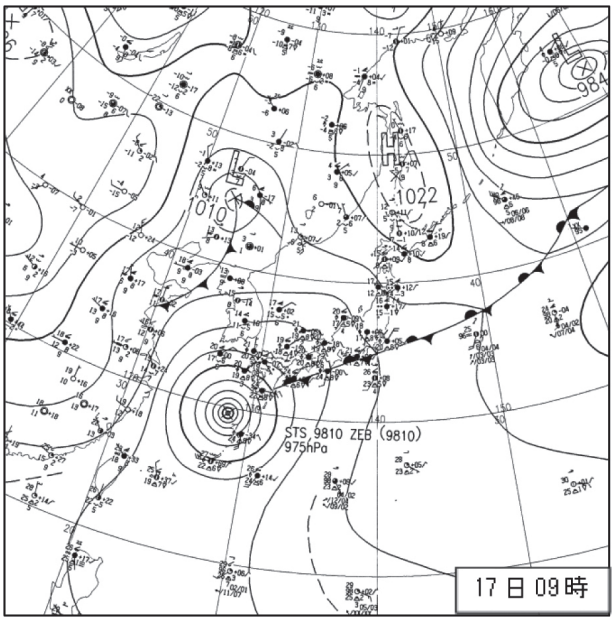




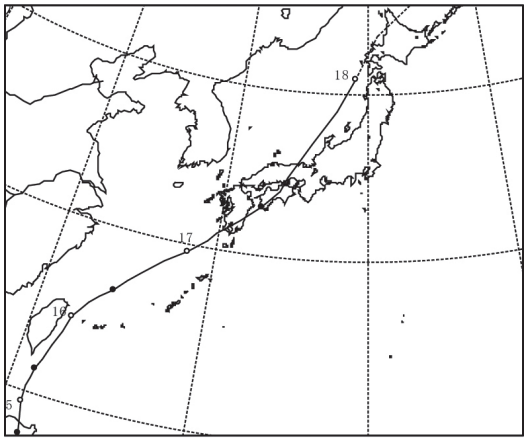


総降水量（mm）

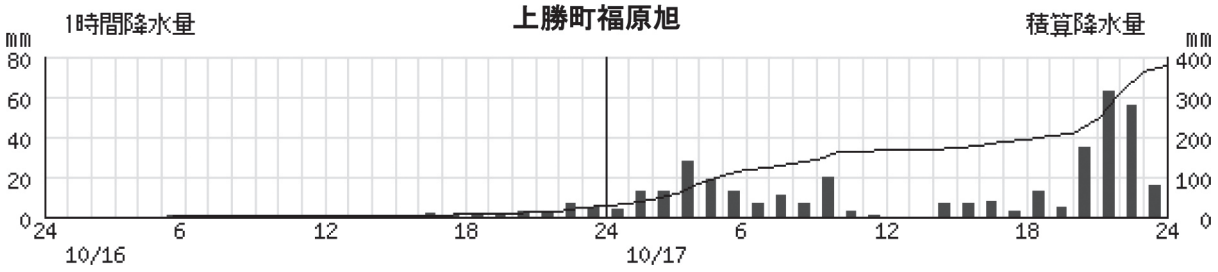
1998 年（平成 10 年）10 月 16 日～ 18 日　強風　大雨　波浪（台風第 10 号 停滞前線）

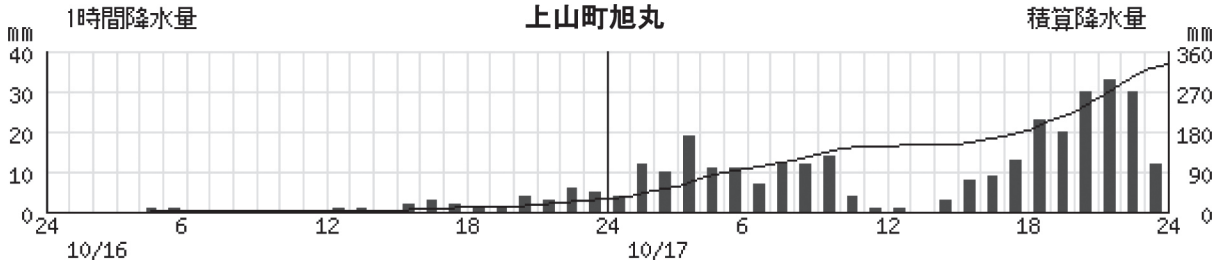


台風第 10 号は南西諸島の西海上から北東進し，17 日 16 時過ぎ鹿児島県枕崎市付近に上陸，17 日 21 時頃高知県宿毛市付近に再上陸し，徳島県西部



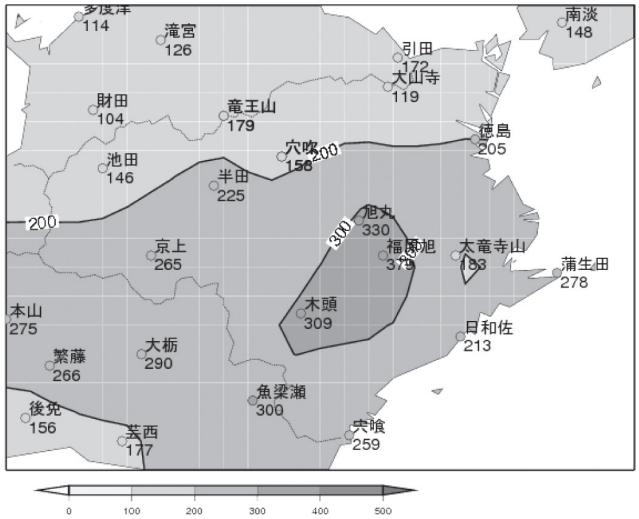
台風第 10 号　経路図





を通過後，岡山県に再々上陸した。徳島県に再接近したのは 17 日 23 時頃であった。このため徳島県では大荒れの天気となり，各地で暴風や大雨となった。

徳島市では最大風速が 17 日 23 時 20 分に南南東の風 22.3m/s，最大瞬間風速は 17 日 23 時 18 分に南南東の風 45.6m/s を観測した。また，16 日から 17 日にかけての総降水量は上勝町福原旭で 379㎜，神山町旭丸で 330㎜を観測した。



総降水量（㎜）

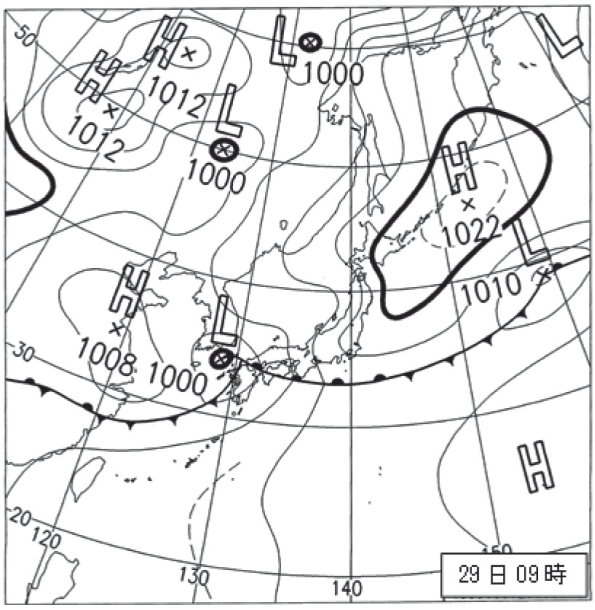
【災害概況】

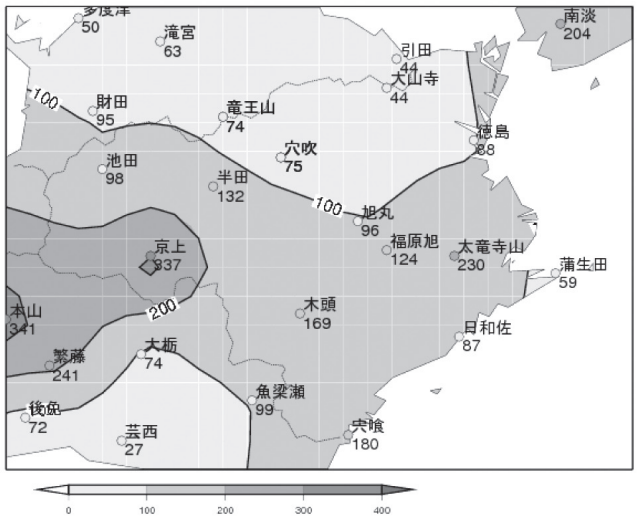
農林水産施設 51 個所：農地損壊・農道・畜産施設・林地・ビニールハウス等，71,160 万円。公共土木施設:道路 66 個所，河川 18 個所，砂防 1 個所，港湾 1 個所 58,570 万円。公共文教施設 3 個所，阿南市他 2 個所 3,000 万円。農産被害 880ha，県下ほぼ全域 66,600 万円。商工被害 27 件，看板・シャッター・屋根等の一部破損 493 万円。負傷者 1，鳴門市の女性窓硝子の破損により腕に軽症。家屋破損：半壊 3 棟，一部破損 57 棟。床下浸水 16 棟，自主避難 7 市町村 102 人。山腹崩壊：美馬郡穴吹町，徳島市一宮町・八万町。停電 19,660 世帯 12 市町村，電話不通 205 世帯穴吹町他 1。交通規制：国道県道等 52 個所，鳴門～淡路自動車道 17 日 22 時～ 18 日 01 時通行止め，徳島自動車道 17 日 21 時 20 分～ 18 日 01 時通行止め。交通機関:高速船徳島関空ライン 10 便欠航，南海シャトルライン 4 便欠航。南海フェリー 17 日 9 便，18 日 6 便欠航。高速バス：徳島阪神間 12 便運休 5 便足止め，一般路線バス一部運休。鉄道：牟岐線 32 本，阿波池田繁藤間 6 本，高徳線他 21 時 44 分以降運休。航空便：東京線 1，大阪線 1，名古屋線 2 便欠航。

1999年

[平成 11 年]

1999 年（平成 11 年）6 月 29 日～ 30 日　大雨　波浪（低気圧　梅雨前線）

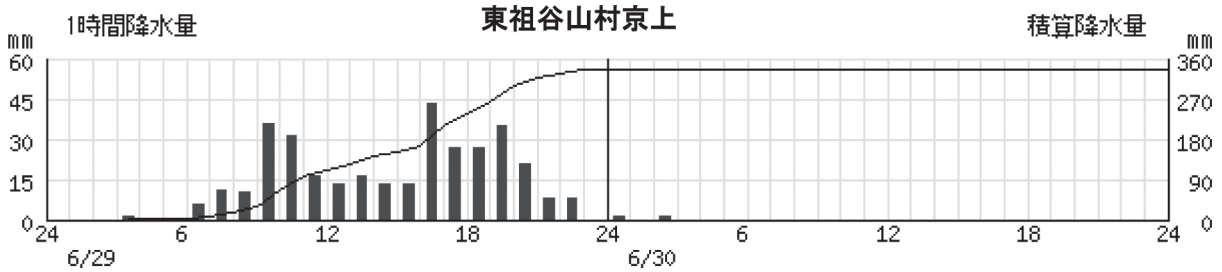


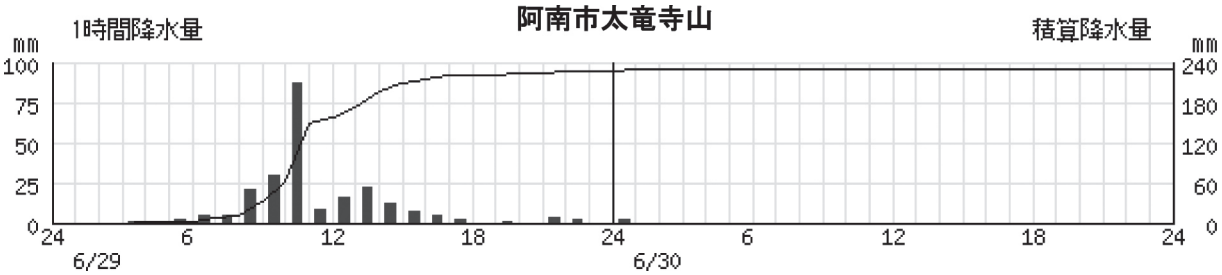


総降水量（mm）

梅雨前線上に発生した低気圧が29日から30日にかけて山陰沖を東北東に進み，南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で，大気の状態が不安定となり，徳島県では山地を中心に大雨となった。

29 日から 30 日にかけての総降水量は東祖谷山村京上で 337㎜を観測した。また，阿南市太竜寺山では 29 日 11 時までの 1 時間に 87㎜の猛烈な雨を観測した。





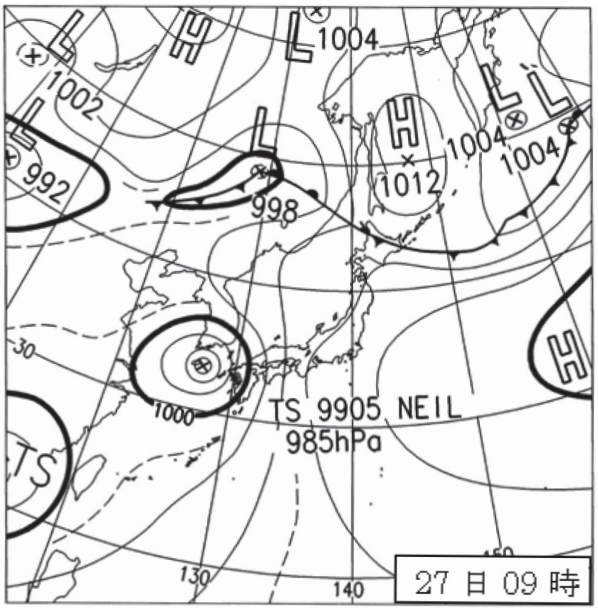
【災害概況】

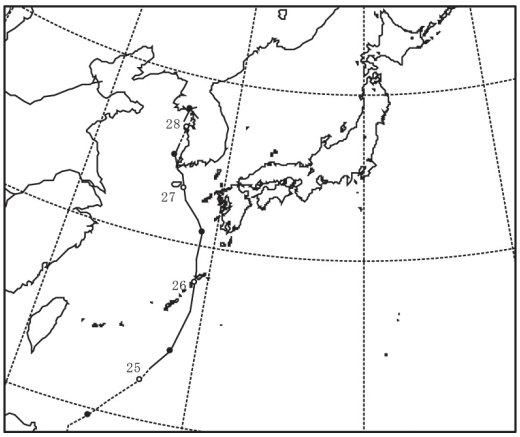
一部損壊:29 日 4 棟（山城町 3，西祖谷山村 1），浸水：29 日床上浸水 64 棟（阿南市 61，西祖谷山村 3），床下浸水 484 棟（2 市 4 町 1 村，阿南市 445，羽の浦町 22 他），氾濫 29 日桑野川，赤松川。山腹崩壊：29 日西祖谷山村善徳，県道山城東祖谷山線，阿南市阿瀬比町，阿瀬比峠，国道 195 号他。山腹崩壊落石等 17 箇所，通行規制 29 日 44 箇所（山腹崩壊落石等 19 箇所，異常気象 6 箇所，路肩決壊 4 箇所，道路冠水 5 箇所，潜水橋冠水 9

土砂に埋った民家と車（徳島新聞社提供）

箇所，路面陥没 1 箇所）。交通機関：JR29 日土讃線阿波川口駅－土佐山田駅間 08 時～ 15 時過ぎ運転休止，特急上下 27 本他計 62 本運休，21 時まで 19 本最大 8 時間の遅れ，牟岐線午前 11 時 30 分～ 14 時まで阿南－桑野間で上下 3 本運休。航空便 29 日大阪線上下 5 便，福岡線 1 便欠航。高速船 29 ～ 30 日関空ライン 10 便，南海シャトルライン 2 便欠航。被害額：農林水産施設農道，水路等 27 箇所 19,900 万円。公共土木施設：道路損壊 25 箇所，河川損壊 11 箇所 45,630 万円。農産被害：県南部（ケイトウ，ハウスミカン，枝豆，洋らん）5,550 万円，　商工被害 59 件 1,505 万円

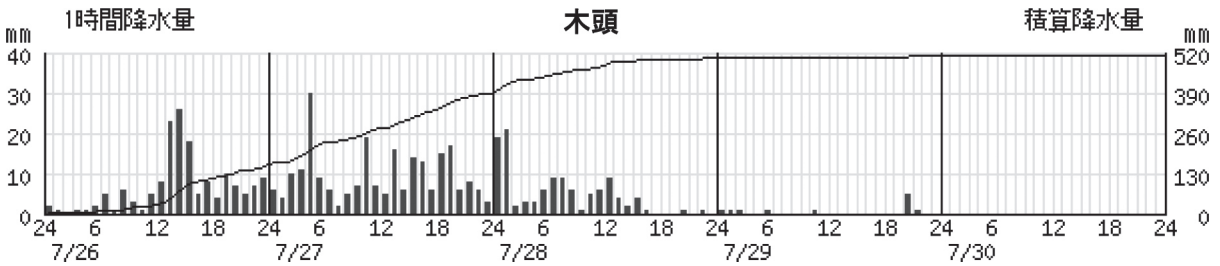
1999 年（平成 11 年）7 月 25 日～ 30 日　大雨　強雨　波浪（台風第 5 号 暖気の移流）





台風第 5 号　経路図

沖縄の南海上で発生した台風第 5 号が東シナ海を北上し，28 日には朝鮮半島西岸で弱い熱帯低気圧に変わった。台風を取りまく雨雲及び，太平洋高気圧の縁に沿って南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が不安定になり，発達した雨雲が次から次に流れ込み，山地を中心に大雨となった。



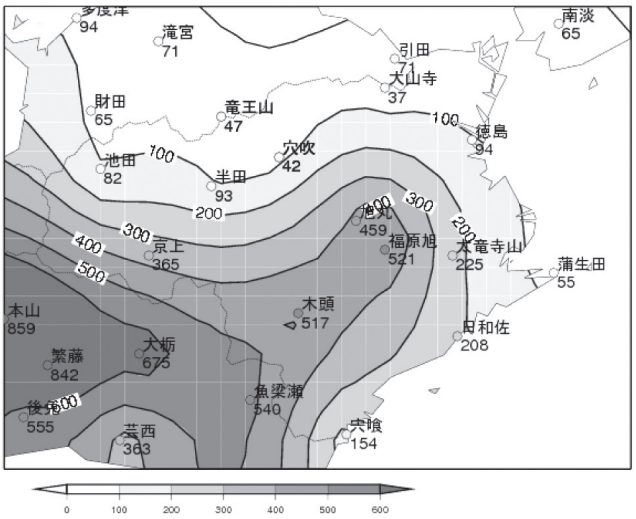
25 日から 30 日にかけての総降水量は，上勝町福原旭で 521㎜，木頭で 517㎜を観測した。また，最大瞬間風速は，徳島市で 27 日 18 時 04 分に南南東の風 26.5m/s を観測した。

【災害概況】

浸水：28 日床上浸水 2 棟（池田町，三好町昼間）。山腹崩壊：28 日海部郡宍喰町塩深（県道久尾

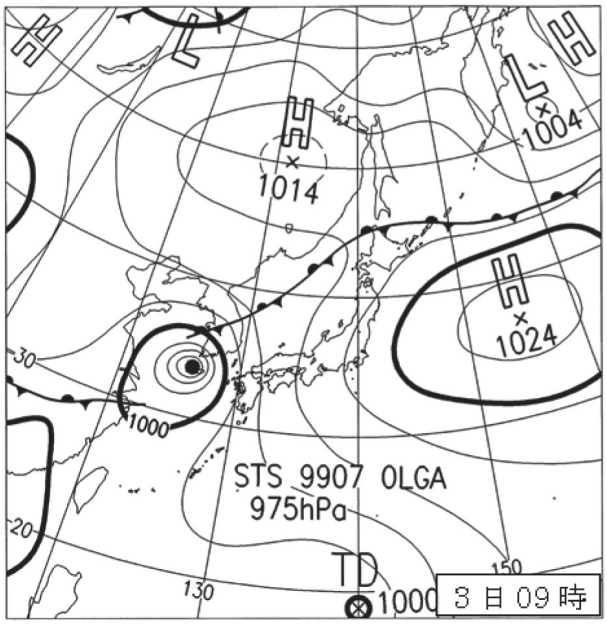
宍喰線），東祖谷山村名頃ダムの上 1km（国道 439 号）。潜水橋破損 30 日名西郡石井町覚円（徳島吉野線高瀬橋，30 日朝破損確認）。通行規制：27 ～ 29 日 36 箇所（山腹崩壊落石等 2 箇所，異常気象 16 箇所，潜水橋冠水 8 箇所，路肩決壊 1 箇所，道路冠水 9 箇所）。交通機関：JR27 ～ 28 日土讃線阿波池田－土佐山田駅間 27 日 17 時過ぎから 28 日 13 時 20 分，28 日 17 時から 21 時 45 分まで 56 本運休。高速船 27 ～ 28 日関空ライン・南海シャトルライン全便欠航。

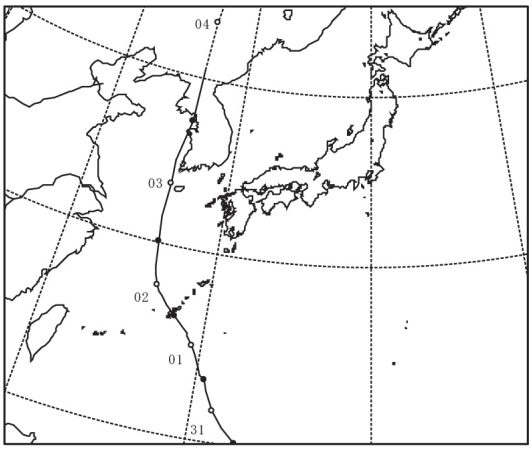
被害額：公共土木施設　道路破損 2 箇所，橋梁 2 箇所，河川破損 2 箇所 25,895 万円，商工被害 1 件 50 万円



総降水量（mm）

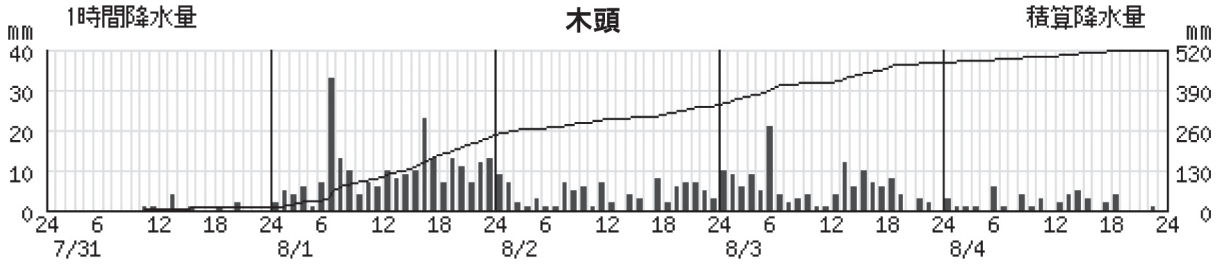
1999 年（平成 11 年）7 月 31 日～ 8 月 4 日　大雨（台風第 7 号　暖気の移流）




台風第 5 号　経路図

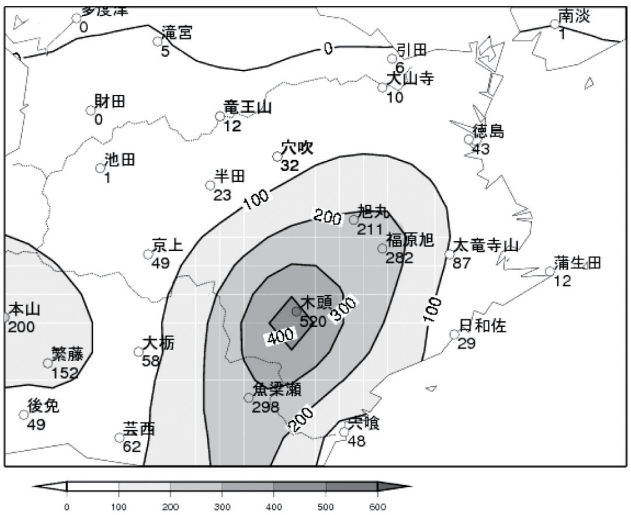
フィリピンの東海上で発生した台風第 7 号は 2 日に沖縄付近を通過し，3 日朝鮮半島に上陸後，4 日には弱い熱帯低気圧に変わった。台風を取りまく雨雲及び，太平洋高気圧の縁に沿って南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が不安定になり，徳島県では南東斜面を中心に大雨となった。

7 月 31 日から 8 月 4 日にかけての総降水量は，木頭で 520㎜，上勝町福原旭で 282㎜を観測した。



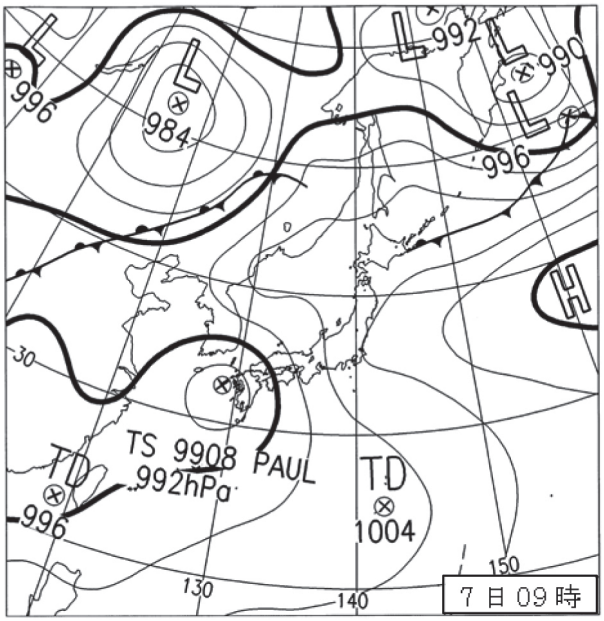
【災害概況】

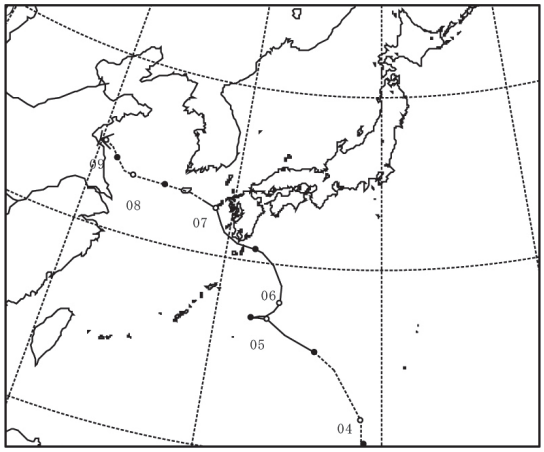
山腹崩壊：1 日 15 時 30 分頃，那賀郡上那賀町大殿（国道 195 号）土砂 400㎥



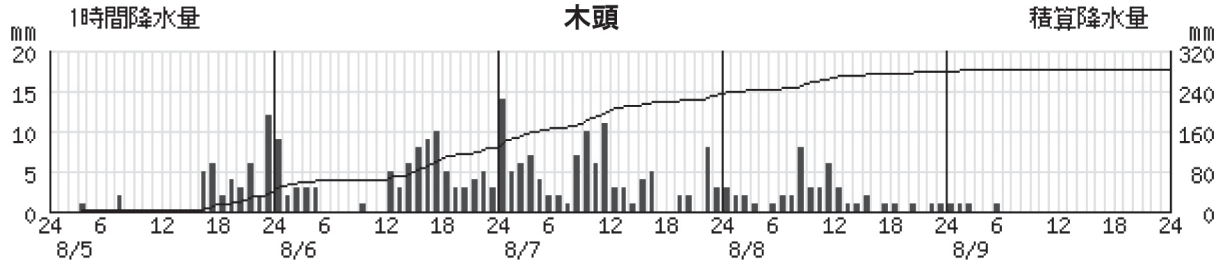
総降水量（mm）

1999 年（平成 11 年）8 月 5 日～ 9 日　大雨　波浪（台風第 8 号　暖気の移流）



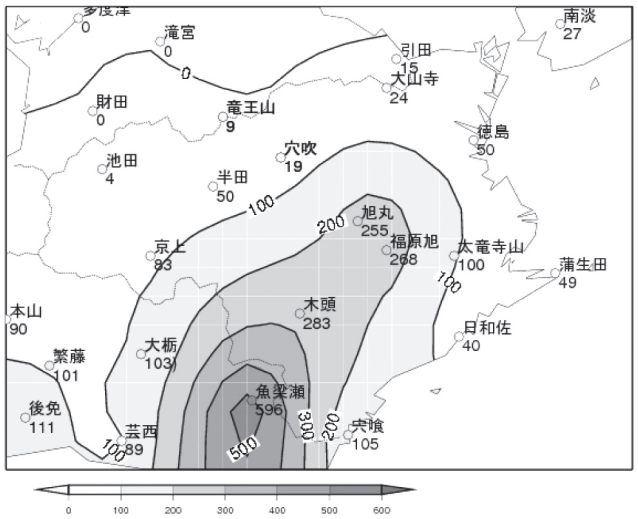


台風第 8 号　経路図



日本の南海上で発生した台風第８号が四国の南海上を北上，７日 00 時頃，鹿児島県枕崎市付近を通り，７日 12 時に九州の西海上で弱い熱帯低気圧に変わった。台風を取りまく雨雲及び太平洋高気圧の縁に沿って南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が不安定になり，徳島県では南東斜面を中心に大雨となった。

５日から９日にかけての総降水量は木頭で 283㎜を観測した。

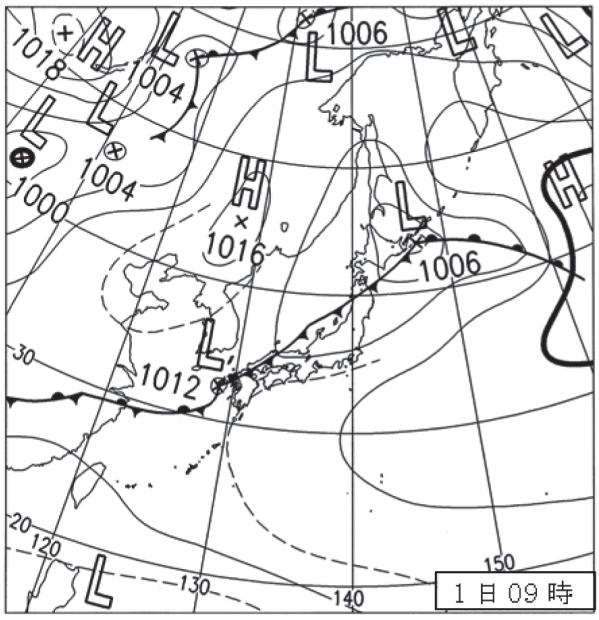


総降水量（㎜）

【災害状況】

山腹崩壊：７日 10 時 15 分頃，那賀郡木沢村小畠（県道木沢上那賀線）高さ 30m，長さ 15m，土砂 100㎥，37 世帯 93 人孤立，７日 18 時 55 分頃，三好郡東祖谷山村京上（村道下浦京上線），７日 09 時 30 分，美馬郡木屋平村コリトリの西 10㎞（国道 435 号）高さ 10m，長さ 40m。船舶転覆：６日 12 時 30 分頃，鳴門市撫養港入り口付近で第５管区海上保安部徳島航路標識事務所の灯台見回り船「まつひかり 26t」大波を受け傾き，次の波で転覆，１回転し元の状態に戻る負傷者なし。交通機関：高速船６日関空ライン上下２便，南海シャトルライン上下２便欠航，７日関空ライン上下６便，南海シャトルライン上下２便欠航，フェリー：６日南海フェリー上下５便欠航，りんくうフェリー上下４便欠航。

1999 年（平成 11 年）９月１日　強風　雷雨（寒冷前線）



寒冷前線の通過に伴い，大気の状態が不安定となった。このため徳島県では発達した雷雲が吉野川沿いを東進し，局地的な強雨となり，突風を伴った。

最大瞬間風速は徳島市で 13 時 12 分に北西の風 19.9m/s を観測した。

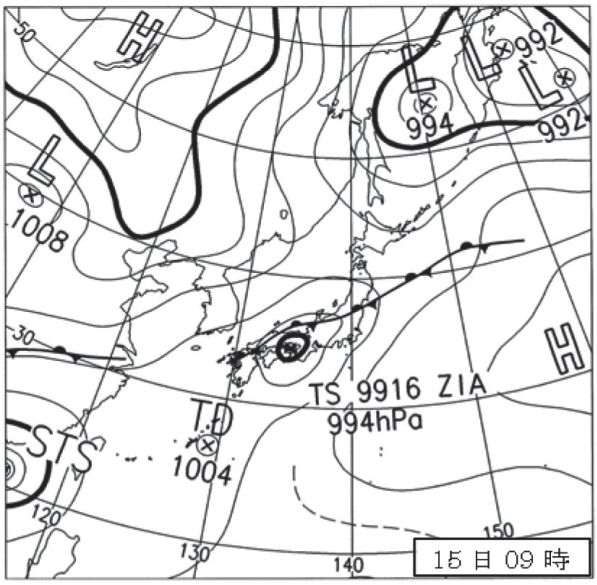
【災害概況】

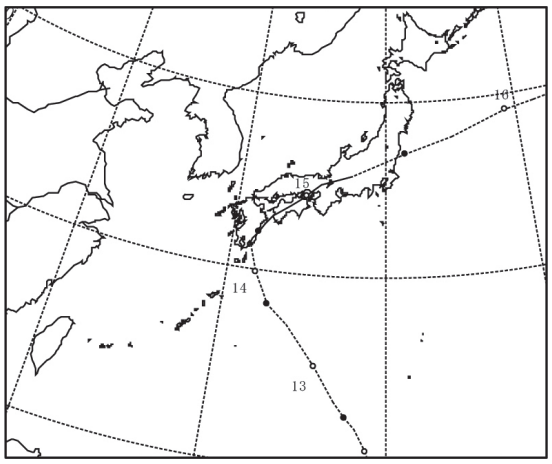
死傷者：１日 12 時 05 分頃，美馬郡貞光町字大須賀先，吉野川貞光河川敷きゲートボール場でパイプテント１張りが飛ばされて，テント支柱があたり１名が死亡，１名が軽症を負った。落雷火災：１日板野郡松茂町の民家アンテナに落雷，離れ 50㎡及び自宅２階 20㎡を焼損。停電：１日徳島市，阿南市を中心に 32,300 戸。電話不通：１日徳島市，鳴門市などで 97 件。

1999 年（平成 11 年）９月 14 日～ 15 日　大雨　波浪　雷（台風第 16 号　暖気の移流）

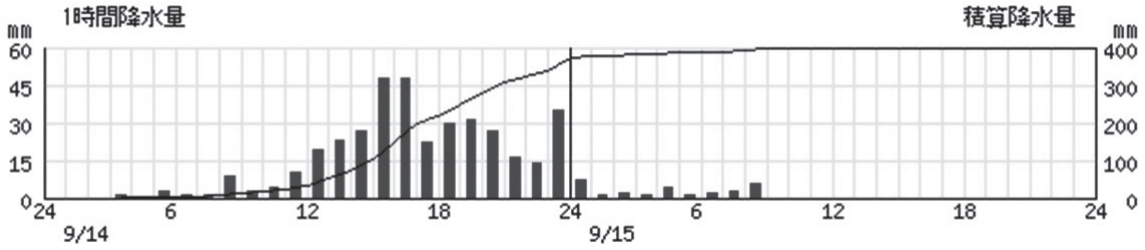
種子島近海で発生した台風第 16 号は，14 日 17 時頃，宮崎県南部に上陸した後，15 日 03 時頃，愛媛県宇和島市付近に再上陸し，四国を縦断して，15 日 10 時頃，兵庫県明石市付近に再々上陸した。徳島県では，台風を取りまく雨雲及び，太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり，山地を中心に大雨となった。

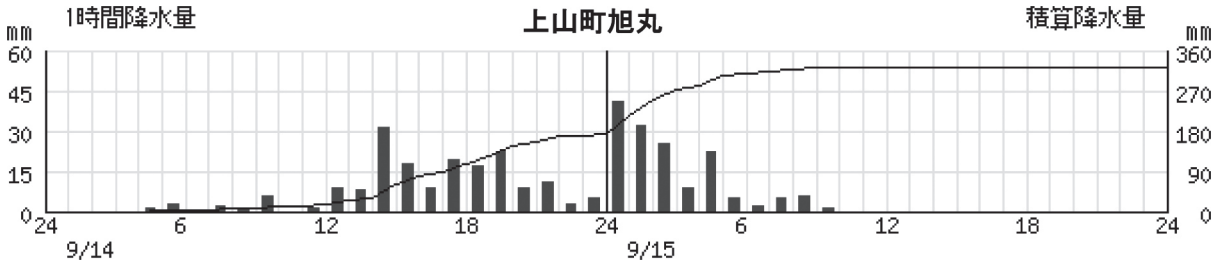
14 日から 15 日にかけての総降水量は木頭で 399㎜，神山町旭丸で 323㎜を観測した。また，徳島市では 15 日 07 時 24 分に南南東の風 22.5m/s の最大瞬間風速を観測した。





台風第16号　経路図

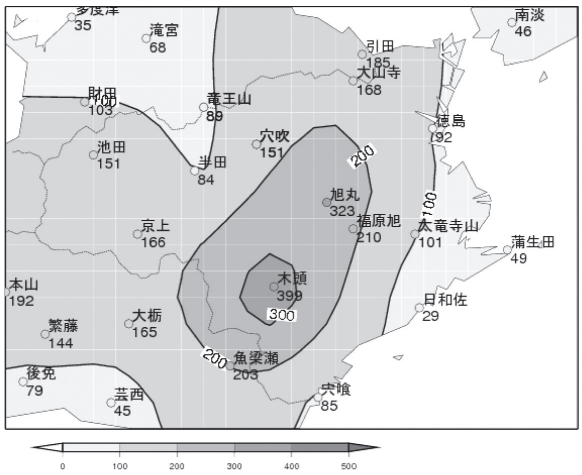




【災害概況】

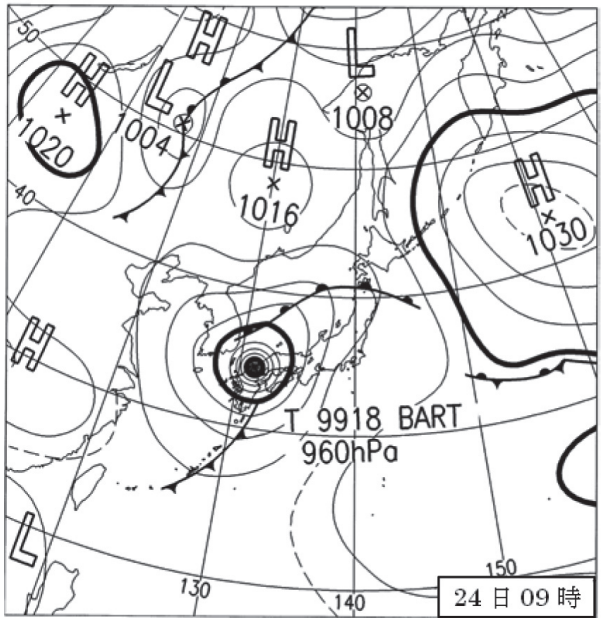
死傷者：14日19時30分頃，麻植郡山川町の増水したほたる川に乗用車が転落し2名が水死，1名は自力で脱出。

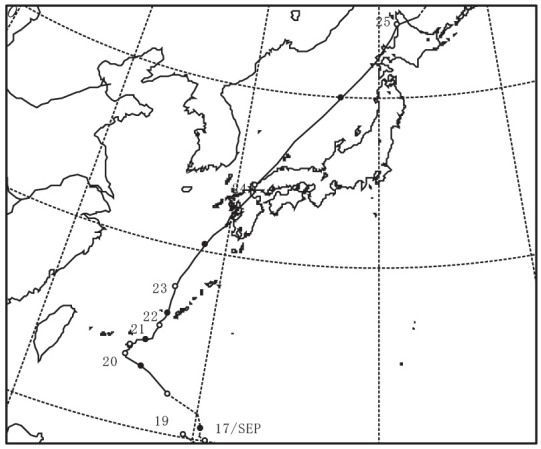
浸水：14日床上浸水1棟，阿波郡市場町，床下浸水1棟，麻植郡鴨島町。通行規制：14-15日19箇所（小落石1箇所，異常気象11箇所，潜水橋冠水7箇所），14日藍住－脇インター19時50分から約3時間通行止め，停電：14日那賀郡上那賀町で1,290戸が落雷のため約40分間停電。交通機関：JR14日高徳線徳島－引田16時10分－17時42分運休，徳島線鴨島－穴吹19時50分－深夜運休，15日土讃線阿波池田－土佐山田始発－15時徐行運転特急普通合わせて上下14本運休，高速船：14日関空ライン，南海シャトルライン一部欠航，15日関空ライン全便欠航，南海シャトルライン一部欠航，フェリー14日りんくうフェリー，南海フェリー午後の便一部欠航，15日りんくうフェリー，南海フェリー始発から6から10便欠航。



総降水量（mm）

1999 年（平成 11 年）9 月 23 日～ 24 日　大雨　強風　波浪（台風第 18 号）

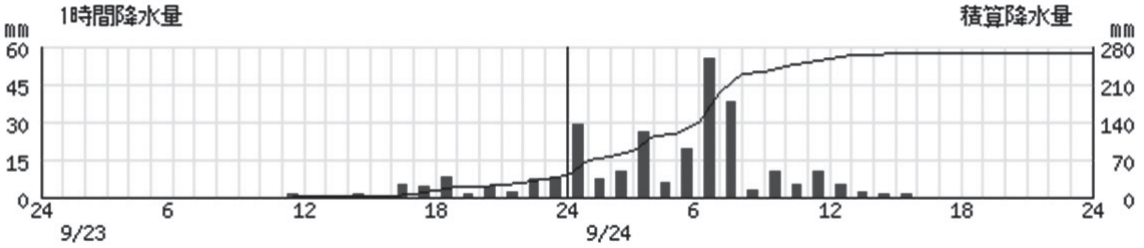


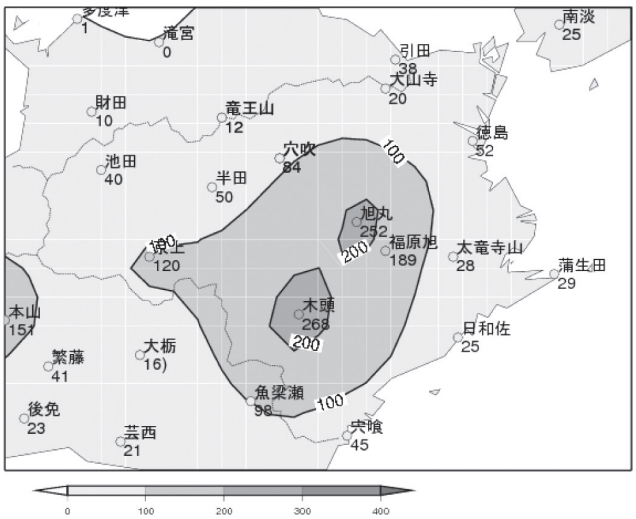


台風第 16 号　経路図

沖縄の南海上で発生した台風第 18 号は，発達しながら北上し，24 日 06 時頃，強い勢力のまま熊本県北部に上陸した後，24 日 09 時前に山口県宇部市付近に再上陸し日本海に進んだ。この台風により徳島県では荒れた天気となり，南東斜面を中心に大雨となった。

木頭では 23 日から 24 日にかけての総降水量 268㎜，24 日 07 時 00 分までの 1 時間に 55㎜の非常に激しい雨を観測した。また，徳島市では最大風速が 24 日 09 時 10 分に南の風 17.0m/s，最大瞬間風速が 24 日 10 時 26 分に南の風 32.7m/s を観測した。





総降水量（㎜）

【災害概況】

家屋の損壊 24 日美馬郡半田町，一部損壊 1 棟。山腹崩壊：24 日神山町大中尾岳人の森付近，三好郡池田町祖谷温泉北の小便小僧から北 1㎞，三好郡東祖谷山村落合峠より 5㎞落合寄り長さ 10m，幅 3m，体積 30㎥。通行規制：24 日 28 箇所（山腹崩壊・落石等 4 箇所，異常気象 15 箇所，潜水橋冠水 7 箇所，道路冠水 2 箇所），鳴門－淡路インター 07 時 40 分－ 14 時 45 分通行止め，停電：24 日 11,397 戸（勝浦郡羽ノ浦町など 2 市 9 町）倒木等による。交通機関：JR24 日土讃線，阿波池田－窪川 06 時 30 分－夕方運休鳴門線，鳴門－池谷 10 時 40 分から一時運転見合わせ。高速船:23 日関空ライン上下 8 便, 南海シャトルライン上下 5 便 24 日関空ライン，南海シャ

トルライン全便欠航，フェリー 23 日南海フェリー上下 2 便 24 日りんくうフェリー，南海フェリー全便欠航。高速バス 24 日 115 本運休。航空機：24 日大阪線，福岡線全便，東京線 8 便，名古屋線 2 便欠航。農作物被害：77ha，4,400 万円，農業施設（阿南市他 4 町）1.9ha，600 万円。

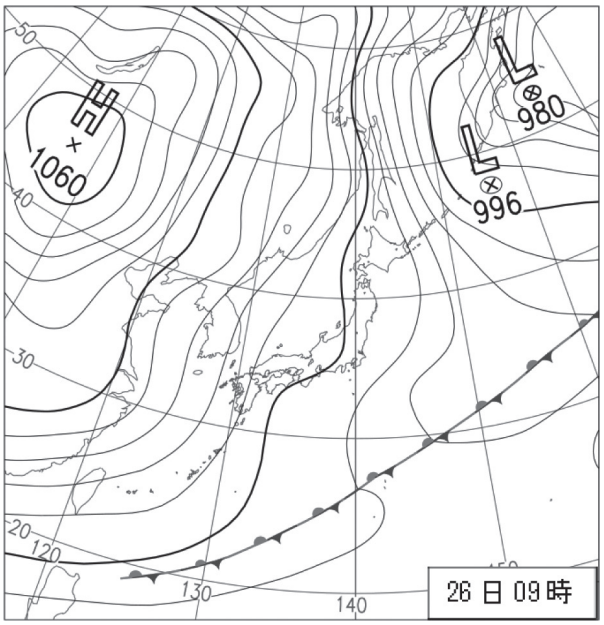
2000年

［平成 12 年］

2000 年（平成 12 年）1 月 26 日～ 27 日　大雪（寒気の移流）

冬型の気圧配置となり，強い寒気が流入し大雪となった。

27 日 09 時の積雪は，東祖谷山村京上 16cm，徳島市 3cm，池田 2cm，上勝町福原旭 2cmを観測した。



雪降る橋と凍る歩道（徳島新聞社提供）

【被害状況】

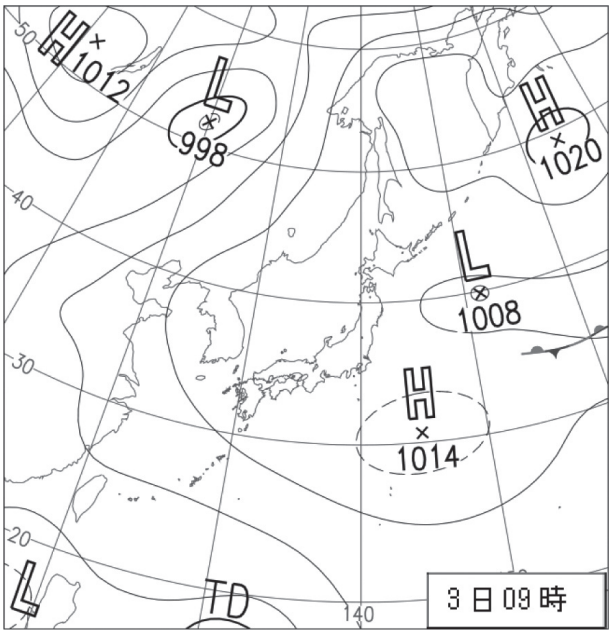
鉄道：27 日 JR 土讃線大歩危トンネル付近で保守用作業車 5 両のうち 2 両が積雪のため脱線，特急 4，不通 1 本が運休，8 本が遅延

航空便：27 日翼の除雪作業のため東京便 2 便に遅れ

道路:27 日通行止め，末広大橋 05 時 30 分から，午前中。渋滞，国道 11 号徳島市方面行き 10km 以上，国道 55 号徳島市方面行き 15－20km，国道 192 号徳島市方面行き 5－7km

臨時休校：27 日小学校 1 校，中学校 2 校，高等学校 5 校（12 校が授業開始時刻を遅らす）

2000 年（平成 12 年）7 月 3 日～ 4 日　雷雨　ひょう（あられ）（上空の寒気）

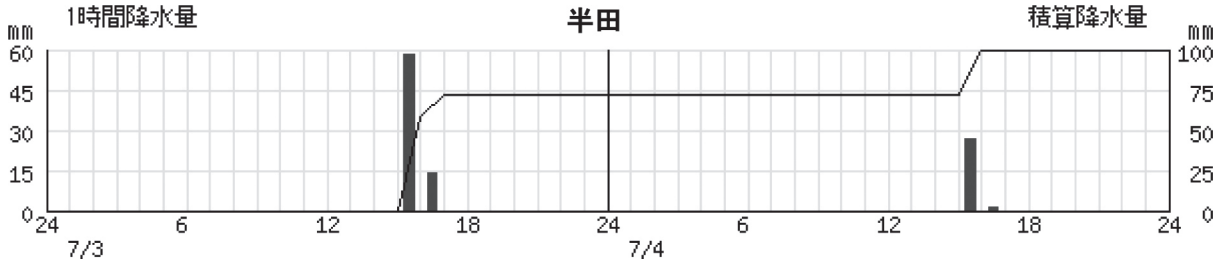


上空に寒気が流れ込み大気の状態が不安定となり山地で雷雨となった。4 日 15 時 30 分頃，美馬郡一宇村役場付近で 10 数分間，直径 1 ～ 3cmのひょうが降った。

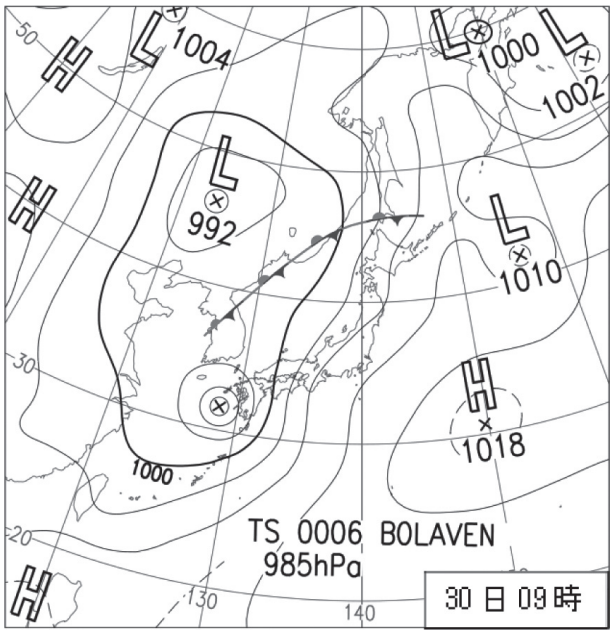
半田では 3 日 16 時 00 分までの 1 時間に 58㎜の非常に激しい雨を観測した。

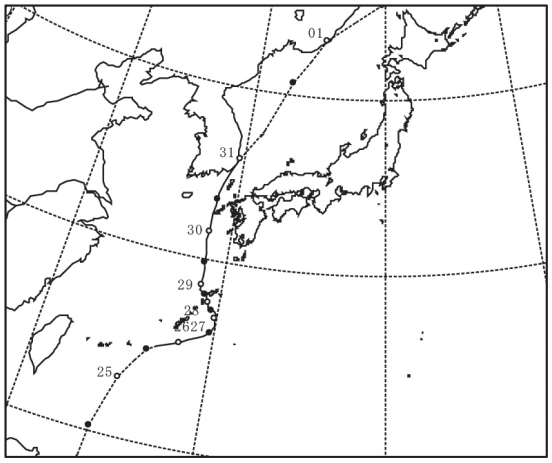
【災害概況】

3 ～ 4 日農作物被害，［葉たばこ］半田町，三加茂町，「葉折れ」，傷 0.8h，200 万円。［柿］一宇村，「傷果」1.8ha，400 万円。［茶］一宇村，「葉折れ」，傷 2.0ha，100 万円。



2000 年（平成 12 年）7 月 27 日～ 8 月 3 日　大雨　強風　波浪（台風第 6 号）

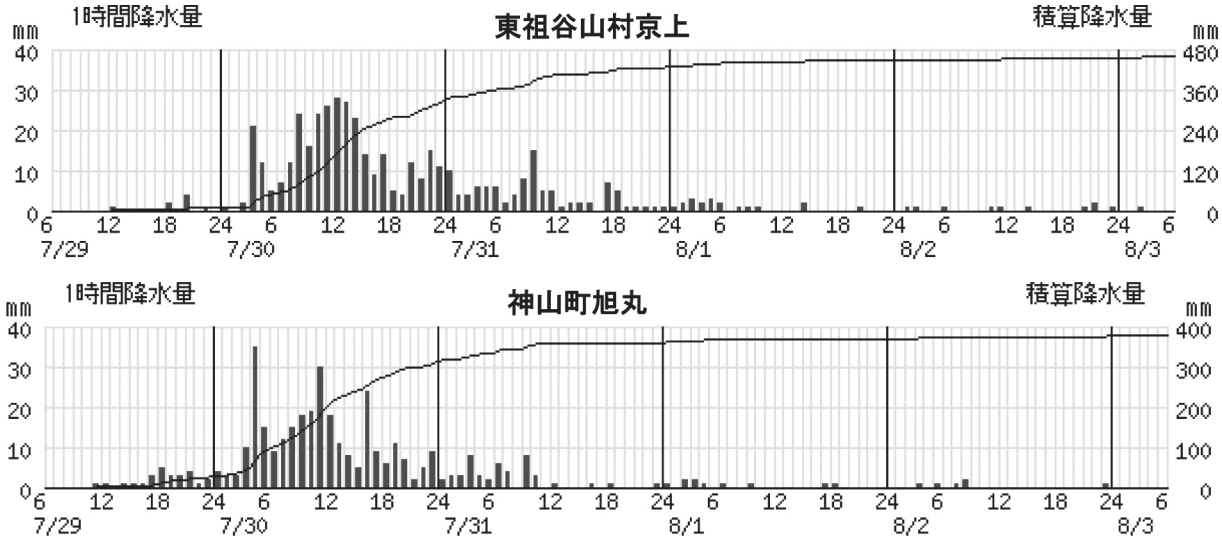




台風第 6 号　経路図

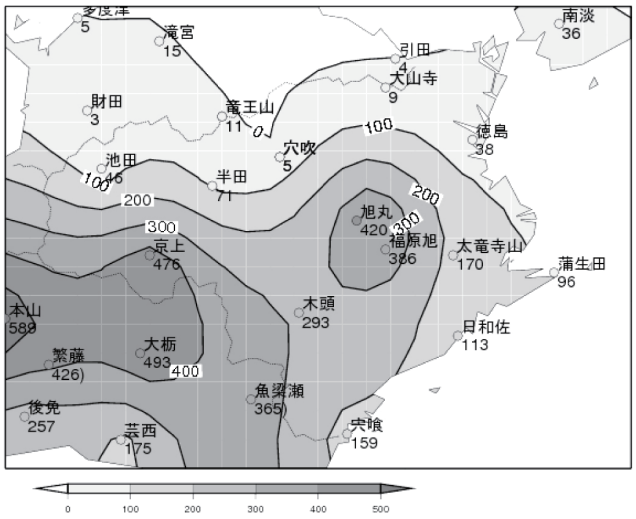
台風第 6 号が 29 日から 30 日にかけて九州の西海上を北上し，日本海を北北東に進んだ。この台風の影響で，南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が不安定となり山地を中心に大雨となった。

7 月 27 日から 8 月 3 日までの総降水量は，東祖谷山村京上で 476㎜，神山町旭丸で 420㎜を観測した。また，徳島市では最大瞬間風速が 30 日 05 時 19 分に南東の風 24.6m/s を観測した。



【災害概況】

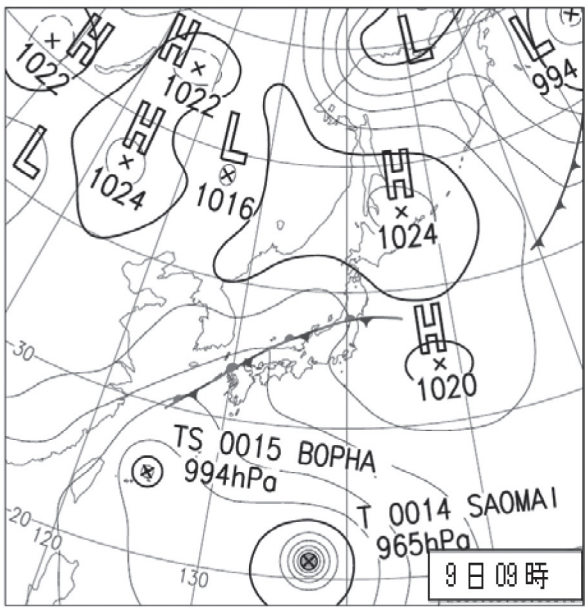
7 月 27 日～ 8 月 3 日山腹崩壊等：28 日国道 195 号，那賀郡上那賀町大戸（重さ 10t トンの巨岩落下）（落石の原因は 23 日上那賀町で震度 4 地震と雨による）。30 日国道 193 号，海部郡海南町平井林道分岐点より 600m 霧越峠側，延長 15m，高さ 5m，幅 4m。30 日県道徳島上那賀線，那賀郡木沢村掛盤，

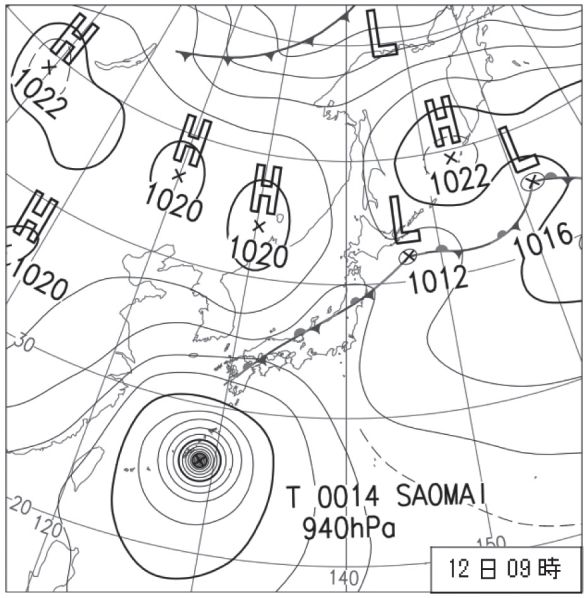


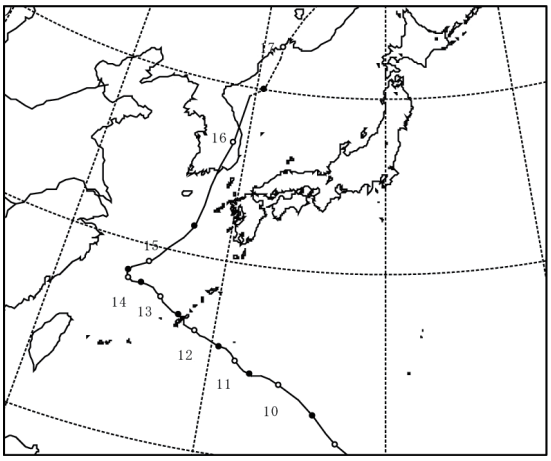
総降水量（mm）

道路 50m に渡って落石倒木数本。30 日国道 193 号，那賀郡上那賀町上海川，延長 10m，体積 30 m³。31 日県道木沢上那賀線，那賀郡木沢村新居田。通行規制：7 月 30 日～ 8 月 3 日 20 箇所（山腹崩壊落石等 4 箇所，潜水橋冠水 9 箇所，異常気象 7 箇所）。公共土木施設被害：河川 4 箇所 2,600 万円，砂防施設 1 箇所 1,500 万円，道路 56 箇所 67,500 万円。農林水産業被害：林道 5 箇所 5,700 万円。高速船：30 日，南海徳島シャトルライン全便欠航。31 日，南海徳島シャトルライン上下 6 便欠航。フェリー：30 日，南海フェリー上下 11 便欠航。31 日，南海フェリー上下 5 便欠航。

2000 年（平成 12 年）9 月 8 日～ 16 日　大雨（台風第 15 号　第 14 号　暖気の移流　秋雨前線）





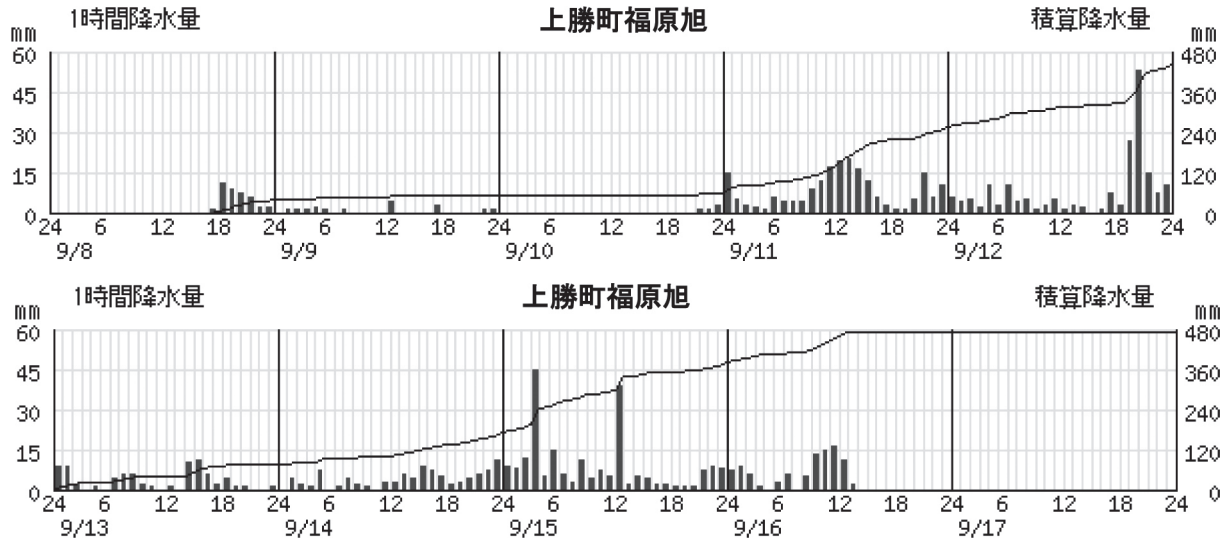


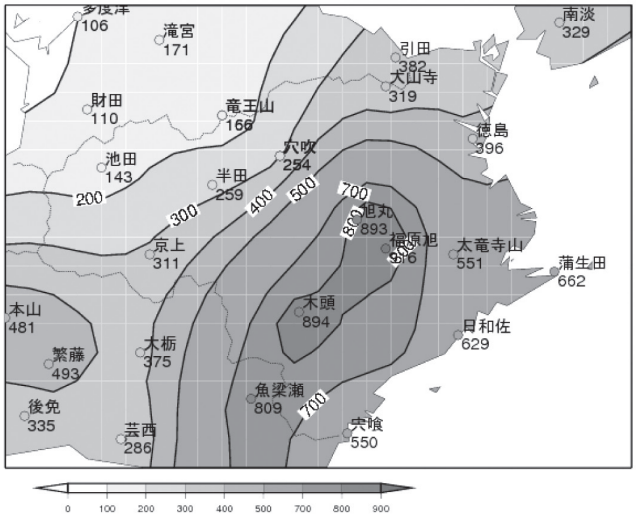
台風第 14 号　経路図

8 日に沖縄の南にあった台風第 15 号は西進し，9 日には宮古島の北へ達した。また，11 日に沖縄の東海上にあった台風第 14 号は，13 日から 15 日にかけて東シナ海から九州の西海上を北上し，16 日朝鮮半島に上陸した。一方，西日本には秋雨前線が停滞しており，二つの台風の影響で，前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み前線の活動が活発になり，8 日から 16 日にかけて県下全域で大雨となった。

8 日から 16 日にかけての総降水量は上勝町福原旭で 916㎜，木頭で 894㎜，神山町旭丸で 893㎜を観測した。

日降水量は 11 日に阿南市蒲生田で 464㎜を観測した。また，徳島市では最大瞬間風速が 16 日 09 時 10 分に南東の風 25.0m/s を観測した。





総降水量（mm）

【災害概況】

9 月 8 ～ 16 日，住家一部損壊：12 日 1 棟美馬郡貞光町端山，非住家一部損壊：12 日 1 棟，阿南市椿泊町東，床上浸水：12 日 3 棟阿南市伊島，富岡，床下浸水:12 日 28 棟，阿南市伊島，富岡，宝田，日和佐町北河内。山腹崩壊：11 日阿南市椿泊町東，裏山崩壊，空き家に土砂流入，付近住民自主避難 5 世帯 11 人，15 日那賀郡木頭村折宇，16 日美馬郡貞光町井折，通行規制：11 ～ 16 日 26 箇所（延べ 44 箇所，山腹崩壊落石等 5 箇所，潜水橋冠水 18 箇所，異常気象 21 箇所）。公共土木施設被害：河川 39 箇所，道路 102 箇所，被害額 16 億 9,870 万円。農林水産業被害：農地崩壊等 9 箇所，農道損壊 3 箇所，水路損壊 1 箇所，林地山腹崩壊 5 箇所，林道法面崩壊 15 箇所，被害額 44,900 万円。鉄道 11 ～ 12 日一部運休，見合わせ，速度規制。

2000 年（平成 12 年）10 月 6 日　地震

13 時 30 分に鳥取県西部(35゜16.4′ N　133゜20.9′ E)の深さ 9km を震源とするマグニチュード 7.3 の地震が発生。この地震により，鳥取県の境港市・日野町で震度 6 強，米子市・日吉津村・南部町・伯耆町で震度 6 弱を観測したほか，中国・四国地方を中心に関東地方から九州地方にかけて震度 5 強～ 1 を観測した（図 1）。

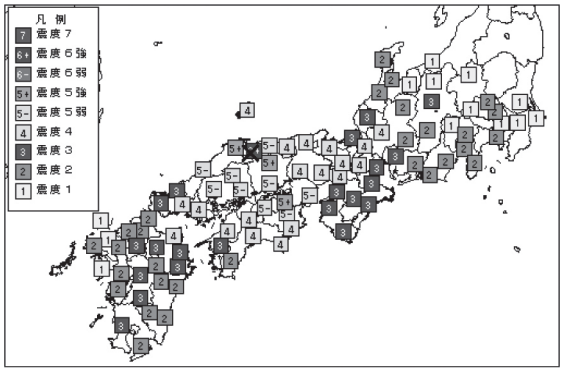


図 1　地域ごとの震度分布
（×は震央位置）

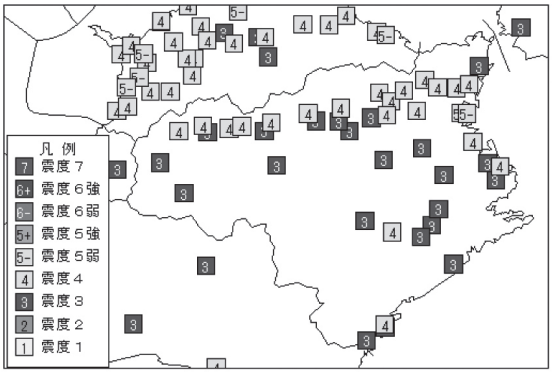


図 2　観測点ごとの震度分布

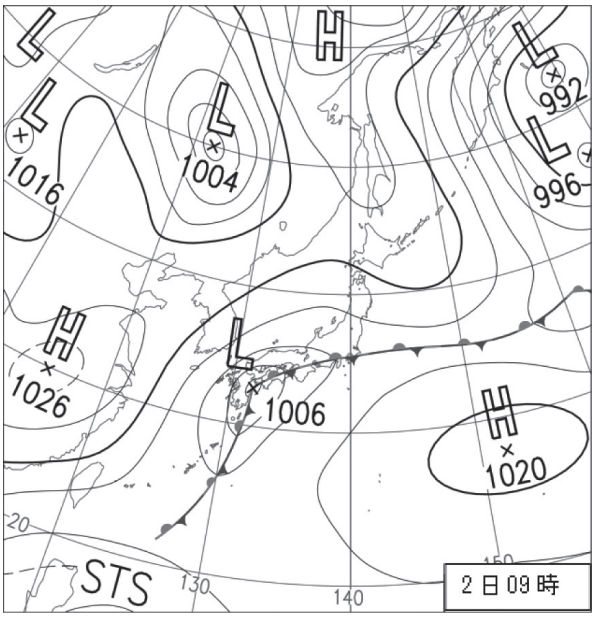
徳島県内では徳島市で震度５弱を観測したほか，21 市町村で震度４～３を観測した（図２，表１）。

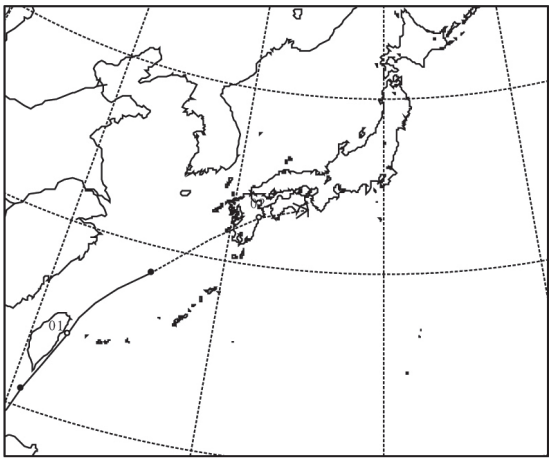
この地震により徳島県内では，がけ崩れ１か所の被害があった（消防庁災害情報，H14.10.10）。気象庁はこの地震を「平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震」と命名した。

表１　県内の市町村ごとの震度

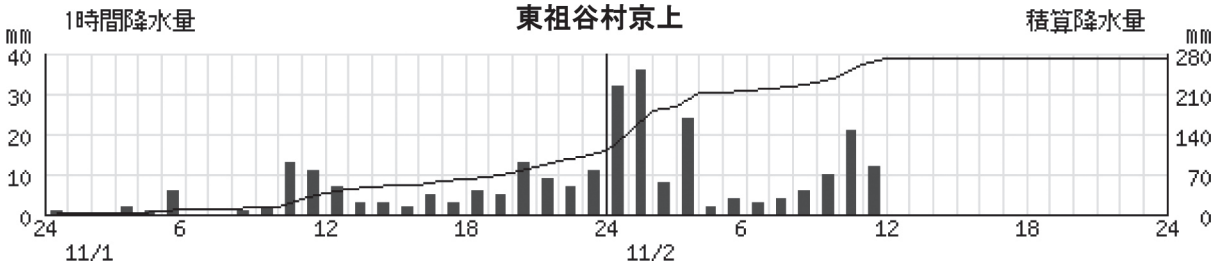
震度５弱	徳島市
震度４	小松島市，石井町，松茂町，北島町，藍住町，板野町，上板町，吉野川市，美馬市，阿波市，三好市，東みよし町，阿南市，那賀町，海陽町
震度３	鳴門市，佐那河内村，神山町，つるぎ町，勝浦町，美波町

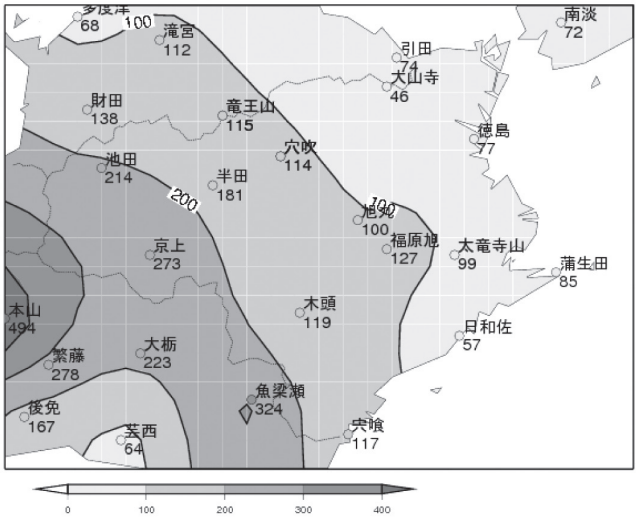
2000 年（平成 12 年）11 月１日～２日　大雨　雷　波浪（温帯低気圧　停滞前線）





台風第 20 号　経路図





総降水量（mm）

台風第 20 号から変わった温帯低気圧が１日から２日にかけて，四国付近に停滞している前線上を北東進し，前線の活動が活発となり，県西部を中心に大雨となった。

１日から２日にかけての総降水量は東祖谷山村京上で 273㎜，池田で 214㎜を観測した。

【災害概況】

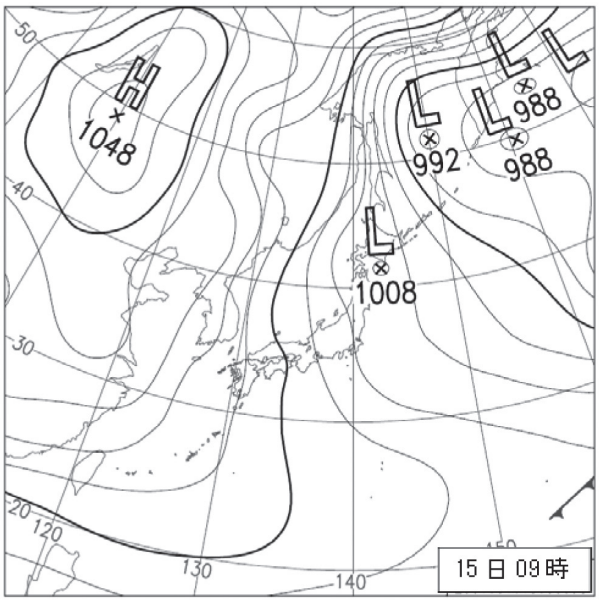
床下浸水：２日１棟（三好郡三加茂町，町営アパート）。山腹崩壊：２日三好郡山城町下川，JR 土讃線線路沿い西祖谷山村尾井の内，200m3。通行規制：１～２日 20 箇所（山腹崩壊落石，おそれ等２箇所，潜水橋冠水９箇所，異常気象８箇所，道路冠水１箇所）。高速船，フェリー１－

2 日徳島－和歌山間計 13 便欠航，航空便 1 ～ 2 日 2 便欠航，10 便遅れ。鉄道 2 日土讃線 52 本運休（復旧未定）。停電：2 日美馬郡美馬町で 10 時頃，電柱に落雷，宗重，石仏地区で 1,000 戸が約 30 分間停電。水道：被害 2 日三好郡池田町川崎の平野谷を渡る導水管が流木により破損，261 世帯断水。公共土木施設被害：河川 2 箇所，道路 43 箇所，計 45 箇所，2 億 7,430 万円。農林水産業被害：青海苔養殖被害，吉野川河口（額未定）

2001年

[平成 13 年]

2001 年（平成 13 年）1 月 14 日～ 17 日　大雪（寒気の移流）



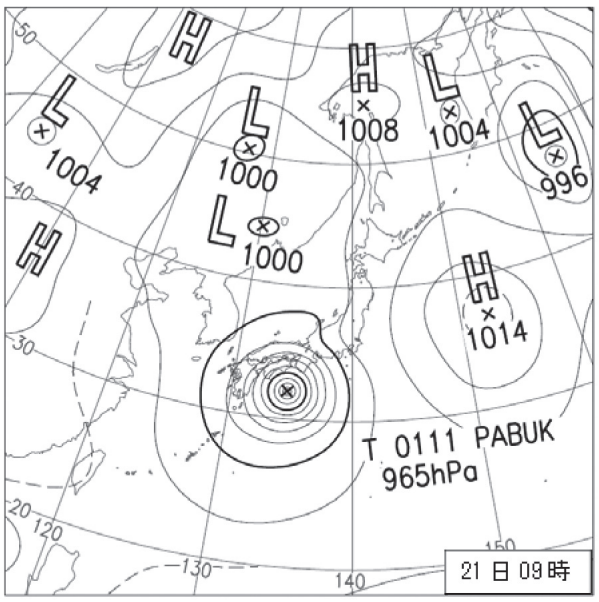
14 日から 17 日にかけて冬型の気圧配置となり，上空に強い寒気が流入した。このため，県西部や山地を中心に大雪となった。

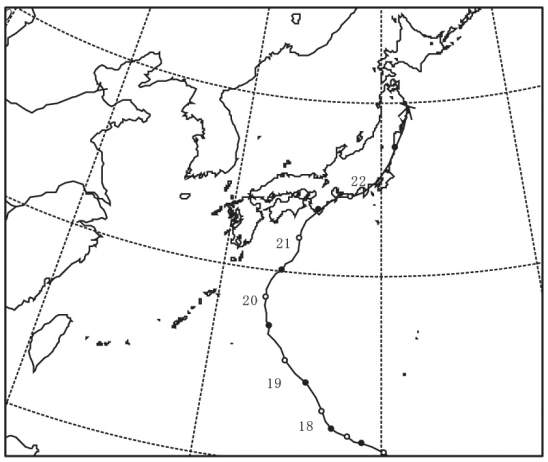
15 日 09 時の各地の積雪は東祖谷村山京上 40cm，半田 18cm，16 日 09 時には東祖谷村山京上 58cm，半田 20cm，池田 5cm，穴吹 5cmを観測した。

【災害概況】

15 ～ 16 日鉄道：16 日美馬郡内の JR 徳島線貞光駅構内および小島駅構内のポイントが積雪のため故障，上下 4 本に遅れ。路線バス 15 ～ 16 日山間部の路線の一部又は全部が運休。道路：16 日徳島自動車道，土成～井川池田間通行止め。臨時休校:15 日小，中，高等学校 50 校（他に 35 校が授業開始時刻を遅らせる）16 日小，中，高等学校 33 校（他に 20 校が自宅待機，授業開始）（原簿修正Ｈ 13．11．30）

2001 年（平成 13 年）8 月 20 日～ 22 日　大雨　強風　波浪（台風第 11 号）

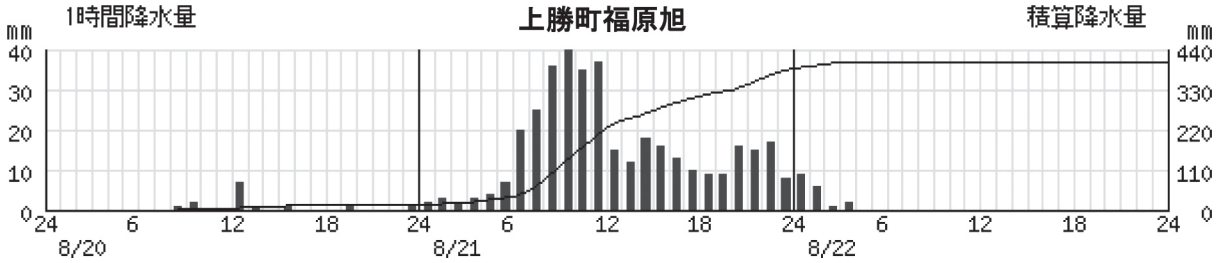


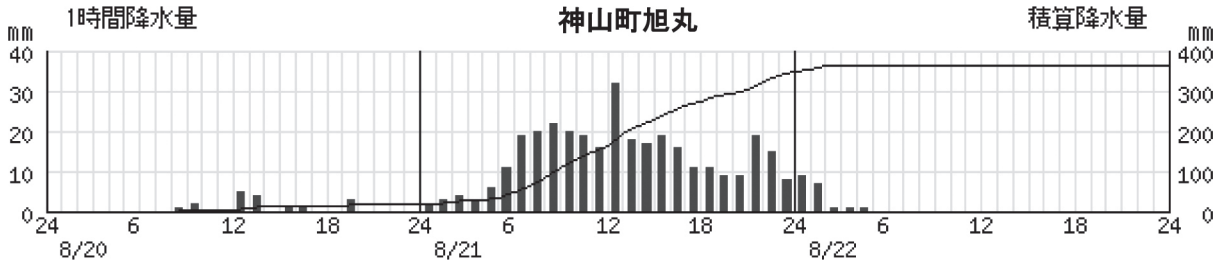


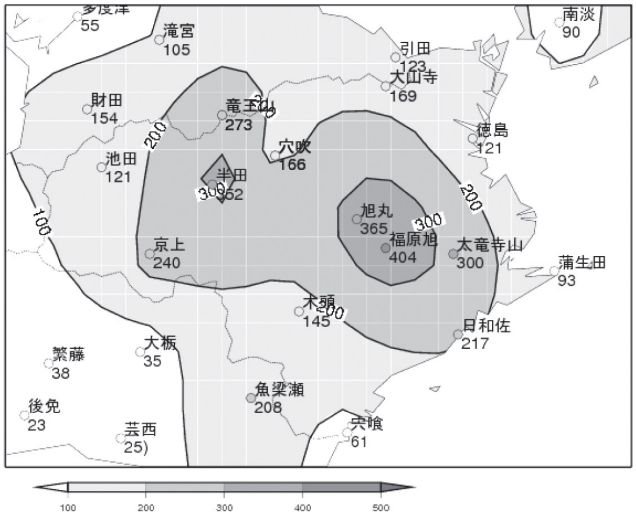
台風第 11 号　経路図

四国の南海上から北上した台風第 11 号は，21 日 19 時過ぎ和歌山県田辺市付近に上陸した。このため徳島県では山地を中心に大雨となり，沿岸部を中心に強風が吹いた。

20 日から 22 日にかけての総降水量は上勝町福原旭で 404㎜，神山町旭丸で 365㎜，日降水量は 21 日に上勝町福原旭で 372㎜を観測した。また，徳島市では最大風速が 21 日 12 時 50 分に北北東の風 14.4m/s，最大瞬間風速が 21 日 13 時 15 分に北東の風 29.5m/s を観測した。





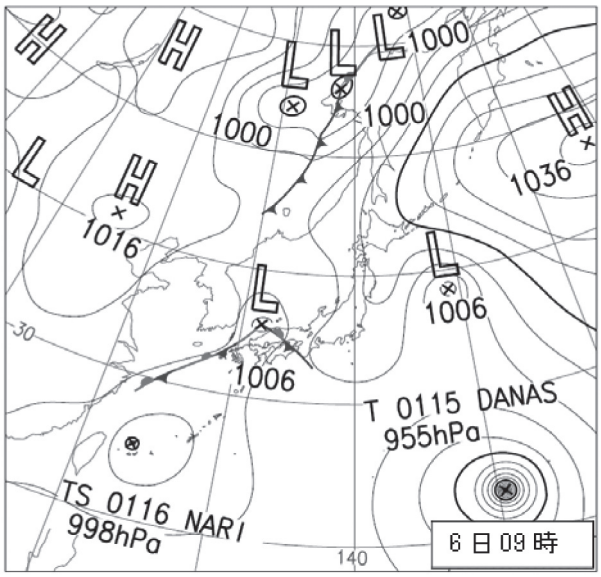


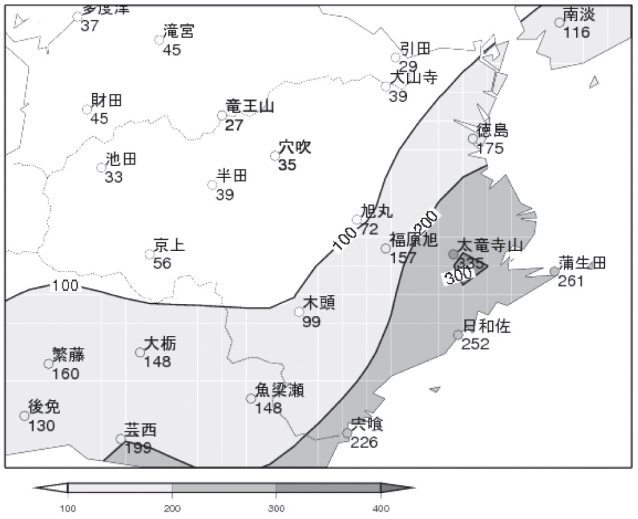
総降水量（㎜）

【被害状況】

21 ～ 22 日死者：21 日 1 名（半田町葛城で住宅裏側の山腹が崩壊，土砂と家の壁に挟まる）。住宅半壊：21 日 1 棟（小松島市中田町）。住宅一部損壊：21 日 4 棟（半田町 1，土成町 3）。山腹崩壊・落石等：21 日 6 カ所（半田町 2，神山町 1，三加茂町 1，穴吹町 1，阿波町 1）22 日 1 カ所（市場町）。停電：21 日 1,149 戸（12 市町村で 0.5 ～ 2.5 時間，配電設備に雨水が流入したため）。21 日簡易水道断水（穴吹町で山腹崩壊により施設被害）。道路通行規制：21 日～ 22 日 42 カ所（異常気象 15 カ所，潜水橋冠水 10 カ所，道路冠水 5 カ所，落石倒木 3 カ所，山腹崩壊・落石等 5 カ所，路肩決壊 3 カ所，土石流 1 カ所）。航空機：20 ～ 22 日，20 日一部欠航，21 日ほぼ全便欠航，22 日一部欠航。海上交通：20 ～ 22 日，20 日一部欠航，21 日全便欠航，22 日一部欠航。陸上交通：21 日，JR14 本運休（桑野－牟岐間運休，その他一部運休），高速バス一部運休と遅延。農作物被害 21 ～ 22 日 6 億 500 万円（水稲の倒伏，秋なす・ブドウ・梨の実の擦れと落下，ネギの葉の擦れ，レンコンの葉の倒伏）。その他 21 ～ 22 日自主避難（1 市 6 町 4 村で 37 世帯 52 人）。

2001 年（平成 13 年）9 月 5 日～ 10 日　大雨　波浪（前線，暖気の移流）

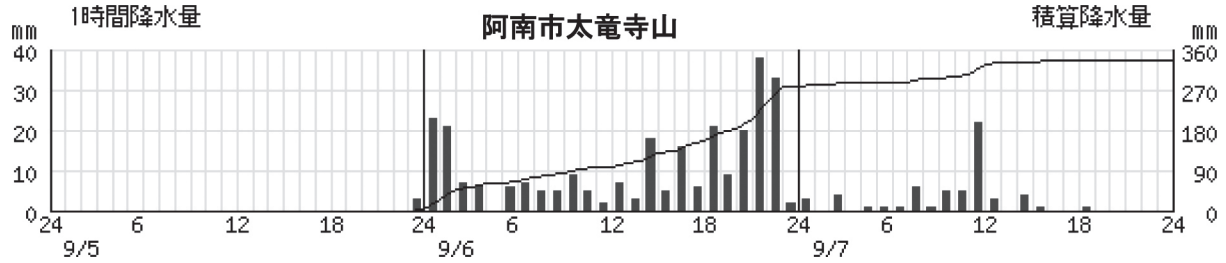




総降水量（㎜）

5 日から 6 日にかけて前線が四国地方をゆっくりと北上し，7 日には南下した。この間，前線活動が活発となり県南部を中心に大雨となった。

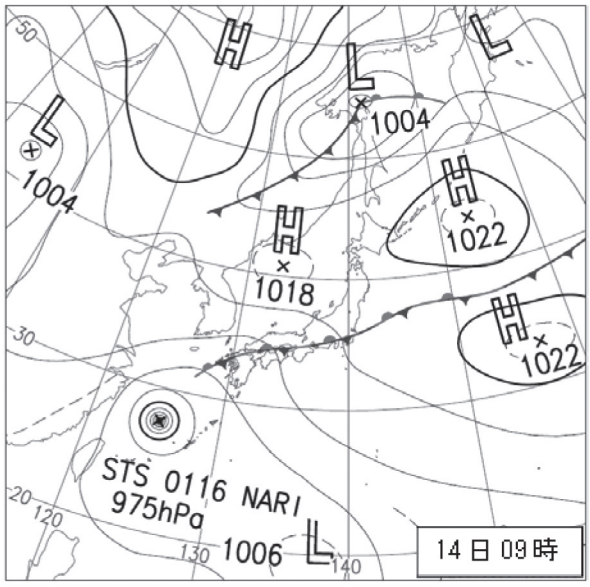
阿南市太竜寺山では5日から7日にかけての総降水量335㎜を観測した。また，日和佐では6日23時00分までの1時間に61㎜の非常に激しい雨を観測した。

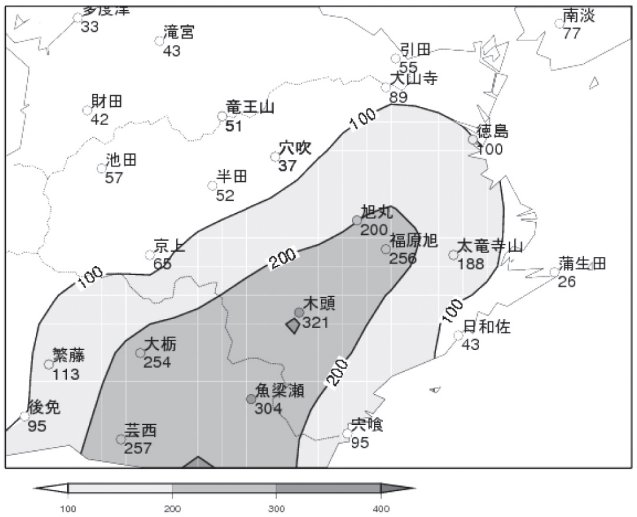


【被害概況】

床上浸水：6日1棟鳴門市撫養町。床下浸水：6日41棟（鳴門市22，小松島市7，松茂町12)。道路通行規制:6～7日6カ所（異常気象1，道路鹹水3，法面不安定1，路肩決壊等1)。海上交通:6日南海シャトルライン上下4便欠航。6～7日，自主避難1世帯（一宇村)。10日避難勧告（小松島市16世帯37人)。山腹崩壊：10日2カ所（小松島市1カ所8日19時30分頃から表層崩壊から小崩壊があり10日に崩壊。穴吹町1カ所)。公共土木施設被害：4,500万円（河川2カ所）

2001年（平成13年）9月13日～15日　大雨　雷　(前線，暖気の移流)

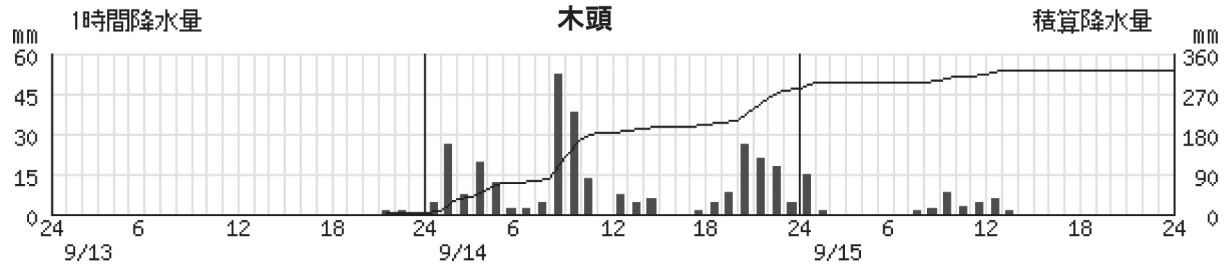




総降水量（㎜）

13日から14日にかけて秋雨前線が四国沖から中国地方までゆっくり北上し，15日には四国地方の南岸まで南下した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が不安定となり，徳島県では南東斜面を中心に大雨となった。

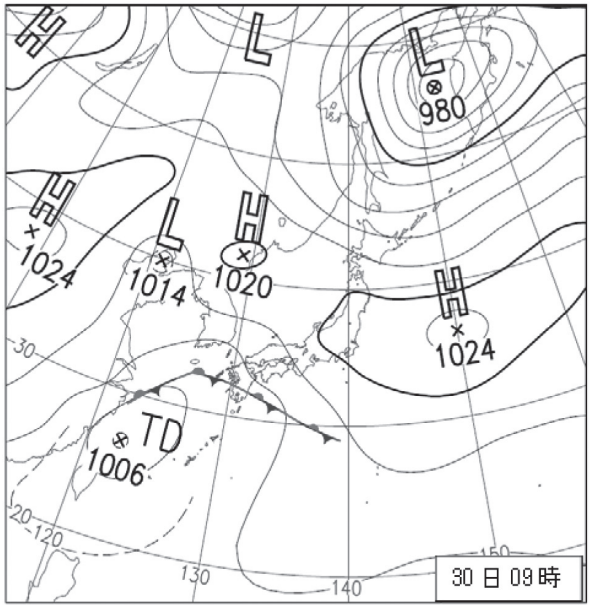
13日から15日にかけての総降水量は，木頭で321㎜，上勝町福原旭で256㎜を観測した。また，木頭では14日09時00分までの1時間に52㎜の非常に激しい雨を観測した。

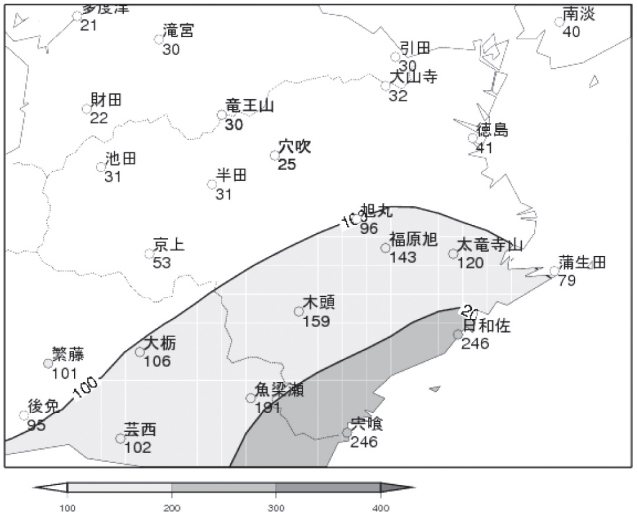


【災害概況】

床上浸水：14 日 3 棟（藍住町）。停電：14 日 224 戸（鳴門市大麻町）。路肩崩壊：14 日 1 カ所（上板町）。JR14 日板野－引田間運転見合わせ，西麻植－阿波川島間・阿波大宮－板野間徐行運転。上下 4 本が部分運休。上下 18 本に遅れ。14 日避難勧告小松島市 16 世帯 37 人（9 月 10 日の土砂崩れの影響）。公共土木施設被害：7,110 万円（道路損壊 10 カ所，河川被害 3 カ所）

2001 年（平成 13 年）9 月 30 日～ 10 月 1 日　大雨（前線帯）

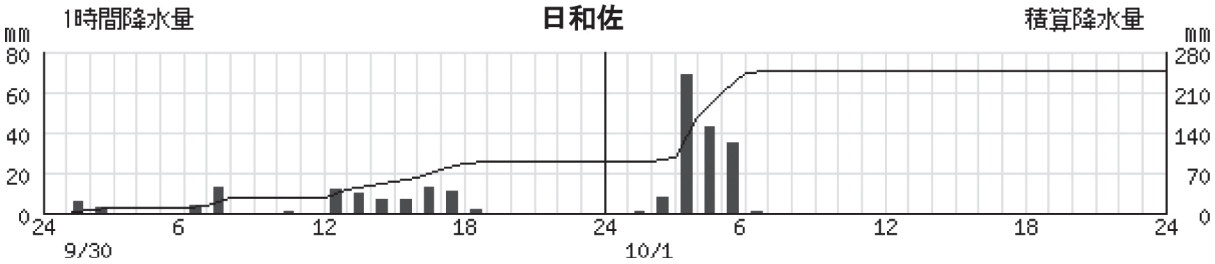




総降水量（㎜）

西日本を前線が北上し，前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で，徳島県では南部を中心に大雨となった。

日和佐では 9 月 30 日から 10 月 1 日にかけての総降水量 246㎜を観測した。また，日和佐では 1 日 04 時 00 分までの 1 時間に 69㎜の非常に激しい雨を観測した。



【災害概況】

日和佐町の西谷川，牟岐町の辺川，橘川，海南町の相川，海部川，宍喰町の板取西川の二級・準用河川で堤防の一部が損壊した。また，日和佐町で道路の冠水一ヶ所，海南町で道路の損壊一ヶ所も発生した。

2001 年（平成 13 年）10 月 9 日～ 10 日　大雨（低気圧，暖気の移流）

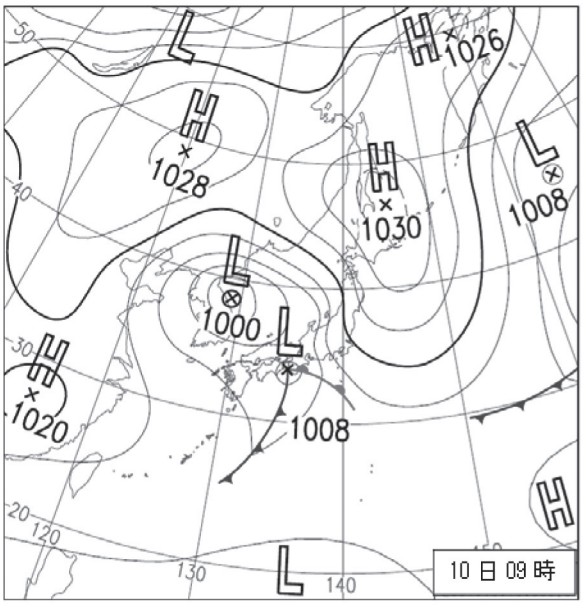
9 日から 10 日にかけて低気圧が四国付近を通過した。この低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で，徳島県では南東斜面を中心に大雨となった。

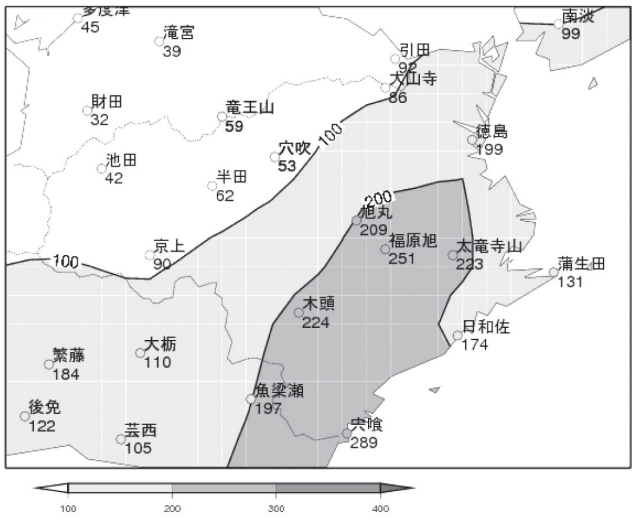
9 日から 10 日にかけての総降水量は，宍喰で 289㎜，上勝町福原旭で 251㎜を観測した。また，徳島市では 10 日 03 時 19 分までの 1 時間に 69.0㎜の非常に激しい雨を観測した。

【災害概況】

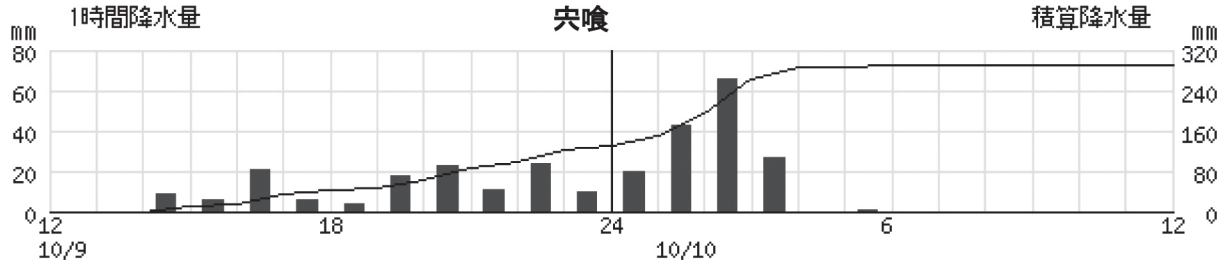
床上浸水：10 日 21 棟（小松島市）。床下浸水：10 日 28 棟（徳島市 5，小松島市 154，海南町 1，宍喰町 4，阿南市 64）。地下浸水：10 日 2 件（徳島市）。道路通行規制：10 日 15 カ所（異常気象 3

カ所，道路冠水 6 カ所，山腹崩壊･落石等 5 カ所，潜水橋冠水 1 カ所)。山腹崩壊等:10 日 6 カ所（阿南市富岡町，宍喰町 2 カ所，神山町，牟岐町，上那賀町)。JR10 日牟岐線阿南～海部間運休（始発～ 07 時 15 分)。10 日自主避難（徳島市 1 世帯 2 人)。





総降水量（mm）

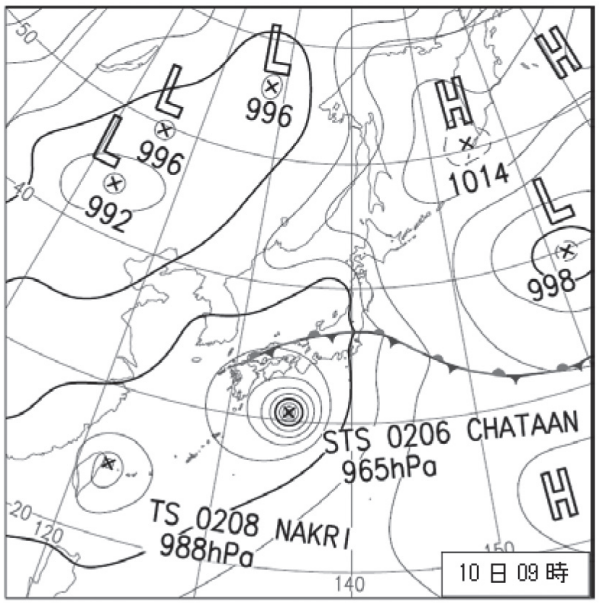


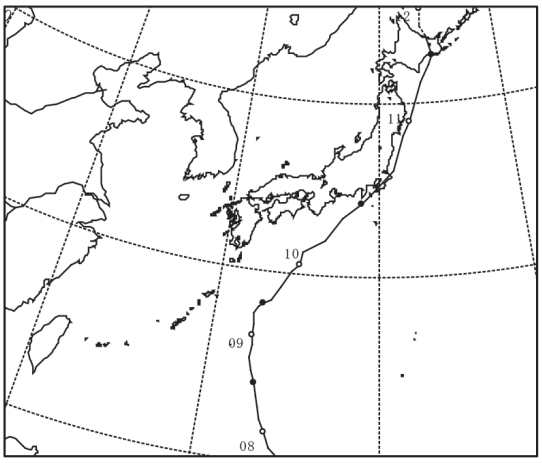
ビルの半地下駐車場で水没した車（徳島新聞社提供）

2002年

[平成 14 年]

2002 年（平成 14 年）7 月 9 日～ 11 日　大雨　波浪（台風第 6 号，梅雨前線）

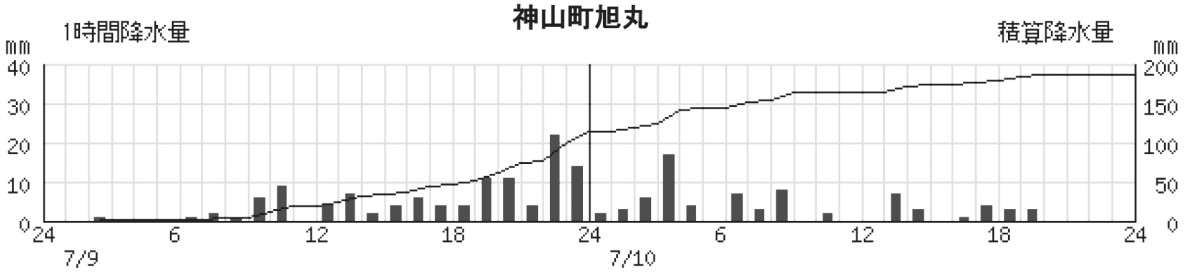


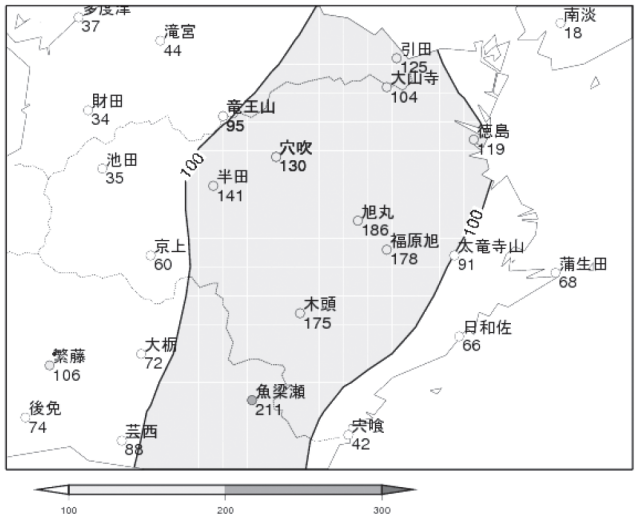


台風第 6 号　経路図

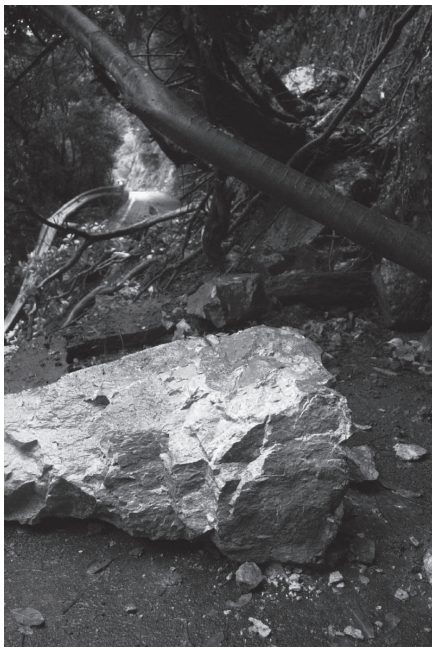
9 日から 10 日にかけて台風第 6 号が四国の南海上から紀伊半島の南海上を北東進し，11 日 00 時過ぎに千葉県館山市付近へ上陸した。梅雨前線と台風第 6 号の影響で徳島県では山地を中心に大雨となった。

神山町旭丸では 9 日から 10 日にかけて総降水量 186㎜を観測した。また，徳島市では 10 日 00 時 07 分までの 1 時間に 42.5㎜の激しい雨を観測した。





総降水量（㎜）

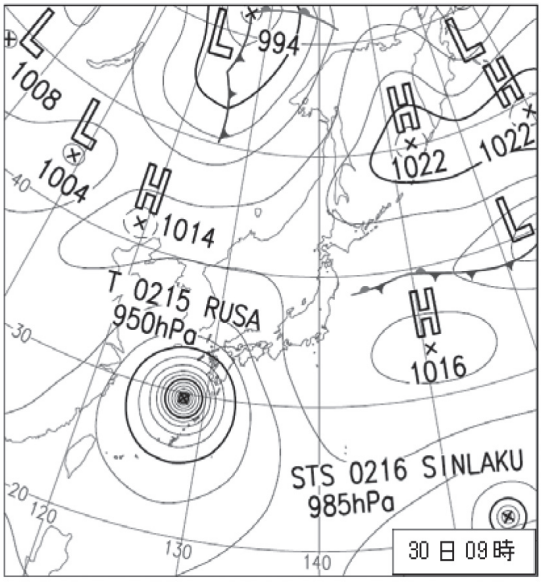


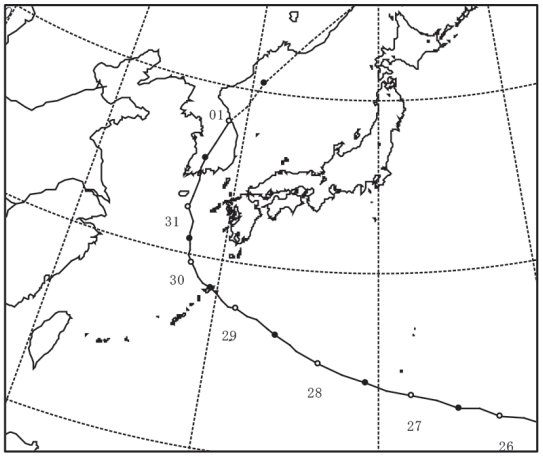
土砂崩れで山道をふさぐ大木と大岩
（徳島新聞社提供）

【災害概況】

山崖崩れ・地滑り：3 か所，住家被害：床上浸水 2 棟，床下浸水 60 棟，道路損壊:20 か所，海上交通:欠航 38 便，航空便：欠航 2 便，遅延 1 便

2002 年（平成 14 年）8 月 28 日～ 9 月 2 日　大雨（台風第 15 号，暖気の移流）

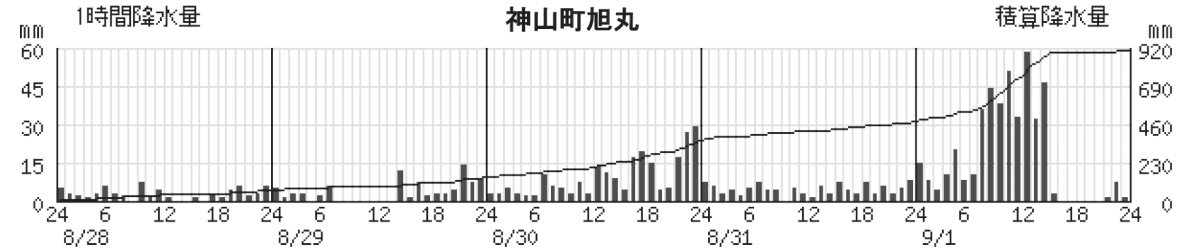




台風第 15 号　経路図

台風第 15 号は九州の西海上を北上し，31 日夕方に朝鮮半島に上陸，9 月 1 日 09 時に熱帯低気圧に変わり，その後，日本海中部を北北東に進んだ。この台風や熱帯低気圧に向かって，南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により，徳島県では南東斜面を中心に大雨となった。

8 月 28 日から 9 月 2 日にかけての総降水量は神山町旭丸で 900㎜，上勝町福原旭で 851㎜，木頭で 662㎜，日降水量は 9 月 1 日に神山町旭丸で 425㎜を観測した。また，神山町旭丸では 9 月 1 日 13 時 00 分までの 1 時間に 58㎜の非常に激しい雨を観測した。



【災害概況】

山崖崩れ・地滑り：2 か所，住家被害：床下浸水 3 棟，道路損壊：62 か所，

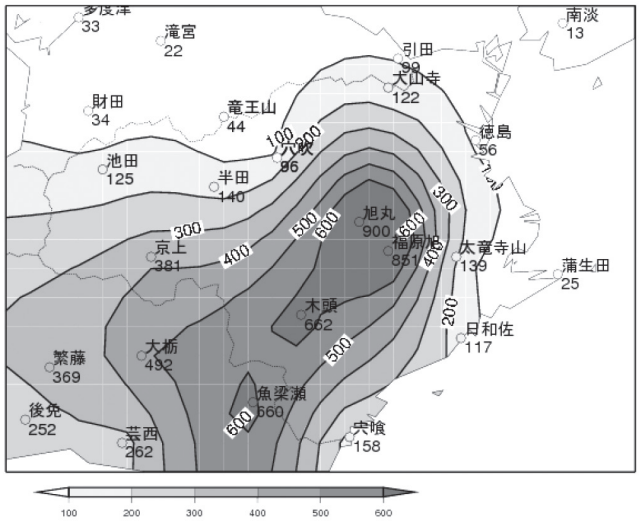
農業被害：5.56ha　44 か所　被害額 2 億 5,030 万円

（農業施設被害※：上勝町 0.6，佐那河内村町 0.16，神山町 0.16，相生町 0.13，山城町 0.03

農作物被害※：吉野町 0.39，土成町 0.41，市場町 0.89，阿波町 1.75，鴨島町 0.49，川島町 0.29，山川町 0.26）　※単位は ha

林業被害：16,210㎥　2.874ha　47 か所　被害額 5 億 8,799 万円

（林業被害面積※：上勝町 0.036，相生町 0.075，上那賀町 0.072，木沢村 0.03，木頭村 0.203，



総降水量（㎜）

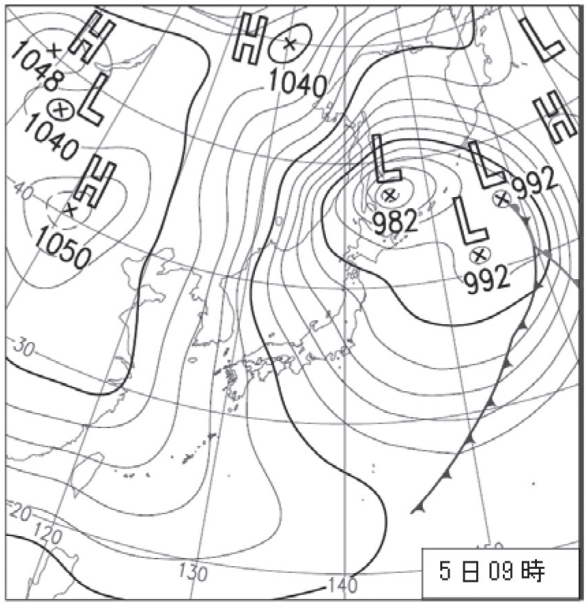
海部町 0.19，宍喰町 0.14，木屋平村 0.314，池田町 0.44，山城町 0.436，東祖谷山村 0.3，西祖谷山村 0.638）　※単位は ha

陸上交通：運休 26 本

2003年

[平成 15 年]

2003 年（平成 15 年）1 月 4 日～ 5 日　大雪（寒気の移流）



強い冬型の気圧配置となり，徳島県の上空約 5,500m に－30℃前後の強い寒気が流れ込んだため，県北部と山地を中心に大雪となった。

徳島市では 5 日 09 時に最深積雪 4cmを観測した。

【災害概況】

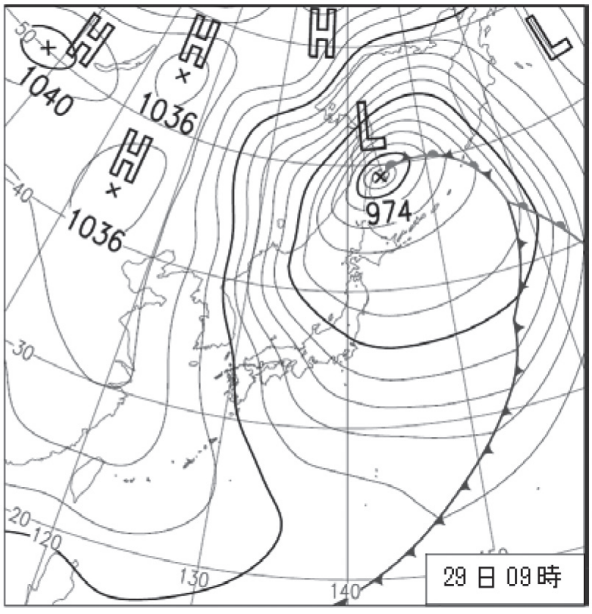
5 日朝の交通渋滞，バス等の運休，スリップ事故が多発した。

陸上交通：路線バス；運休 212 本（徳島市営 86 便，鳴門市営 29 便，小松島市営（徳島市～小松島市）5 便，西部交通（脇町～穴吹町・美馬町及び高松市）5 便，四国交通（池田町～山城町及び祖谷地方）19 便，（貞光町～一宇村及び半田町）26 便，徳島バス（徳島市～山間路線）42 便），鉄道：遅延 14 本（JR 徳島線鴨島駅構内で，雪の影響により線路切替ポイントが切り替わらなくなり，5 日早朝から 10 時まで上下 14 便が最大 40 分の遅延）

航空便：欠航 2 便，遅延 7 便（東京便 4 日 2 便，5 日 5 便遅延，福岡便 5 日 2 便欠航，4・5 日各 1 便遅延，名古屋便 4 日 1 便遅延）

通行止め：外環状線末広大橋（徳島市）4 日 23 時 30 分～ 5 日 12 時 15 分。

2003 年（平成 15 年）1 月 29 日～ 30 日　大雪　低温（寒気の移流）



29 日から 30 日にかけて強い冬型の気圧配置となり，徳島県では広い範囲で積雪となった。

29 日 09 時の各地の積雪は徳島市 3cm，西祖谷山村 4cm，三好町 3cmを観測した。また，29 日 21 時には徳島市 1cm，西祖谷山村 5cm，三好町 7cmの積雪となった。

日最低気温は東祖谷山村京上で 29 日 19 時 40 分に－7.2℃，徳島市で 29 日 15 時 51 分に－3.6℃を観測した。

【災害概況】

日中から夜にかけて雪は断続的に降り，夕方から降った雪は踏み固められ凍結した。帰宅ラッシュと重なり，県北部で記録的な大渋滞（国道 11 号と国道 55 号南行き 17km，北行き 11km，国道 192 号 12km など）となり，解消したのが翌日の所もあった。交通機関の運休，遅延，欠航等（500 便以上），学校の臨時休校等（216 校），スリップ事故が多発（29 日 08 時 30 分～ 30 日 16 時 30 分の交通事故は 407 件で通常の 2 ～ 3 倍）した。

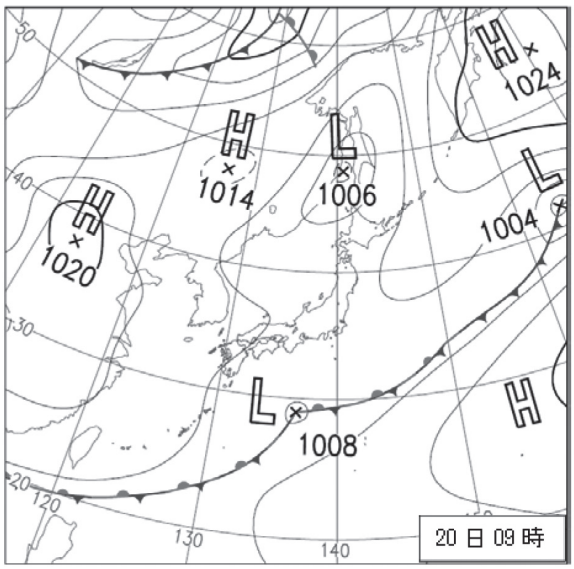
陸上交通：路線バス；運休 658 本

徳島市営 29 日 18 時～ 30 日 09 時まで全線 475 便，鳴門市営 29 日 08 時 30 分～同日 11 時 00 分全線 16 便，小松島市営（小松島市～徳島市）29 日 17 時から終日 39 便，30 日始発から昼まで全面運休，徳島バス　29 日鳴門市方面と阿南市方面を除き，全面的に不定期運行となり 18 時からは運休，30 日 08 時 30 分頃から順次運行を始めたが，勝浦線は終日運休，西部交通（脇町～穴吹町・美馬町及び高松市）29 日 09 時 20 分頃～ 30 日昼頃まで 22 便，四国交通（池田町～山城町及び祖谷地方）

55 便,（貞光町～一宇村及び半田町）51 便．JR：遅延 5 本, JR 徳島線阿波加茂駅構内のポイント凍結，川田駅構内のポイント雪詰まり，信号機が赤から青に変わらず，29 日特急 2 便，普通 3 便遅延。

航空便：欠航 2 便，遅延 6 便，29 日，東京便上下 2 便欠航，上下 4 便遅延。福岡便上下 2 便遅延。

2003 年（平成 15 年）5 月 20 日　ひょう（あられ）　雷雨（寒気の移流）

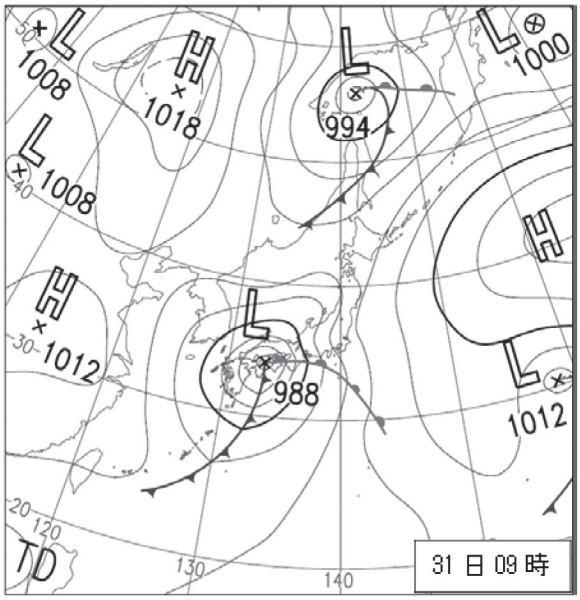


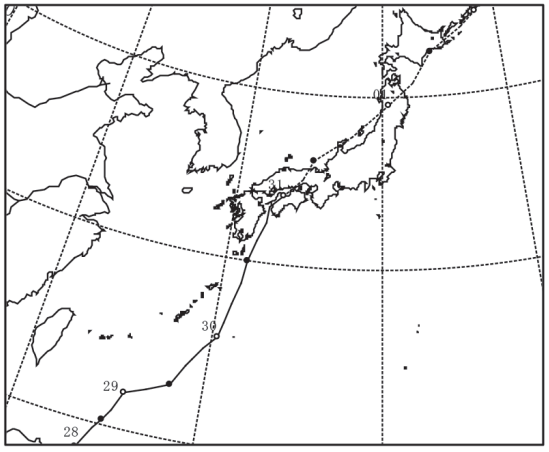
上空に寒気が入り大気の状態が非常に不安定となり，県北部では雷を伴い直径約 1cmのひょうが降ったところがあった。

【災害概況】

20 日夕方，徳島市川内町の養魚用のビニールハウスに直径約 1cmのひょうが水槽を覆うビニールシートに穴をあけた。その他，徳島市，鳴門市，松茂町でレンコン，なし，さつまいもなどの葉に穴をあけるなどの被害が発生した。また，落雷により 4,304 戸で 1 分から 89 分間の停電も発生した。

2003 年（平成 15 年）5 月 30 日～ 31 日　大雨　強風　波浪（台風第 4 号）





台風第 4 号　経路図

南シナ海で発生した台風第 4 号は，沖縄の南海上を北北東に進んだ後，31 日 06 時 30 分頃に愛媛県宇和島市付近に上陸し，31 日 09 時に温帯低気圧となった。この台風により，徳島県では南東斜面を中心に大雨となり，沿岸部を中心に強風が吹いた。

30 日から 31 日にかけての総降水量は上勝町福原旭で 351㎜，木頭で 305㎜を観測した。また，最大風速は徳島市で 31 日 12 時 50 分に南南東の風 14.3m/s，日和佐で 31 日 03 時 50 分に東南東の風 19m/s，最大瞬間風速は徳島市で 31 日 12 時 43 分に南東の風 28.7m/s を観測した。

【災害概況】

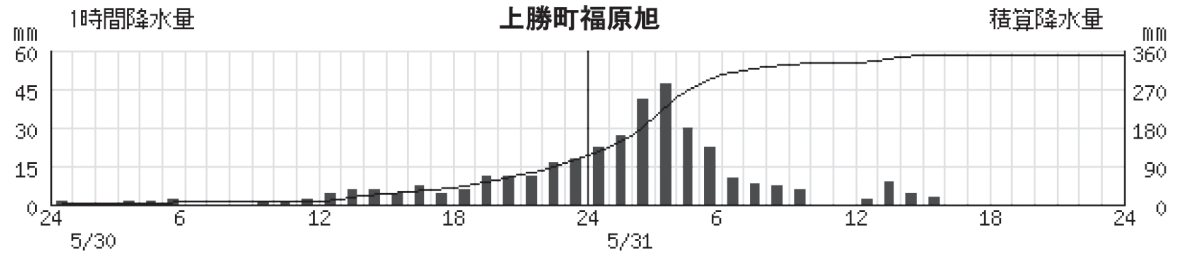
相生町で，増水した川に流されて 1 名死亡。鴨島町でトタン板が強風で倒れ 1 名軽傷。

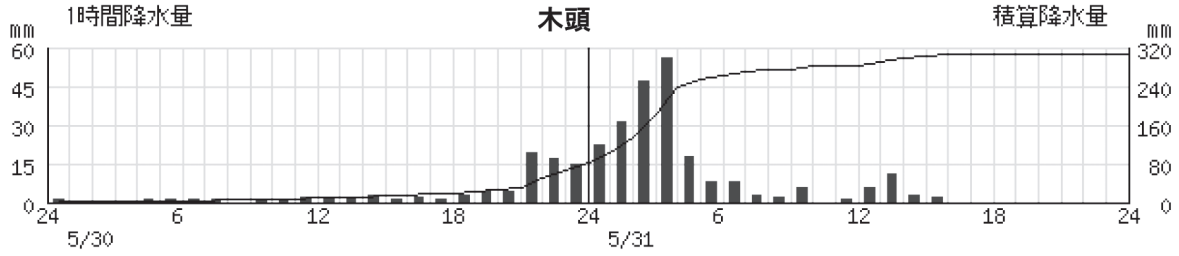
徳島市南佐古では裏山が崩れ倉庫 1 棟が全壊した。

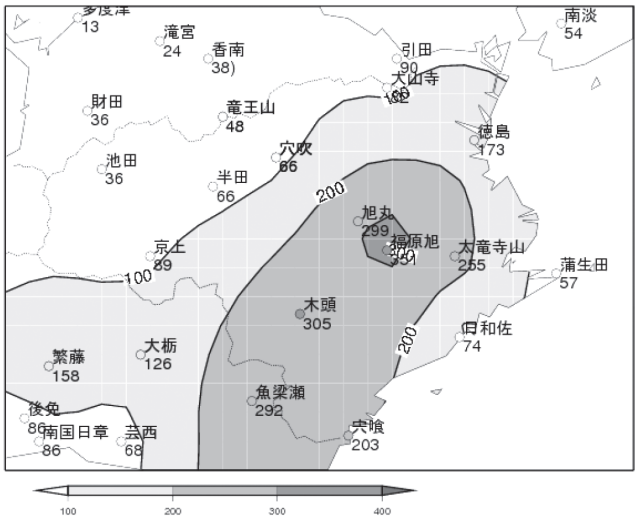
床下浸水が小松島で 5 棟など 4 市町村で合計 8 棟。

国道や県道も強風や冠水，土砂崩れで 31 カ所が通行止め。宍喰町の県道・芥附（くぐつけ）海

部線では山腹が崩壊（幅 12m，高さ 3m）。上那賀町川俣の県道・日和佐上那賀線でも山肌が幅約 20m，高さ約 10m にわたり崩落。







総降水量（mm）

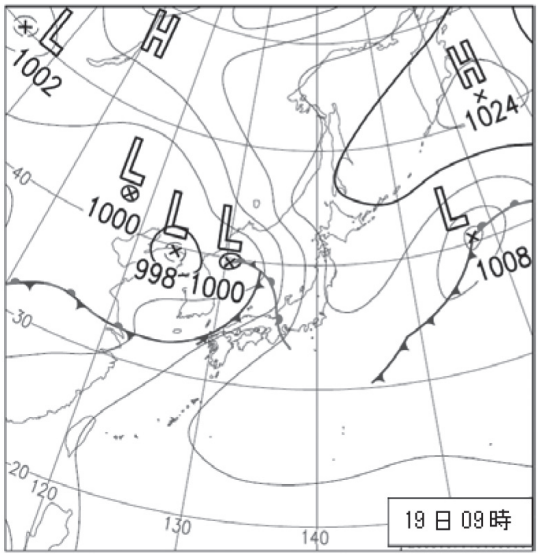
上那賀町，由岐町，木沢村では，8 世帯 9 人が公民館や知人宅に一時自主避難。

航空便では，30 日に名古屋便の 1 往復，31 日には東京便 2 往復，名古屋便 1 往復，福岡便 2 往復の計 12 便が欠航。

南海フェリーは，30 日午後から 10 便，31 日は 20 便が欠航。オーシャン東九フェリー 30 日東京便 1 便，新門司便 1 便欠航。

徳島市～松茂町の県道古川長原港線（渡船）欠航。

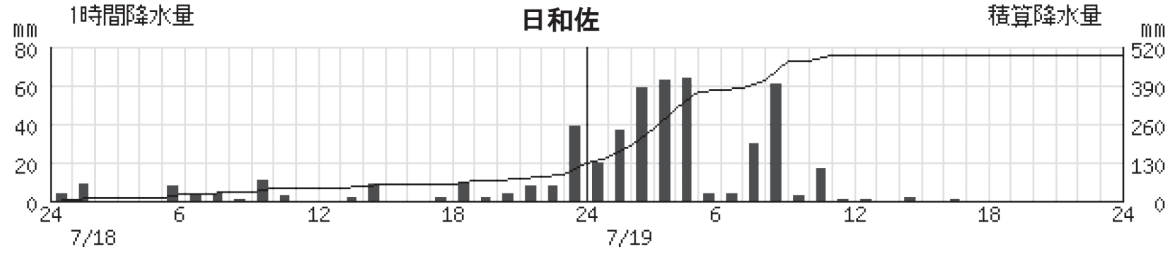
2003 年（平成 15 年）7 月 18 日～ 19 日　大雨（梅雨前線）

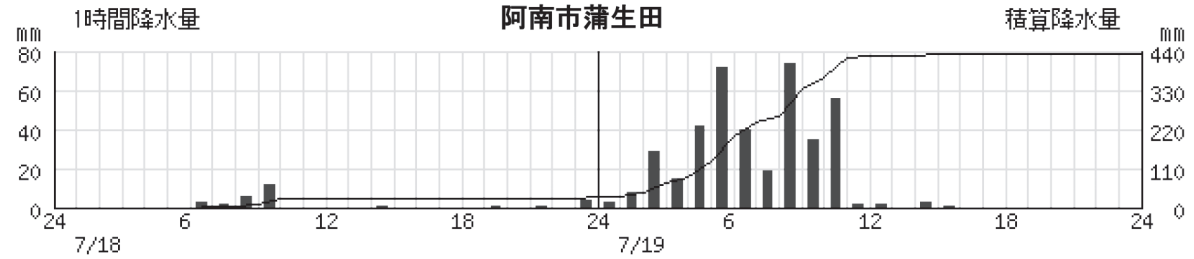


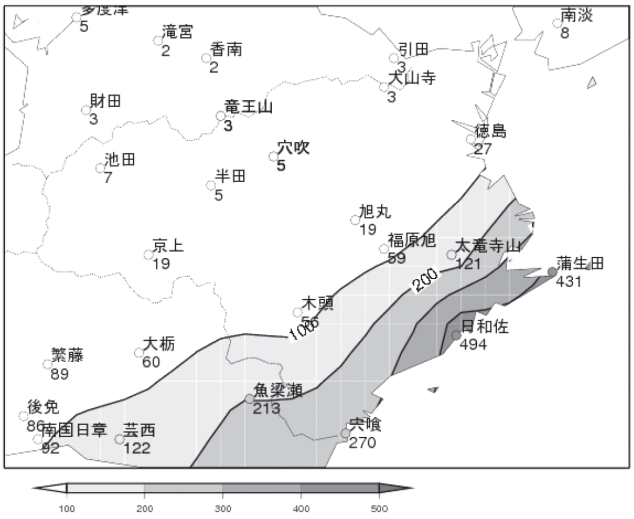
屋根瓦が落ち倒壊した家（徳島新聞社提供）

日本海中部にある低気圧から南西にのびる前線が，19 日ゆっくり西日本を南下した。このため前線に向かって暖かく湿った空気が流入し，19 日未明から昼前にかけて徳島県の南部沿岸部で断続的に激しい雨が降った。

18 日から 19 日にかけての総降水量は日和佐で 494㎜，阿南市蒲生田で 431㎜を観測した。また，阿南市蒲生田では 19 日 09 時 20 分までの 1 時間に 92㎜の猛烈な雨を観測，日和佐でも 19 日 02 時 40 分までの 1 時間に 78㎜の非常に激しい雨を観測した。







総降水量（㎜）

【災害概況】

国道 55 号の阿南市福井町－日和佐町北河内間約 10㎞が規定雨量 300㎜を超えたほか，山腹崩壊で同市内の県道・福井椿泊加茂前線が全面通行止めになるなど，国道 1 カ所，県道 17 カ所が通行止めになった。JR 牟岐線阿南－海部間は，19 日は終日運転を見合わせた。上下計 48 本が運休し約 1,600 人に影響が出た。

道路の通行止めの影響で，阿南市高瀬など 4 地区の計 45 世帯と由岐町の阿部，伊座利両地区の計約 200 世帯，日和佐町大戸地区の約 100 世帯が孤立した。阿南市では，5 世帯 8 人が自主避難。

19 日 04 時頃，阿南市椿町寿の山腹が崩れ，流出した土砂が民家 1 階部分を直撃し，木造 2 階建て延べ約 330㎡が倒壊した。住民 2 人は，逃げ出して無事だった。

阿南市で 55 棟，日和佐町で 6 棟，由岐町で 23 棟が床上浸水。阿南市 149 棟，日和佐町 26 棟，由岐町 15 棟が床下浸水した。

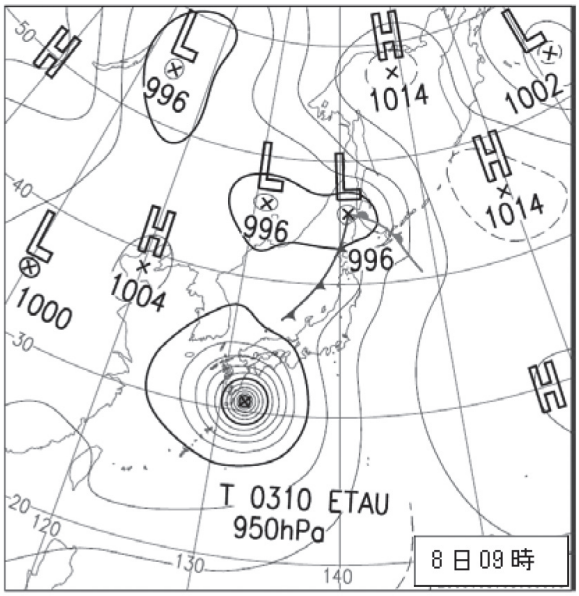
2003 年（平成 15 年）8 月 7 日～9 日　大雨　強風（台風第 10 号）

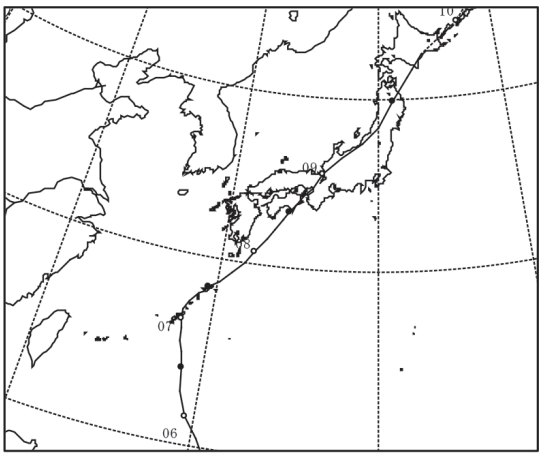
フィリピンの東海上で発生した台風第 10 号は，8 日 22 時前，強い勢力を保ったまま高知県室戸市付近に上陸した後，徳島県南部を北東に進み，9 日 06 時頃，兵庫県西宮市付近に再上陸した。この台風により徳島県では大荒れの天気となり，各地で大雨や，沿岸部を中心に暴風となった。

7 日から 9 日にかけての総降水量は神山町旭丸で 683㎜，上勝町福原旭で 530㎜，木頭で 506㎜を観測した。また，上勝町福原旭では 8 日 23 時 30 分までの 1 時間に 54㎜，神山町旭丸では 8 日 23

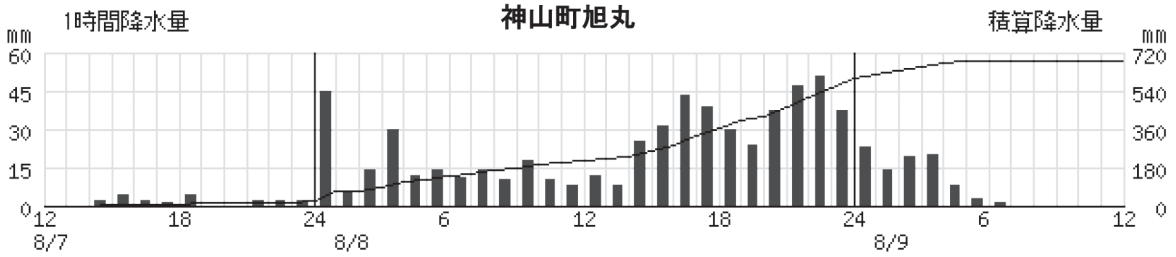
時 10 分までの 1 時間に 52㎜の非常に激しい雨を観測した。

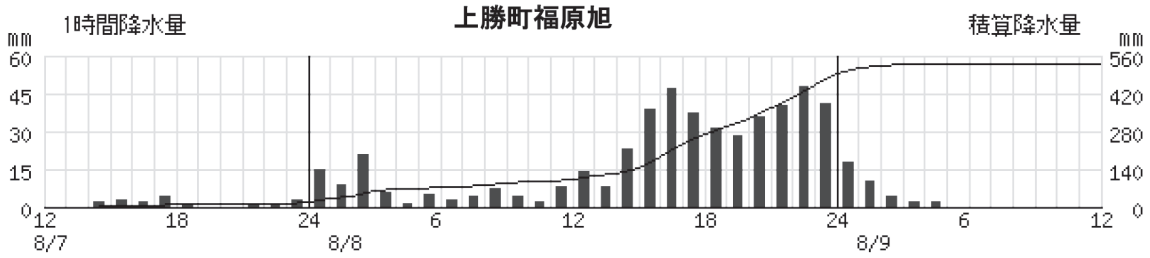
最大風速は徳島市で 9 日 00 時 40 分に南東の風 17.3m/s，日和佐で 8 日 23 時 00 分に東南東の風 23m/s，最大瞬間風速は徳島市で 8 日 13 時 15 分に南東の風 36.0m/s を観測した。

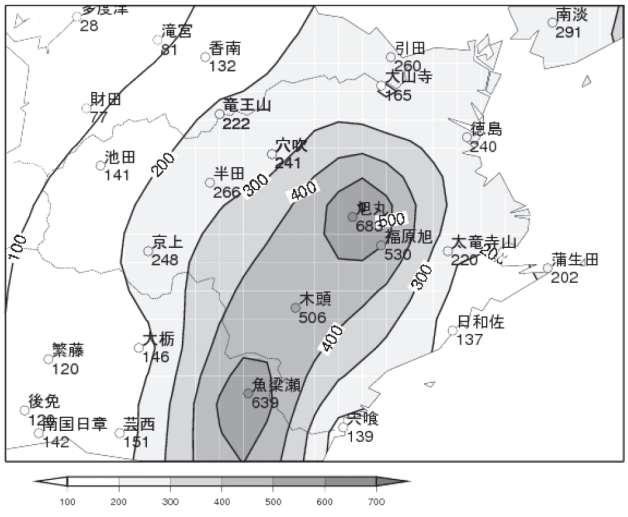




台風第 10 号　経路図







総降水量（㎜）

【災害概況】

8 日 1 時 30 分頃，市場町日開谷の民家の裏山が幅約 5m，高さ約 3m にわたって崩壊。18 時頃には，徳島市飯谷町沖野の県道で山腹が幅約 15m，高さ約 15m にわたって崩壊。

8 日 17 時過ぎに徳島市と宍喰町で，強風の影響でトラックが横転，2 人が負傷。上那賀町御所谷の国道では 9 日 7 時 10 分頃，道路脇の山の斜面から松が倒れ軽自動車を直撃し運転手が負傷。

床上浸水は，鷲敷町などで計 7 棟。床下浸水は，鳴門市 63 棟，阿南市 25 棟など計 101 棟。

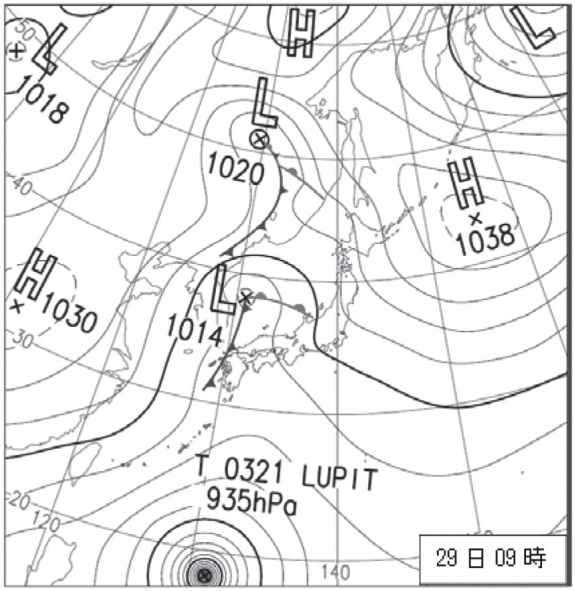
JR は 8 日 16 時 30 分以降の徳島線と高徳線，

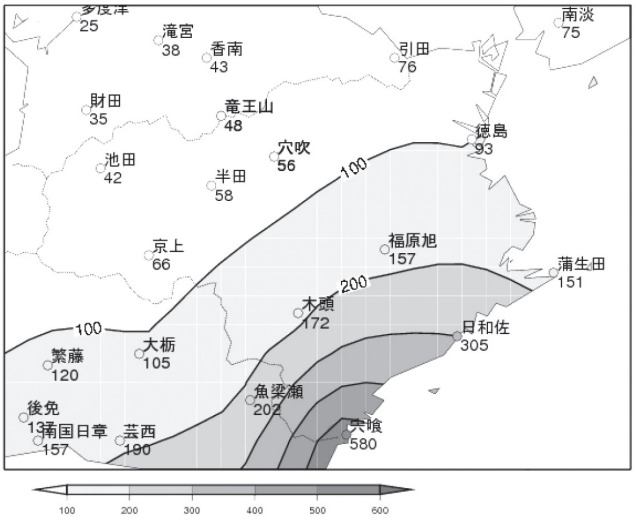
鳴門線で全列車が運休。牟岐線も 19 時過ぎから全線で運休。阿佐海岸鉄道も 15 時以降の 12 本が運休。高速バスは 15 時以降の計 192 便が運休。徳島バス 8 日 16 時 20 分以降順次運休。南海フェリーは 7 日の 2 便，8 日は全 24 便，9 日も 11 便が欠航。オーシャン東九フェリーは 8 日の東京行きと北九州行き各 1 便が欠航。9 日も北九州行き 1 便が欠航。航空便は 8 日の東京線 7 便，福岡線 4 便，名古屋線 4 便，札幌線 1 便が欠航。9 日も東京線，札幌線，名古屋線各 1 便が欠航。

神戸淡路鳴門自動車道の鳴門 IC －淡路島南 IC は 8 日 23 時 25 分から，高松自動車道の鳴門 IC －引田 IC は 8 日 22 時 54 分から，徳島自動車道の美馬 IC －脇町 IC で 9 日 1 時 25 分から，脇町 IC －藍住 IC で 3 時 30 分からの通行止めは，8 時 30 分までに全て解除。

農作物の被害は，徳島市など 26 市町村で稲が倒れたり冠水したほか，板野町，土成町などでブドウの実が落下したり実に傷が付いた。鳴門市や松茂町ではナシの実が落下，レンコンも葉がちぎれたり茎が折れた。

2003 年（平成 15 年）11 月 28 日～ 29 日　大雨（低気圧）

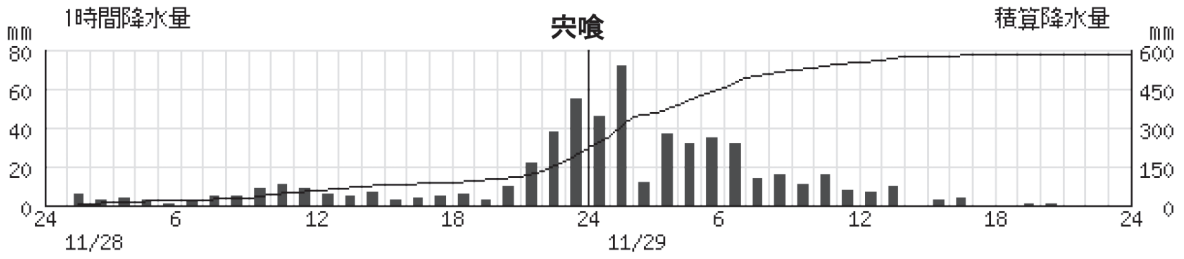




総降水量（mm）

前線を伴った低気圧が日本海を北東に進み，西日本には暖かく湿った空気が流れ込んだ。この影響で，徳島県では 28 日から 29 日にかけて南部の沿岸部を中心に大雨となった。

28 日から 29 日にかけての総降水量は宍喰で 580.mm，日和佐で 305mmを観測した。また，宍喰では 29 日 02 時 00 分までの 1 時間に 72mmの非常に激しい雨を観測した。



【災害の概況】

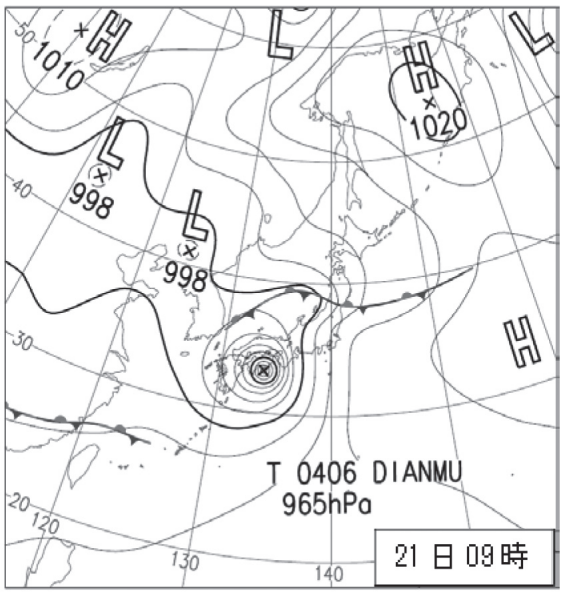
海南町浅川で民家の裏山が高さ約 15m，幅約 10m にわたり崩壊し，1 世帯が一時避難したが，民家や人への被害は無かった。

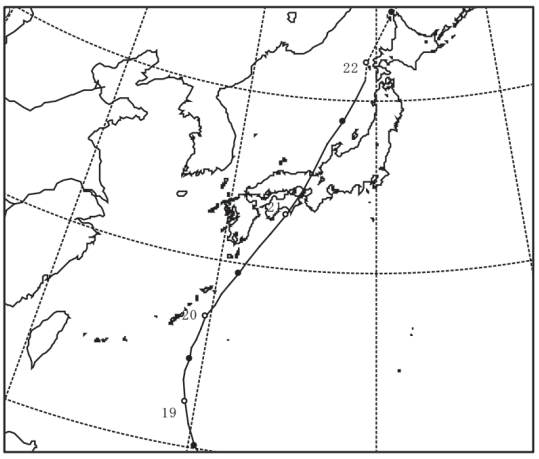
海南町で床上浸水 2 棟，床下浸水 19 棟，海部町で床下浸水 2 棟，宍喰町で床下浸水 4 棟の被害が発生。阿佐海岸鉄道の阿佐東線（高知県東洋町甲浦－海部）と，JR 牟岐線の由岐－牟岐，牟岐－海部で始発からそれぞれ 7 便が運休。海南町では国道などが冠水し一部通行止め。

2004年

［平成 16 年］

2004 年（平成 16 年）6 月 19 日～ 22 日　強風　大雨　波浪（台風第 6 号）



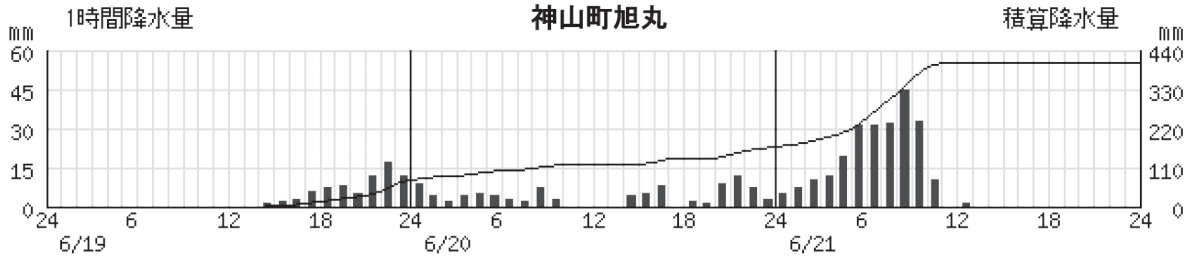


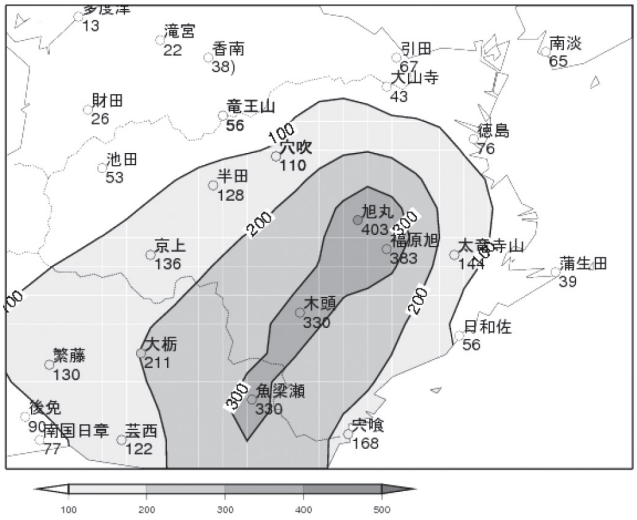
台風第 6 号　経路図

カロリン諸島近海で発生した台風第 6 号は，16 日には大型で非常に強い勢力に発達し，21 日 09 時 30 分頃，強い勢力のまま高知県室戸市付近に上陸した。21 日 13 時過ぎには兵庫県明石市付近に再上陸し日本海へ進んだ。この台風により徳島県では大荒れの天気となった。

最大風速は日和佐で 21 日 10 時 00 分に東南東の風 22m/s，最大瞬間風速は徳島市で 21 日 09 時 01 分に東南東の風 35.6m/s を観測した。

19 日から 21 日にかけての総降水量は神山町旭丸で 403㎜を観測した。また，上勝町福原旭では 21 日 09 時 10 分までの 1 時間に 53㎜の非常に激しい雨を観測した。





総降水量（㎜）

【災害概況】

強風で割れたガラスにより徳島市と阿南市の二人が軽傷。美郷村では，一棟が床下浸水。21 日 08 時 55 分頃と 09 時 10 分頃，鳴門市鳴門町土佐泊浦の神戸淡路鳴門自動車道で大型トレーラーとトラックが横転。10 時頃には，鳴門市撫養町大桑島の小鳴門橋で，トラックが欄干に倒れかかって停車。現場付近が約 2 時間通行止め。いずれの事故もけが人なし。

神戸淡路鳴門自動車道（淡路島南 IC －鳴門 IC）が 09 時 30 分から 14 時 00 分まで，高松自動車道（鳴門 IC －津田東 IC）で 09 時 30 分から 12 時 55 分まで通行止め。

一般道では，路面冠水や落石などで 50 ヶ所が通行止め。

航空便は，東京便 7 便，福岡便 3 便，名古屋便 2 便の計 12 便が欠航。

県内の JR 線全線と阿佐海岸鉄道が始発から運転を見合わせたが，各線は午後から夕方にかけて運転を再開。徳島と関西を結ぶ高速バスは早朝の一部の便を除き，県内の路線バスの多くは始発から，それぞれ午前中はバスの運行を見合わせ。

南海フェリーは 20 日午後の上下 8 便，21 日も全 16 便の上下 24 便，22 日上下 3 便が欠航。オーシャン東九フェリーもそれぞれ 1 便が欠航。

強風による断線などで 14 市町村の 17,534 戸が一時停電。

農作物では，鳴門市大麻町で 13.5ha で栽培しているモモの約 3 割が落果。同大津町では 320ha で栽培しているレンコンの約 1 割に茎折れや葉の傷みが発生。ナシも一部が落果するなど約 8 億 1 千万円の被害が発生。

県内の公立小中学校全 318 校と，公立高校 44 校が臨時休校。養護学校や盲学校，ろう学校は 8 校が臨時休校または自宅待機。

徳島市や由岐町など 20 市町村で，75 世帯計 105 人が自主避難。

由岐町 12 世帯 15 人。日和佐町 3 世帯 3 人。徳島市八万町中津山の 1 世帯 6 人。

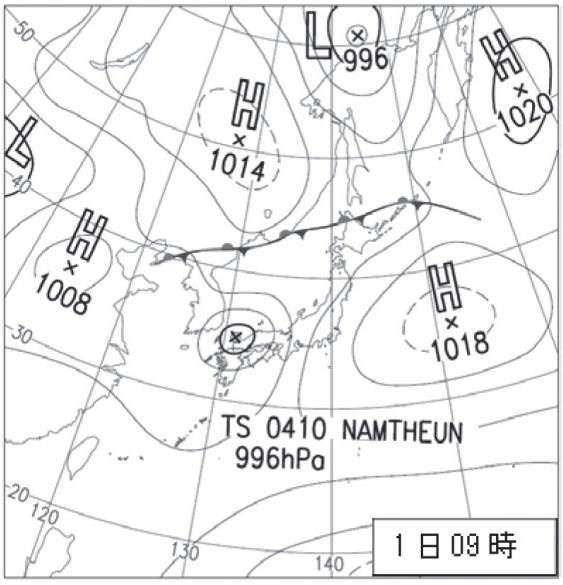
東祖谷山村新居屋の 1 世帯 2 人。上勝町旭の 1 世帯 1 人。海南町の 11 世帯 15 人など。

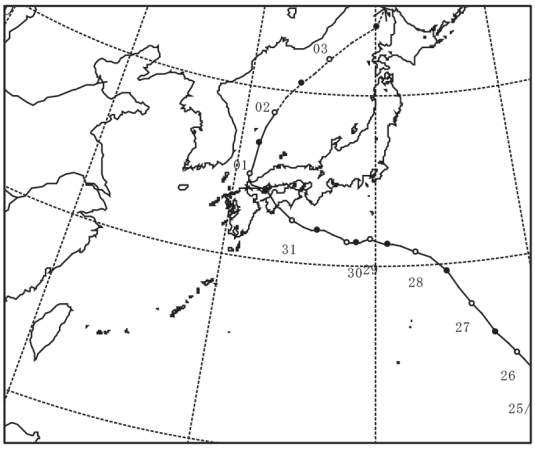
JR の運休は，高徳線 42 本，牟岐線 41 本，鳴門線 17 本，徳島線 46 本の計 146 本。

路線バスの運休は，徳島市営バス 28 路線 437 本，鳴門市営バス 8 路線 109 本，徳島バス 8 路線 281 本，四国交通 22 路線 56 本，南部バス 1 路線 26 本，西部交通 1 路線 4 本の計 913 本。

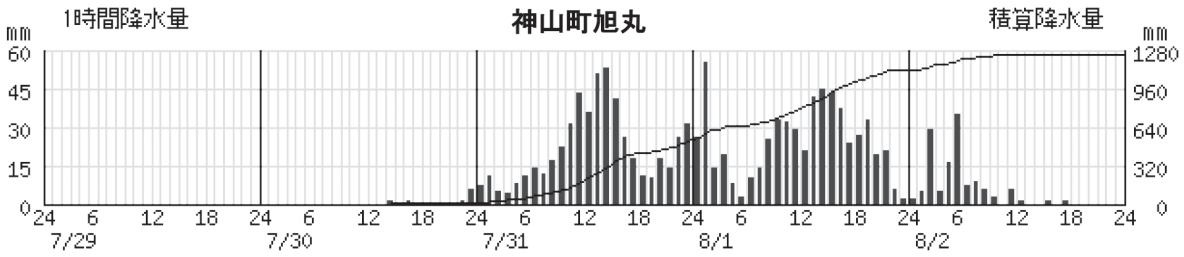
高速バスの運休は，13 路線 151 本。

2004 年（平成 16 年）7 月 30 日～ 8 月 2 日　大雨　強風　波浪（台風第 10 号）

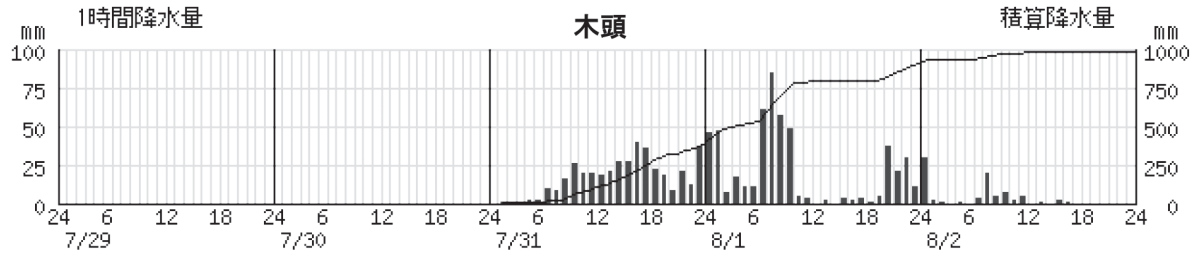


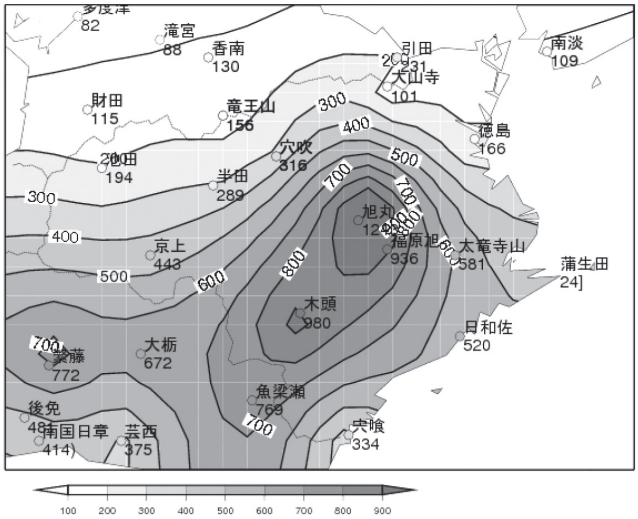


台風第 10 号　経路図



南鳥島の西海上で発生した台風第 10 号は発達しながら北西に進み，強い勢力を維持したまま 31 日 16 時過ぎに高知県西部に上陸した。その後，瀬戸内海を通って 31 日 21 時 30 頃に山口県岩国市付近に再上陸した。この台風により徳島県では大荒れの天気となった。





総降水量（mm）

7月30日から8月2日にかけての総降水量は上勝町旭丸で1,243㎜，木頭で980㎜，日降水量は8月1日に神山町旭丸で588㎜を観測した。また，木頭では8月1日08時20分までの1時間に90㎜の猛烈な雨を観測した。

最大風速は日和佐で31日12時10分に東の風22m/s，最大瞬間風速は徳島市で1日03時04分に南東の風28.1m/sを観測した。

【災害状況】

7月31日09時25分頃，日和佐町奥河内の男性（58）が自宅の一階屋根から転落し，骨盤を骨折。

8月1日08時頃，阿南市椿泊町の県道で，女性（71）が強風にあおられて転倒し骨折。

8月1日09時前，神山町上分では民家一棟が土砂崩れで一部損壊。

8月1日17時～20時頃，上那賀町白石，海川地区で土砂崩れで5棟が全壊，3棟が一部損壊。

8月1日22時前，木沢村掛盤で，民家一棟が半壊。

8月2日06時45分頃，木沢村坂州大用知で住宅が崩れた裏山の土砂に流され，夫婦2人が行方不明になった。

県下の土砂災害は，土石流7ヶ所，地すべり3ヶ所，山がけ崩れ14ヶ所の合計24ヶ所で発生。

住家の被害は，全壊9棟，半壊15棟，一部破損15棟，床上浸水5棟，床下浸水74棟。

上那賀町の国道193号や木沢村の県道が山腹崩壊により通行止めなど，国道36ヶ所，県道71ヶ所で通行止め。国道55号海部町鞆浦では越波により護岸が崩れ，7月31日17時～8月1日11時50分片側交互通行。

徳島自動車道（川之江東Ｊ－井川池田IC）は，8月1日18時～2日06時00分，神戸淡路鳴門自動車道（淡路南－鳴門IC）では，7月31日21時25分～8月1日07時50分まで通行止め。

航空便は，31日東京9便，名古屋4便，福岡4便，新千歳2便。1日福岡3便，新千歳1便の計23便が欠航。

海上交通は，南海フェリーが30日8便，31日24便，1日13便，オーシャン東九フェリーが30日2便，31日2便の合計49便が欠航。

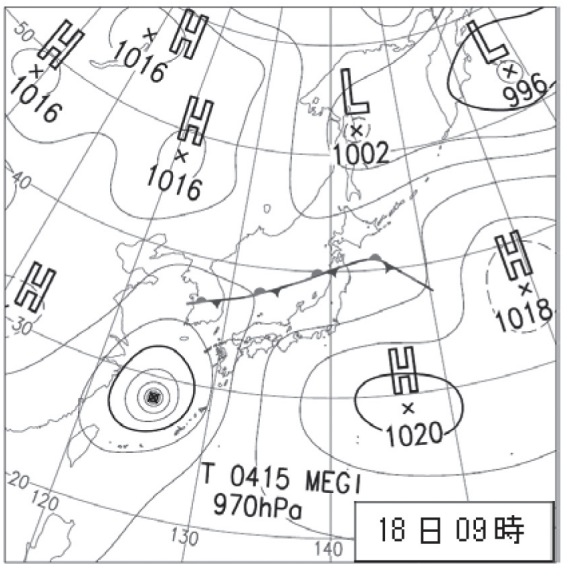
陸上交通は，高速バスが6路線26本，路線バス8路線55本。ＪＲが31日牟岐線，徳島線で運休。2日にも土讃線，牟岐線で運休。

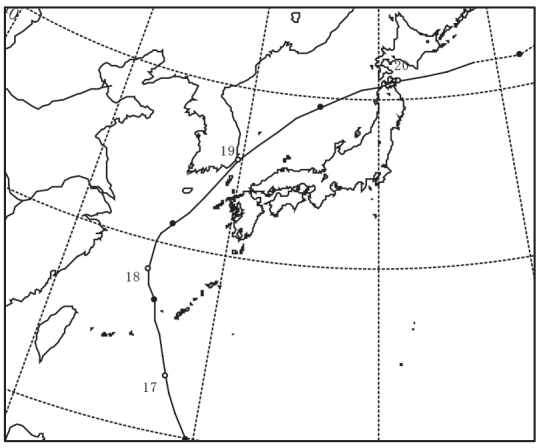
長安口ダムでは，網場（流木補足設備）が破損し，貯水池に延長600m，幅200mにわたり約10,000㎥の流木が流入した。

土石流に押し流されそうになる建物（徳島新聞社提供）

流木の流れる濁った川を上る自衛隊の船（徳島新聞社提供）

2004 年（平成 16 年）8 月 17 日～ 20 日　大雨　波浪　強風（台風第 15 号，暖気の移流）



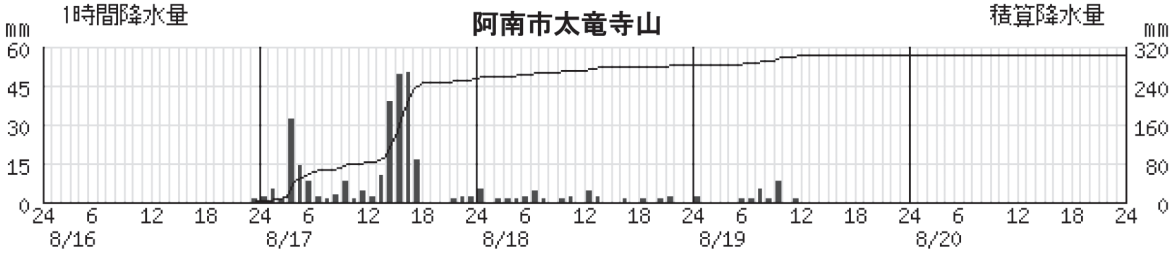


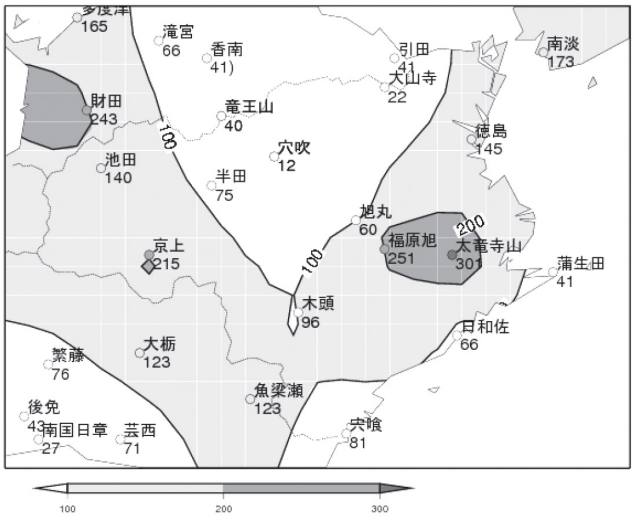
台風第 15 号　経路図

フィリピンの東海上で発生した台風第 15 号は，19 日には九州の西海上を通って，強い勢力を維持しながら日本海を北東に進み，20 日 06 時過ぎに青森県津軽半島に上陸した。

17 日から 18 日にかけて，台風の外側の暖かく湿った空気が西日本に流れ込み雨雲が発達し，徳島県では，17 日昼過ぎから激しい雨となった。

16 日から 19 日にかけての総降水量は阿南市太竜寺山で 301㎜，上勝町福原旭で 251㎜を観測した。





総降水量（㎜）

また，徳島市では最大瞬間風速が 19 日 07 時 08 分に南東の風 25.2m/s を観測した。

【災害概況】

住家の被害は，小松島市で床上浸水 5 棟，床下浸水 42 棟。

小松島市立江町では，土砂崩れのため花火製造工場の鉄骨平屋の倉庫が半壊。

有料道路は，徳島自動車道井川池田－川之江東 JCT 間で，8 月 17 日 16 時 10 分～ 8 月 18 日 00 時 30 分まで通行止め。

国道 32 号は，三好郡池田町西山地先で，8 月 17 日 17 時 00 分から 19 日 21 時 30 分まで，土砂流出のため片側交互通行。

県道・宮倉徳島線では，17 日 17 時 40 分頃小松島市田野町宮ノ下が冠水し，車 3 台が水につかって動けなくなったが，消防署員によりゴムボートで救助された。けがはなかった。その他，冠水や落石などで国道，県道合わせて 20 ヶ所で通行止め。

航空便は，17 日に東京便 2 便と福岡便 3 便，18 日にも東京便 2 便と福岡便 2 便が欠航。

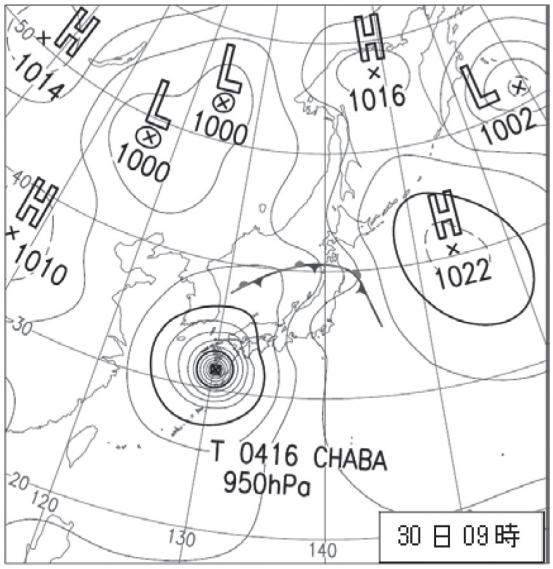
海の便では，南海フェリーが 19 日から 20 日にかけて 24 便欠航。

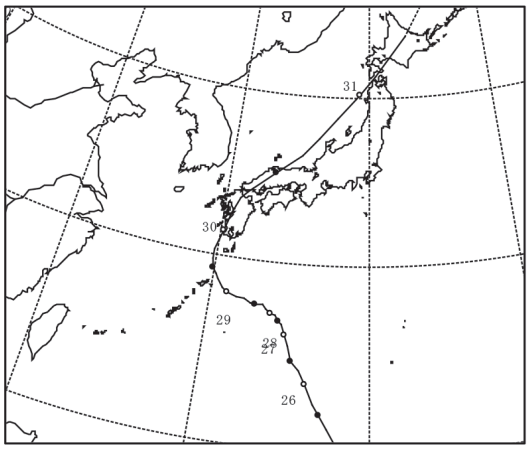
高速バスは，19 日高知線が 4 便運休。

避難の状況（自主避難）

上那賀町小浜　　1 世帯 1 名

2004 年（平成 16 年）8 月 28 日～ 31 日　強風　大雨　高潮（台風第 16 号）





台風第 16 号　経路図

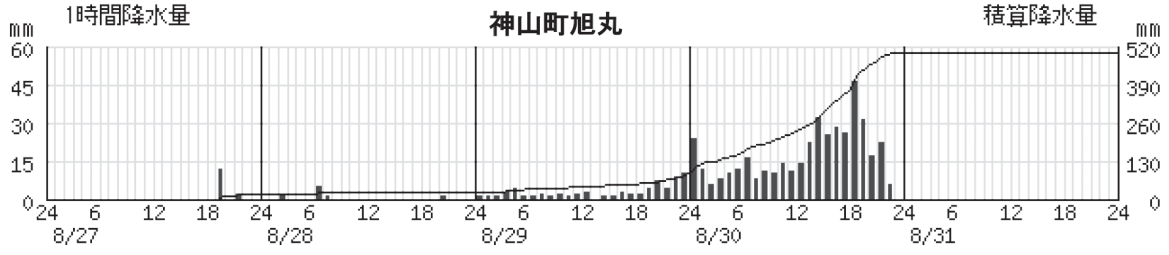
マーシャル諸島近海で発生した台風第 16 号は，大型で強い勢力を保ったまま 30 日 10 時前，鹿児島県串木野市付近に上陸し九州を縦断した後，30 日 17 時 30 分頃，山口県防府市付近に再上陸した。

徳島県は 30 日昼過ぎに暴雨域に入り，各地で暴風や大雨となった。

徳島市では最大風速が 30 日 19 時 50 分に南南東の風 27.6m/s，最大瞬間風速が 30 日 19 時 43 分に南の風 54.1m/s を観測した。

神山町旭丸では 28 日から 31 日にかけて総降水量 485㎜，日降水量 411㎜を観測した。また，東祖谷村山京上では 30 日 20 時 40 分までの 1 時間に 71㎜の非常に激しい雨を観測した。

最も潮位が高い時期と重なり，高潮の被害も発生した。



【災害概況】

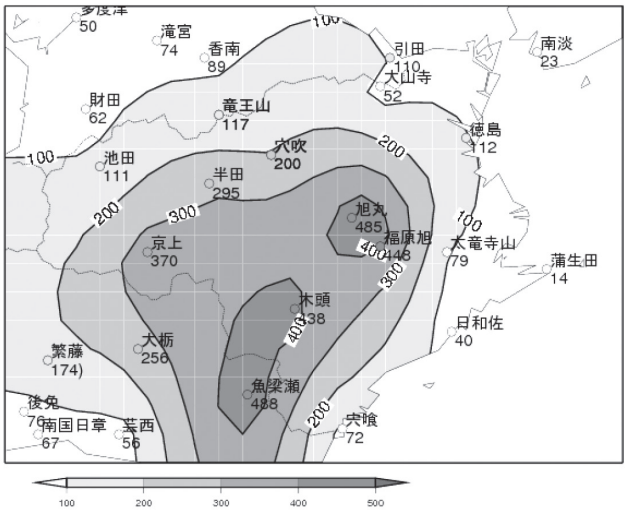
18 時 30 分頃，木屋平村谷口で山崩れが発生し民家が押しつぶされ，中にいた夫婦が生き埋めになったが，約 2 時間後に救出された。

21 時 30 分頃，東祖谷山村名頃で土石流が発生し，空家 1 棟が全壊。

31 日 03 時頃，木屋平村川上でも土石流で民家 1 棟が全壊したが，人的被害はなし。

このほか，強風に飛ばされて転倒するなど県内各地で 15 人が軽傷。

18 時 30 分頃，徳島市川内町沖島の榎瀬江湖川が増水し，一時的に川の水が堤防を越え，20 時，徳島市は周辺地区住民に避難勧告を出し，30 世帯 50 人が避難。



総降水量（mm）

池田町では吉野川が増水し，池田町シマの 20 棟が床下浸水。

23 時頃，鳴門市瀬戸町堂浦の日出地区で，水位が上昇していた日出湾の海水が岸壁を越え，道路や住宅に流れ込み 25 棟が床上・床下浸水。増水した吉野川で学島潜水橋（川島町）と脇町潜水橋（脇町－穴吹町）の 2 本が流失。

農作物被害は，県央・県北部を中心にナスやナシなどに計 4 億 6,000 万円の被害。

県内で延べ約 87,000 棟が停電。

南海フェリーは，28 日 11 便，29 日と 30 日は全便，31 日 10 便の計 45 便が欠航。

オーシャン東九フェリー 29 日と 30 日の各 2 便の計 4 便が欠航。

航空便は，30 日に東京 11 便，福岡 4 便，名古屋 4 便，札幌 1 便，31 日には東京 1 便，福岡 4 便，札幌 1 便の計 26 便が欠航。

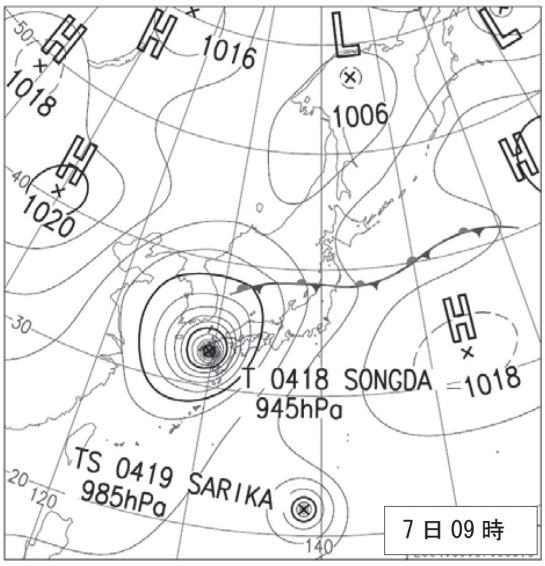
JR は高徳線（徳島－引田），徳島線，鳴門線が 14 時 30 分から，牟岐線では 19 時から最終便まで運休。

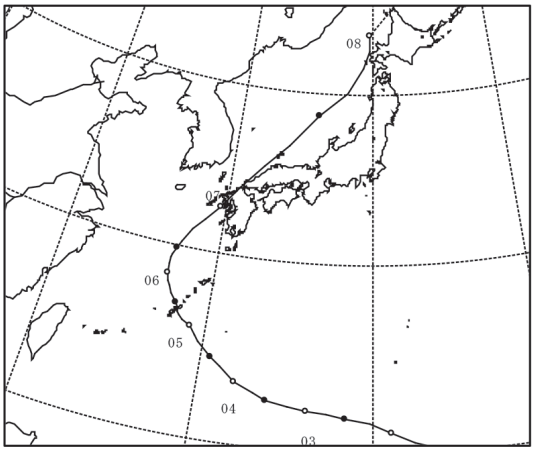
高速バスは，30 日に 18 路線 189 便。31 日には 1 路線（関西空港）2 便が運休。

路線バスは，鳴門市営バス 15 時から，徳島バス，徳島市営バス，小松島市営バス，17 時から最終便まで運休。

有料道路通行止めは，神戸淡路鳴門道淡路島南 IC －鳴門 IC 間が 30 日 11 時 00 分～ 03 時 05 分，徳島自動車道が 30 日 15 時 50 分～ 31 日 04 時 40 分。高松自動車道鳴門 IC －板野 IC 間が 30 日 20 時 20 分～ 31 日 03 時 05 分。

2004 年（平成 16 年）9 月 6 日～ 9 日　強風　大雨　波浪（台風第 18 号）





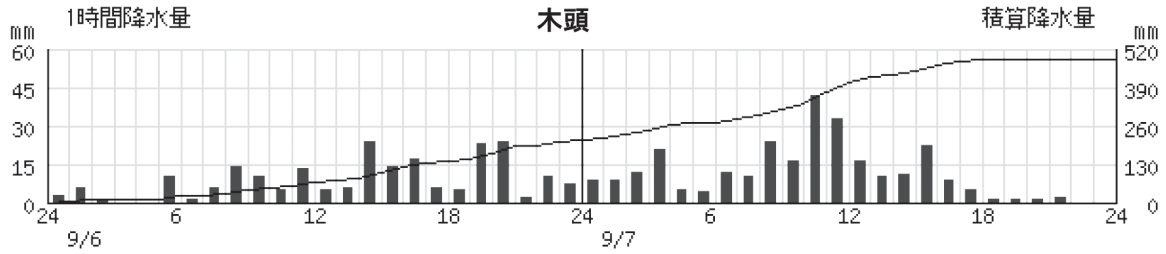
台風第 18 号　経路図

マーシャル諸島近海で発生した台風第 18 号は，9 月 5 日に大型で非常に強い勢力で沖縄本島北部を通過，7 日 09 時 30 分頃，長崎県長崎市付近に上陸して九州北部地方を横断し，7 日午後には山陰沖に達した。この台風により徳島県では各地で暴風や大雨となった。

徳島市では最大風速が 7 日 13 時 50 分に南南東の風 23.2m/s，最大瞬間風速が 7 日 13 時 49 分に南東の風 45.4m/s を観測した。

木頭では 6 日から 9 日にかけて総降水量 487mm，日降水量 275mmを観測した。また，東祖谷村山

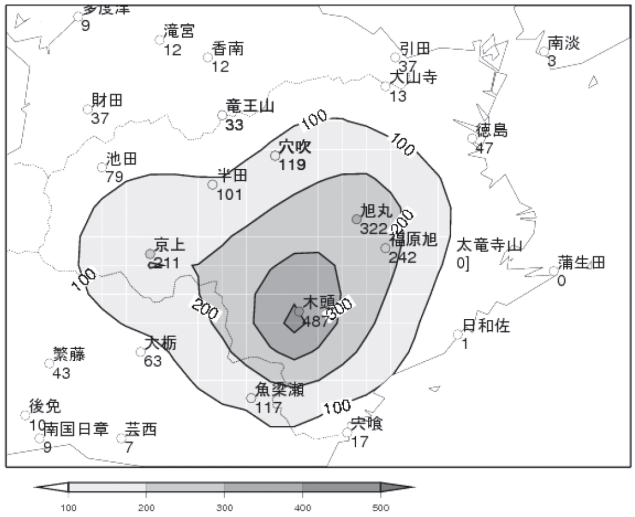
京上では 7 日 16 時 10 分までの 1 時間に 57㎜の非常に激しい雨を観測した。



【被害概況】

7 日 14 時頃，池田町松尾で住宅の屋根の一部が突風にあおられて損壊し，軒下にいた女性が骨折。7 日 15 時頃，鳴門市鳴門町土佐泊浦でも男性が強風で転倒し，重傷を負った。その他にも強風により転倒するなどで 4 名の負傷者がでた。

住家の被害は，強風により鳴門市北灘町櫛木で 1 棟が全壊。屋根が吹き飛ばされるなどで半壊が 4 棟。鳴門市を中心に屋根瓦の破損などの一部破損が 78 棟。鳴門市内は高潮にも見舞われ，床上浸水 6 棟，床下浸水 22 棟。



総降水量（㎜）

高速道路の通行止めは，神戸淡路鳴門自動車道（鳴門 IC －淡路島南 IC）7 日 15 時 40 分～ 22 時 30 分。徳島自動車道（徳島 IC ～土成 IC）7 日 13 時 15 分から 17 時 25 分，同じく（井川池田 IC －川之江東 JCT）7 日 11 時 15 分から 19 時 00 分。

一般道では，国道 32 号で 7 日 14 時 00 分～ 8 日 09 時 00 分まで，193 号，195 号，438 号でも事前通行止め。

航空便：6 日福岡上下 2 便。7 日東京便上下 9 便。名古屋便上下 4 便。福岡便上下 4 便。8 日福岡便下 1 便の合計 20 便が欠航。

南海フェリーは，7 日上下 23 便。8 日上下 8 便の計 31 便欠航。オーシャン東九は，7 日上下 2 便欠航。

JR：7 日牟岐線 13:30 ～，徳島線 13:00 ～，鳴門線 13:00 ～，高徳線 15:00 ～，阿佐東線 11:46 からの全線で列車運転見合せ。

バス：7 日徳島市交通局（徳島駅発 138 便・終点発 141 便）合計 279 便運休。鳴門市営バス（鳴門公園線・高島線）など各線で 90 便が運休。高速バス：7 日 07 時 30 分以降の京阪神方面上下 204 便運休。

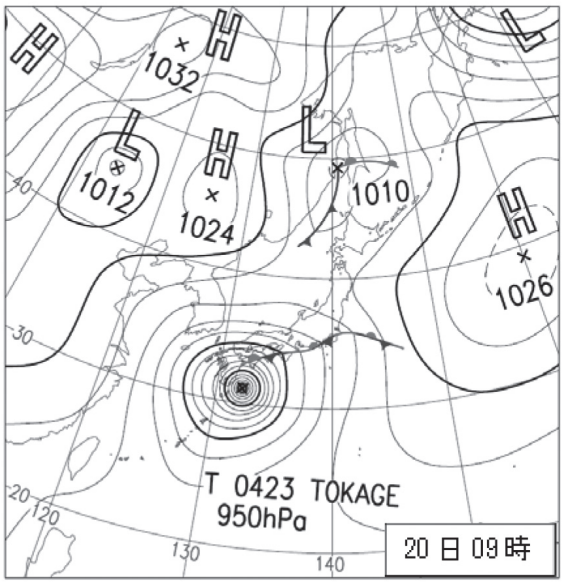
停電：池田，山城町など約 2,900 戸，総件数約 3 万 9,000 戸。

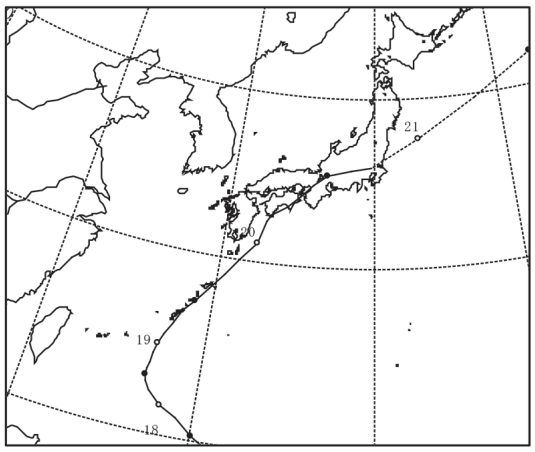
2004 年（平成 16 年）10 月 19 日～ 20 日　大雨　強風　波浪（台風第 23 号）

マリアナ諸島近海で発生した台風第 23 号は，大型で強い勢力を保ったまま 20 日 13 時頃，高知県土佐清水市付近に上陸し，20 日 15 時過ぎに高知県室戸市付近に再上陸した。この台風により徳島県では各地で大雨や暴風となった。

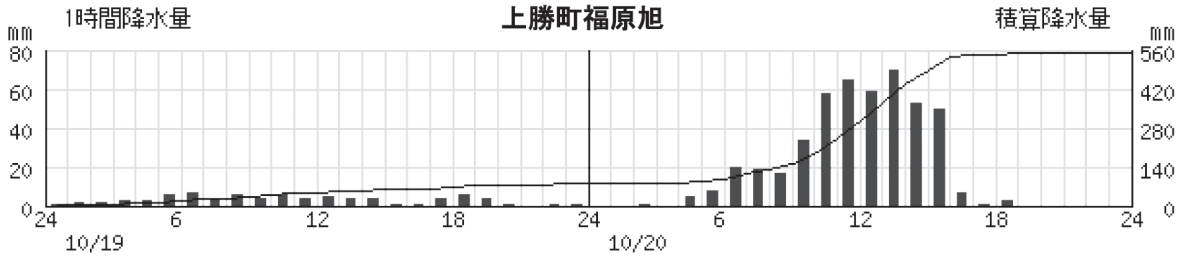
19 日から 20 日にかけての総降水量は上勝町福原旭で 549㎜，徳島市で 349㎜，日降水量は 20 日に上勝町福原旭で 470㎜を観測した。また，神山町旭丸では 13 時 30 分までの 1 時間に 74㎜の非常に激しい雨を観測した。

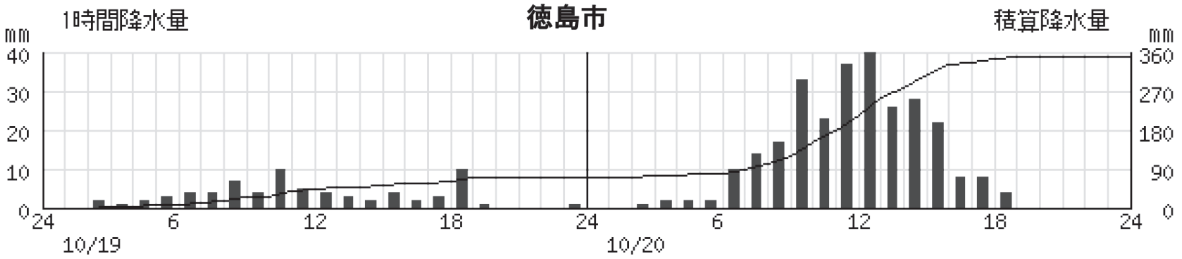
最大風速は日和佐で 20 日 11 時 50 分に東の風 22m/s，最大瞬間風速は徳島市で 20 日 14 時 16 分に南南東の風 36.1m/s を観測した。

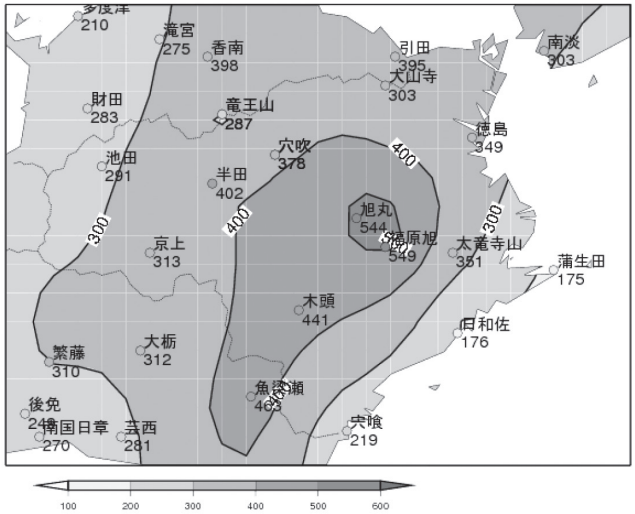




台風第 23 号　経路図







総降水量（㎜）

【災害概況】

人的被害：死者 3 名，負傷者 1 名

徳島市上八万町下中筋，無職の男性が 20 日 15 時 20 分頃，自宅近くの市道から農業用水に転落し死亡。

21 日，徳島市八万町沖須賀の冷田川と吉野川市鴨島町飯尾でそれぞれ 1 名が死亡。

住家被害：全壊 4 棟, 半壊 15 棟, 一部破損 50 棟, 床上浸水 1,754 棟，床下浸水 4,581 棟

県は 21 日，床上浸水被害が多数出た徳島，鳴門, 小松島, 吉野川の 4 市への災害救助法を適用。

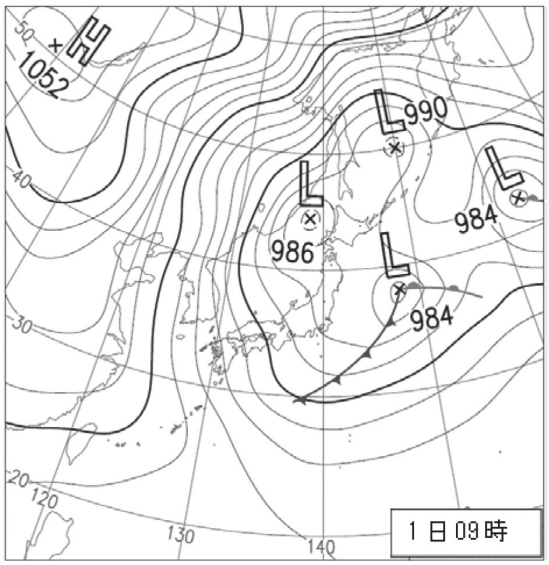
道路通行規制は，県管理の道路では，路面冠水で 78 ヶ所，山腹崩壊・落石などで 48 ヶ所など計 188 ヶ所で通行止め。

濁った川のような道と土嚢積み作業（徳島新聞社提供）

2005年

［平成 17 年］

2005 年（平成 17 年）1 月 31 日～ 2 月 2 日　大雪（寒気の移流）



1 月 31 日から 2 月 2 日にかけて四国地方の上空約 5,500m に－36℃以下の強い寒気が入り，冬型の気圧配置が強まった。このため徳島県では山地を中心に大雪となり，県下全域で厳しい冷え込みとなった。

徳島市では 1 日 09 時に 1cmの積雪を観測した。また，日最低気温は東祖谷山村京上で 1 日 15 時 10 分に－7.4℃，徳島市で 1 日 14 時 40 分に－2.7℃を観測した。

【災害概況】

JR：徳島線，牟岐線で普通列車が最大 23 分の遅れ。

高速バス：徳島～松山間 8 便，徳島～広島間 4 便が運休。徳島～高知が最終便を除いて 7 便運休。

路線バス：徳島バスは神山，丹生谷，勝浦などの山間部路線で早朝の運行ができず，10 時から 16 時まで不定期運行。鳴門方面に向かう便も，雪による渋滞で最大 1 時間 20 分の遅れ。徳島市バスも 20 分～ 1 時間の遅れが相次ぎ，3 本の運行を取りやめた。

航空便:1 日福岡便上下 3 便欠航, 1 便遅延, 東京便 1 便遅延。2 日福岡便 1 便欠航, 東京便 2 便欠航, 名古屋便 2 便遅延。

通行止：外環状線末広大橋 1 日 13 時～ 16 時 30 分。

速度規制：神戸淡路鳴門自動車道（鳴門－鳴門北），高松自動車道（鳴門－香川県境），徳島自動車道（全線）で 40 ～ 50kmの速度規制。

スリップ事故：積雪や路面凍結に伴う事故は 186 件（軽傷人身 31 件，物損 155 件，負傷 35 人）。

交通渋滞：07 時ごろに阿南市と羽ノ浦町を結ぶ国道 55 号と，県庁前の県道徳島小松島線で約 3 kmの渋滞。

学校関係：神山町，勝浦町，佐那河内村などの山間部を中心に小学校 10 校，中学校 5 校，高校 5 校の計 20 校が臨時休校。

2005 年（平成 17 年）4 月 26 日～ 9 月 7 日　少雨（長期）（中緯度高気圧，太平洋高気圧）

4 月から 5 月にかけては数日の周期で天気は変わったものの崩れの程度が比較的小さく，高気圧に覆われて晴れの日が多く降水量が少なかった。四国地方は 6 月 11 日ごろに梅雨入りするも, 6 月, 7 月と少雨傾向であった。7 月 16 日ごろに梅雨明けした後は太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多く，この少雨傾向は 9 月 4 ～ 7 日の台風第 14 号による大雨でようやく解消された。

【被害状況】

高知県の早明浦ダムは，6 月 15 日に徳島用水，香川用水の新規用水を 20.0% 削減する第一次取水制限を行い，7 月 2 日と 9 日に一時的解除をするが，13 日から再び取水制限となり，8 月 20 日に早明浦ダムの貯水率が 0.0% となったため，池田ダムより発電容量の水の補給を開始した。

また，長安口ダム・小見野々ダムは，4 月 26 日から農業用水，工業用水を 15% 削減する第一次取水制限を開始し，その後も制限を繰り返した。

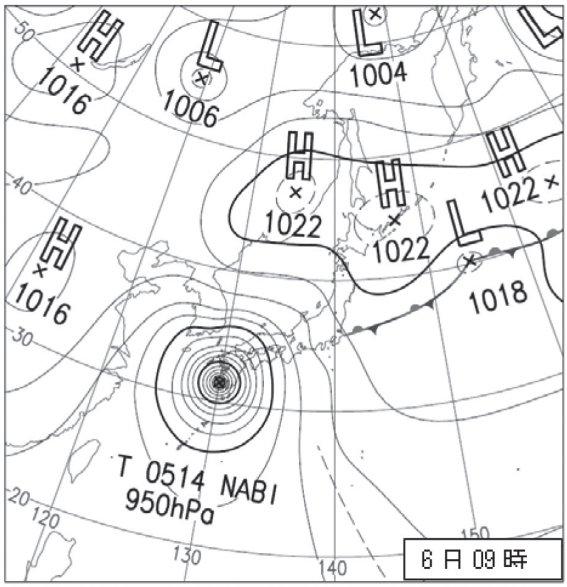
9 月 4 ～ 7 日の台風第 14 号による雨で，早明浦ダム・長安口ダム・小見野々ダムの取水制限は全面解除となった。この渇水による那賀川流域（長安口ダム・小見野々ダム）の利水企業 12 社のうち，減産などを行っていた 7 社が工業被害にあった。那賀川渇水の工業被害 7 社 4 月 26 日～ 7 月 11 日 49 億 6,000 万円，8 月 3 日～ 9 月 4 日 18 億 9,000 万円，合計 68 億 5,000 万円

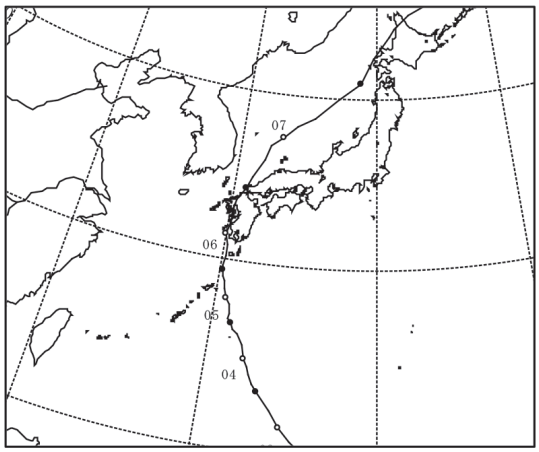
2005 年（平成 17 年）9 月 4 日～ 7 日　強風　大雨　波浪（台風第 14 号，停滞前線）

マリアナ諸島近海で発生した台風第 14 号は，大型で非常に強い勢力に発達し，広い暴風域を維持したまま九州地方の西岸に沿って北上，6 日 14 時過ぎに長崎県諫早市付近に上陸した。台風は

その後九州北部地方を通過し，日本海を北東に進んだ。この台風により徳島県では大荒れの天気となった。

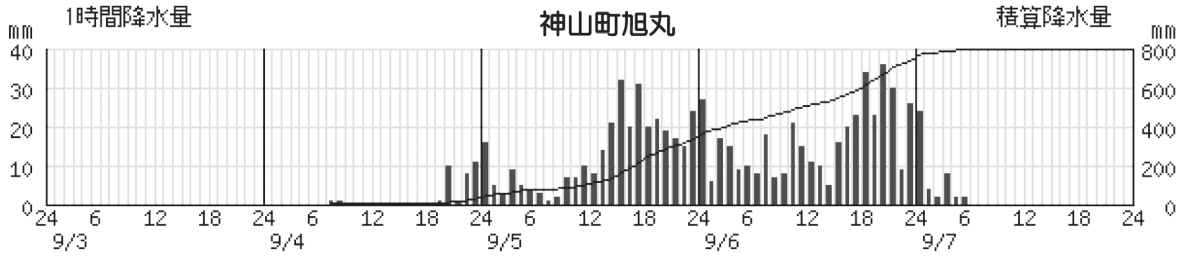
徳島市では最大風速が 7 日 00 時 10 分に南南東の風 22.4m/s，最大瞬間風速が 6 日 23 時 27 分に南南東の風 41.8m/s を観測した。

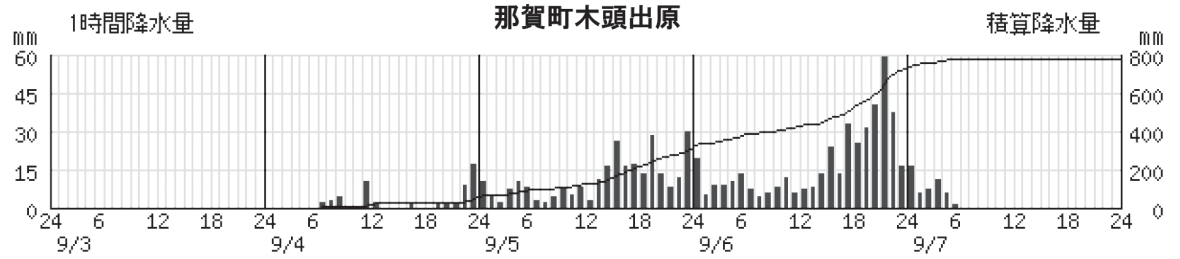




台風第 14 号　経路図

9 月 4 日から 9 月 7 日にかけての総降水量は神山町旭丸で 794㎜，那賀町木頭出原で 777㎜，日降水量は 6 日に那賀町木頭出原で 414㎜を観測した。また，上勝町福原旭では 6 日 21 時 50 分までの 1 時間に 69㎜の非常に激しい雨を観測した。





【被害状況】

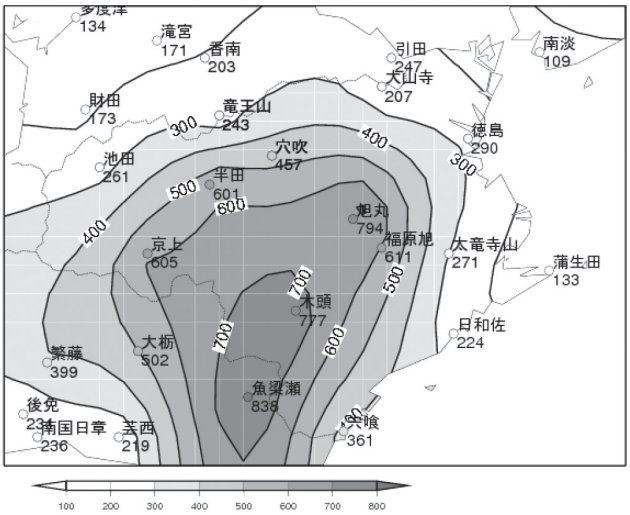
人的被害：6 日 15 時 55 分ごろ，石井町高川原の用水路で，近くの男性（72）が死亡。

住家被害：一部破損：9 棟・床上浸水：42 棟・床下浸水：62 棟

臨時休校：県内 397 校のうち，257 校が休校。98 校が授業の終了時間を切り上げた。

一般道路：那賀町木頭西宇の国道 195 号の北側斜面で 5 日夜，高さ 8m，幅 15m にわたって山肌が崩れ，国道は全面通行止め。那賀町平谷から高知県境までの国道 195 号や海南町小川の同 193 号など国道 16 区間が通行止め。県道は，徳島市内の徳島環状線・末広大橋など 20 区間で通行止め。

有料道路：神戸淡路鳴門道鳴門 IC ～淡路島南 IC 間 6 日 12 時 50 分～ 7 日 5 時 00 分



総降水量（mm）

ガードレールと側壁のみ残し崩れ落ちた川沿いの道
（徳島新聞社提供）

徳島自動車道美馬～井川池田 IC 間 6 日 18 時 30 分～ 7 日 5 時 20 分

土成～徳島 IC 間 6 日 19 時 10 分～ 7 日 5 時 20 分

井川池田 IC ～川之江東 JCT 間 6 日 19 時 45 分～ 7 日 6 時 45 分

路線バス 6 日徳島市交通局 19 時～，鳴門市営バス 14 時 30 分～，徳島バス 18 時～，小松島市営 18 時 30 分～，各線で運休。

高速バス：全線運行中止 327 便

鉄道：JR10 時以降徳島県内全線運転見合わせ 171 便

阿佐海岸鉄道 11 時以降運転見合わせ 28 便

航空便：6 日福岡便上下 4 便，東京便上下 16 便，名古屋便上下 4 便の合計 24 便が欠航

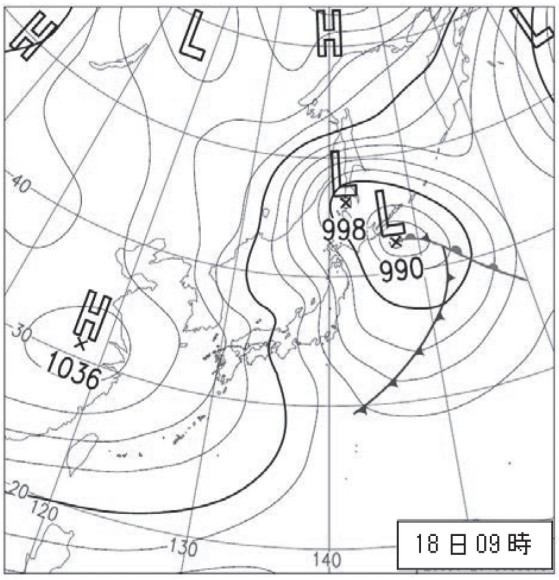
7 日福岡便下 1 便，東京便上下 5 便の合計 6 便が欠航

海上:南海フェリー 4 日上下 2 便，5 日上下 24 便，6 日上下 14 便，7 日上下 17 便の計 57 便欠航。

オーシャン東九フェリー 5 日上下 2 便，6 日上下 2 便，7 日上下 2 便の計 6 便欠航。

停電：徳島市 204 戸，山城町 1,029 戸など 21 市町村で総件数 35,155 戸。

2005 年（平成 17 年）12 月 17 日～ 18 日　大雪　低温（寒気の移流）



12 月 17 日から 18 日にかけて，四国地方の上空約 5,500m 付近に－36℃以下の非常に強い寒気が流れ込み，冬型の気圧配置が強まったため，県全域で大雪となった。

徳島市では 18 日 03 時に積雪 6cmを観測し，12 月の月最深積雪の 3 位となり，12 月としては 1924 年（大正 13 年）12 月 12 日以来，81 年ぶりの大雪となった。

また，日最低気温は 18 日 01 時 20 分に東祖谷村山京上で－5.5℃，18 日 00 時 35 分に徳島市で－1.2℃を観測した。

【災害状況】

JR：各線とも雪により運転の見合わせや遅延（本数は不明）。

高速バス：18 日徳島バス，徳島～大阪線・徳島～

神戸線，徳島～高松線の 46 便が運休。また，JR 四国バス，四国交通バスも午前中の便が運休（本数は不明）。

路線バス：徳島バス，神山線が終日運休するなど 189 便が運休。

徳島市バス，小松島市バス，鳴門市バスも 10 時から 11 時頃まで運休（本数は不明）。

四国交通では午前中の全便が運休（本数は不明）。

通行止め：徳島自動車道（徳島 IC ～川之江東 JCT 間）全線，外環状線末広大橋（徳島市）17 日 21 時～ 18 日 12 時。

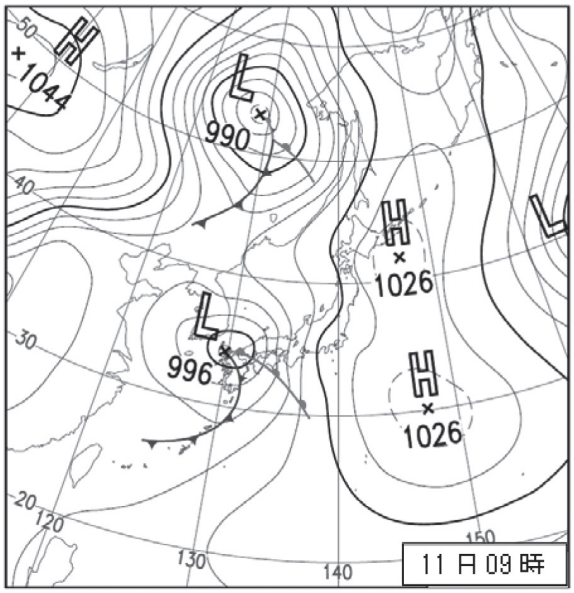
速度規制：神戸淡路鳴門自動車道（鳴門 IC ～鳴門北 IC 間），高松自動車道（鳴門 IC ～香川県境間）

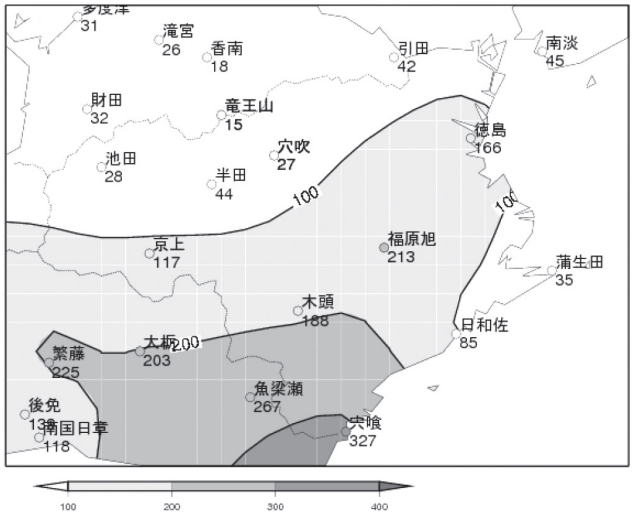
航空：18 日東京便 2 便欠航。

2006年

[平成 18 年]

2006 年（平成 18 年）4 月 10 日～ 11 日　大雨　波浪（日本海低気圧）





総降水量（mm）

10 日から 11 日にかけて，上空に寒気を伴った低気圧が九州北部から山陰沖へ東進。この低気圧に伴う前線の活動が活発になり，徳島県では南部を中心に大雨となった。

宍喰では 4 月 10 日から 4 月 11 日にかけての総降水量 327㎜，11 日 12 時 30 分までの 1 時間に 52㎜の非常に激しい雨を観測した。また，徳島市では 11 日 09 時 23 分に南東の風 24.3m/s の最大瞬間風速を観測した。

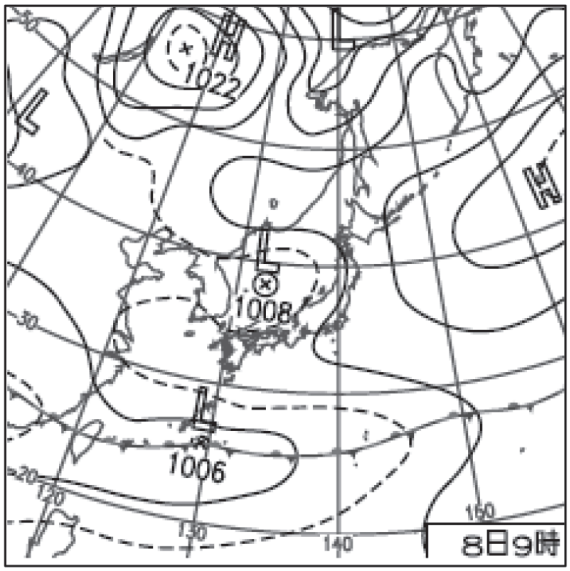
【災害概況】

この雨により，美波町で土砂崩れが 1 箇所，海陽町では 41 世帯が床下浸水した。交通関係では，国道，県道の 21 箇所が冠水のため通行止めとなり，フェリーが 9 便，徳島空港発着便の航空機 9 便が欠航となった。

2007年

[平成 19 年]

2007 年（平成 19 年）6 月 8 日～9 日　ひょう（あられ）雷雨（寒気の移流）



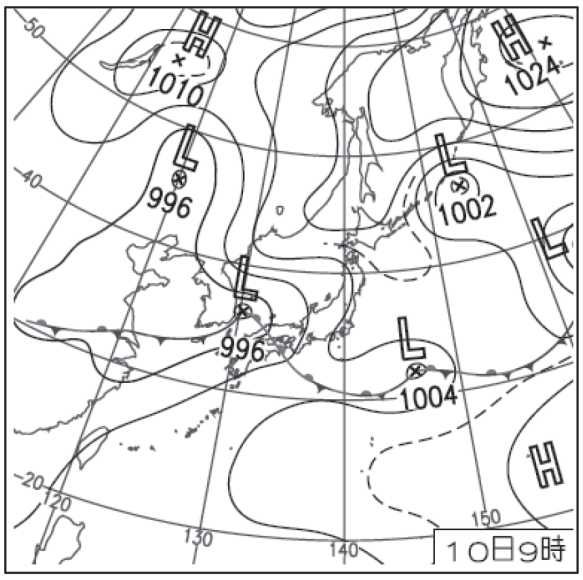
8 日から 9 日にかけて動きの遅い上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となった。このため，徳島県では積乱雲が発達し，8 日午後から局地的に雷を伴った激しい雨となり，北部を中心にひょうが降った。

徳島市では 8 日 23 時 07 分に西北西の風 23.7m/s の最大瞬間風速を観測した。

【災害概況】

徳島県北部（徳島市，吉野川市，阿波市，石井町，上板町）を中心に，18 時頃と 23 時頃に直径約 1 cm の降ひょうがあり，収穫直前の葉タバコや野菜など農作物に被害が発生した。また，落雷のため徳島県下 8,600 戸が停電となった。

2007 年（平成 19 年）7 月 10 日　大雨（梅雨前線）

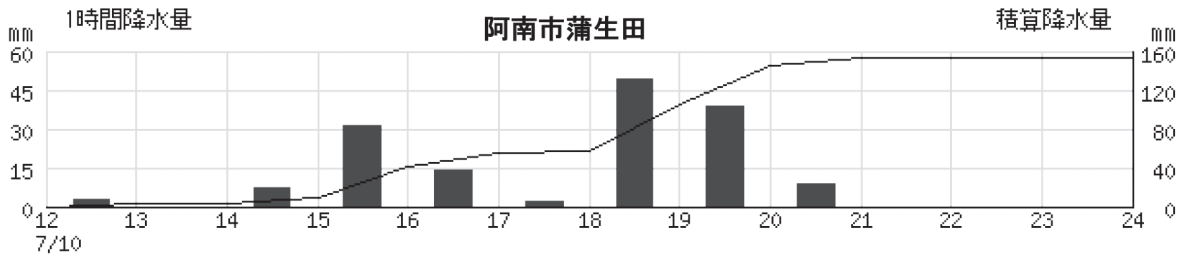


山陰沿岸に停滞する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み，県南部を中心に大雨となった。

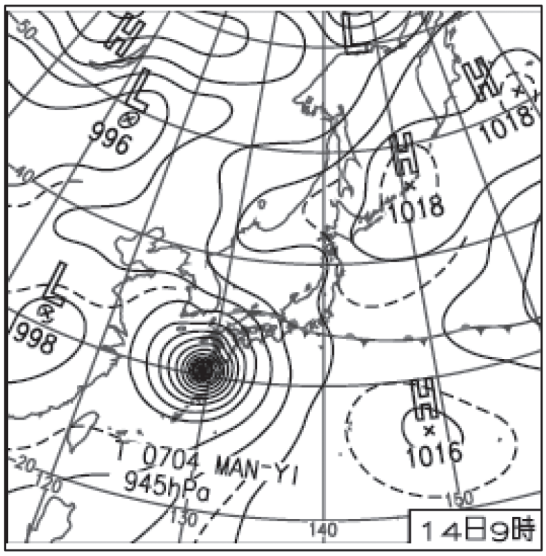
阿南市蒲生田では 10 日に日降水量 161㎜，19 時 30 分までの 1 時間に 80㎜の猛烈な雨を観測した。

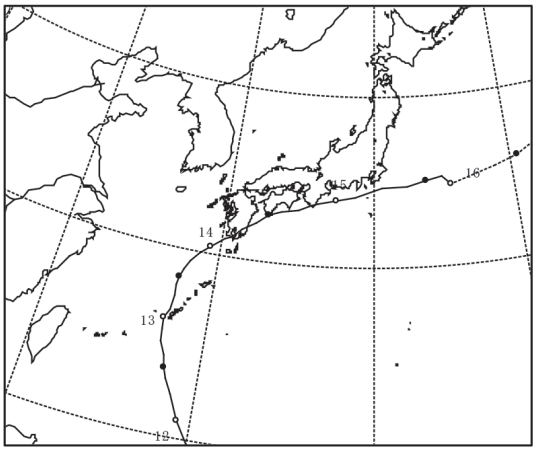
【災害概況】

阿南市では椿泊町で鉄砲水のため住家の離れ 1 棟が浸水するなど，床上浸水 2 棟，床下浸水 5 棟が浸水し，椿町では，土砂崩れにより家の進入路が埋まった。また，国道 55 号が冠水のため，18 時 45 分から 19 時 35 分にかけて片側通行規制，および阿南市椿町小曲で県道福井椿泊加茂前線が 11 日 10 時から通行止めとなった。公共交通機関では，JR 四国牟岐線（桑野～牟岐間）が，19 時 30 分～ 22 時 07 分にかけ運休となった。



2007 年（平成 19 年）7 月 12 日～ 15 日　大雨　強風　波浪（台風第 4 号）

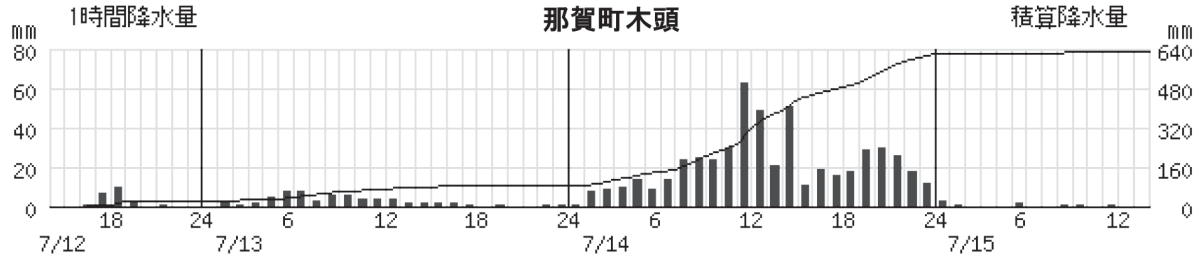


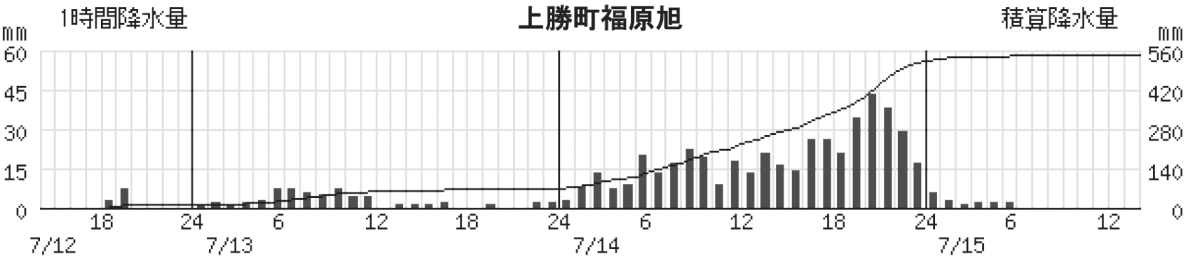


台風第 4 号　経路図

台風第 4 号が沖縄地方を北上，14 日 14 時頃鹿児島県鹿屋市付近に上陸した後，大型で強い勢力を保ったまま 14 日 21 時に高知県土佐清水市付近を通過して，15 日 05 時に和歌山県串本町付近から関東沖へ進んだ。台風の北上に伴い徳島県では，台風を取り巻く発達した雨雲がかかり各地で大雨となった。

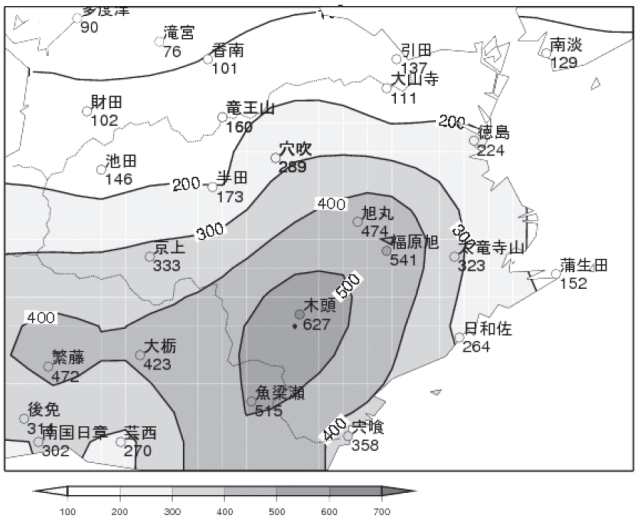
12 日から 15 日にかけての総降水量は那賀町木頭出原で 627㎜, 上勝町福原旭で 541㎜を観測した。また，那賀町木頭出原では 14 日に日降水量 531㎜，14 日 12 時 20 分までの 1 時間に 67㎜の非常に激しい雨を観測した。徳島市では最大風速が 14 日 22 時 50 分に南東の風 15.9m/s，最大瞬間風速は 14 日 22 時 43 分に南東の風 29.2m/s を観測した。





【災害概況】

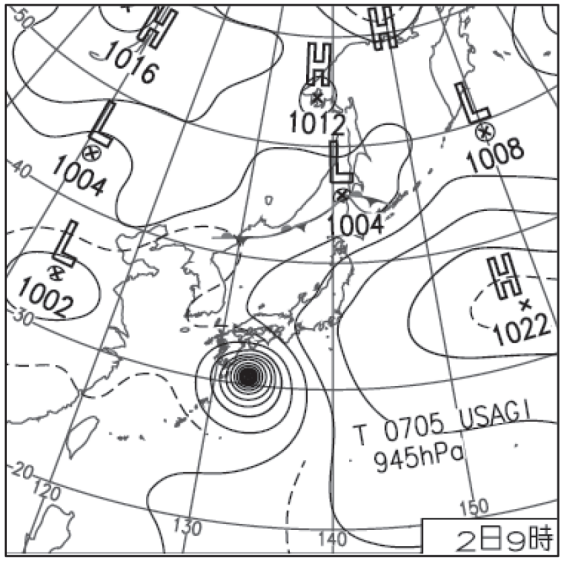
14 日夕方，田圃を見回りに行った男性が誤って用水路に転落し死亡した。大雨により 2 棟が床下浸水した。また 14 日から 15 日にかけて交通機関に大きな影響が出た。山腹崩壊・落石による道路の通行止め 4 箇所，道路冠水による通行止め 7 箇所および通行止め規制雨量を超えるなどで計 46 箇所で全面通行止めとなった。高速道路では，大鳴門橋及び高松自動車道が一時的に通行止め，県内の路線バスも運休が相次いだ。JR 四国では 14 日の始発から順次，牟岐線など全線で運転を見合わせ，特急を含む計 638 本が運休した。また，空の便，海上交通機関も欠航が相次いだ。また，

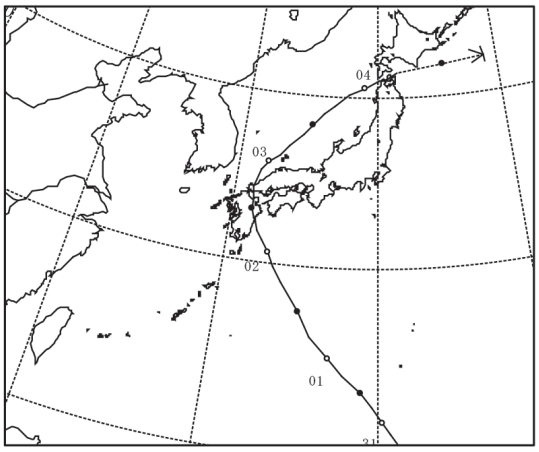


総降水量（mm）

14 日から 15 日にかけ延べ 6,014 戸が停電した。農林水産業にも大きな被害があり，被害総額は 9 億 5,900 万円にのぼった。

2007 年（平成 19 年）8 月 2 日～3 日　大雨　強風（台風第 5 号）



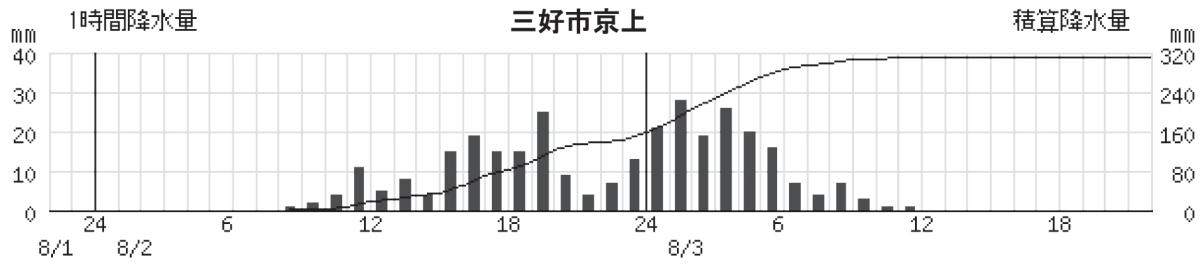


台風第 5 号　経路図

台風第 5 号は四国の南海上を北上し，8 月 2 日 18 時前に強い勢力で宮崎県日向市付近に上陸した。その後，勢力を弱めながら 3 日 01 時過ぎに山口県宇部市付近に再上陸し，日本海に進んだ。

徳島県では，台風の接近に伴い 2 日から 3 日にかけて山地を中心に大雨となった。

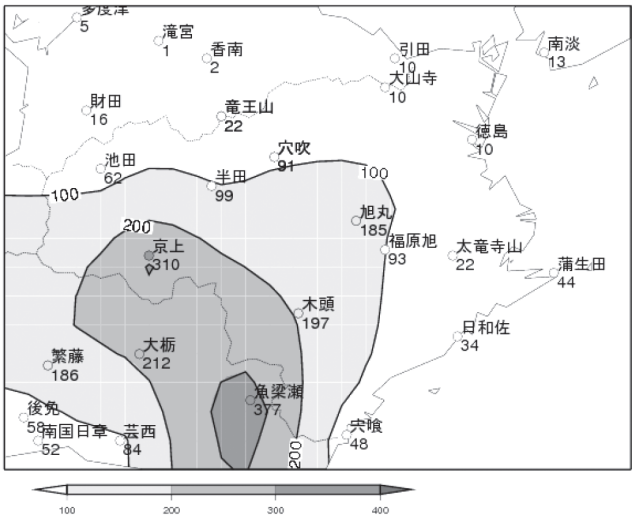
三好市京上では 2 日に日降水量 157㎜を観測した。また，徳島市では最大風速が 3 日 01 時 40 分に南南東の風 16.7m/s，最大瞬間風速が 3 日 01 時 28 分に南南東の風 33.2m/s を観測した。



【災害概況】

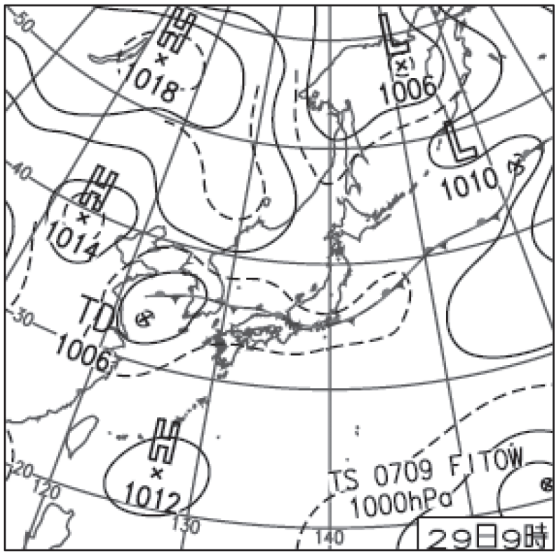
3 日，強風のため美馬市木屋平の木造住宅の屋根が飛ばされた。また，強雨により三好市東祖谷山村の久保と落合で土砂崩れが発生した。2 日から 3 日にかけ交通機関に大きな影響がでた。県が

管理している道路24箇所で通行止めとなったほか，国道32号の三好市山城町で一時通行止め，高速道路では大鳴門橋が一時通行止めとなった。鉄道ではJR四国が，2日は全面運休や一部運休，3日は一部運休などの影響が出た。阿佐海岸鉄道では2日19時以降が運休となった。航空便では，2日の福岡線で計2便が運休した。フェリーでは南海フェリーが2日から3日にかけ計26便，オーシャン東九フェリーが2日の1便が欠航となった。また，農作物にも大きな影響が出た。レンコンの葉が傷ついたり，梨の実が落ちるなど被害額は1億3,300万円に上った。また，3,297戸で停電となった。



総降水量（mm）

2007年（平成19年）8月29日　竜巻（前線帯）



日本海から停滞前線がゆっくりと南下し，徳島県では暖かく湿った空気や上空の寒気の影響により大気の状態が非常に不安定となり，徳島市付近を中心に活発な積乱雲が発達した。この積乱雲の通過に伴い29日13時10分頃，徳島市国府町で突風が発生した。徳島地方気象台では突風に関する現地調査を行った結果，この突風は竜巻によるものと推定した。

徳島市では29日13時32分に北北東の風16.0m/sの最大瞬間風速を観測した。

【災害概況】

この竜巻により，住家7棟が一部損壊（屋根瓦のはがれ，破損，外壁及びガラス窓の破損）となったほか，ビニールハウス損壊等，非住家の被害が11件発生した。農業施設及び農作物の被害総額は700万円に上る。自動車1台のリアガラスが破損したり，墓石3基が倒れるなどした。

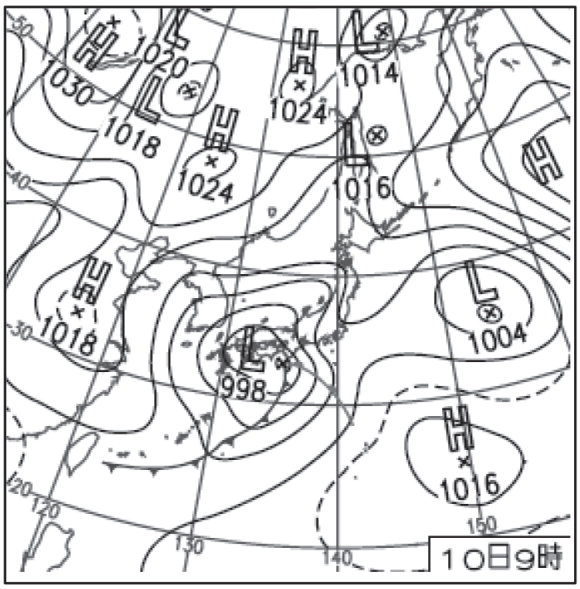
倒壊したビニールハウス（徳島地方気象台提供）

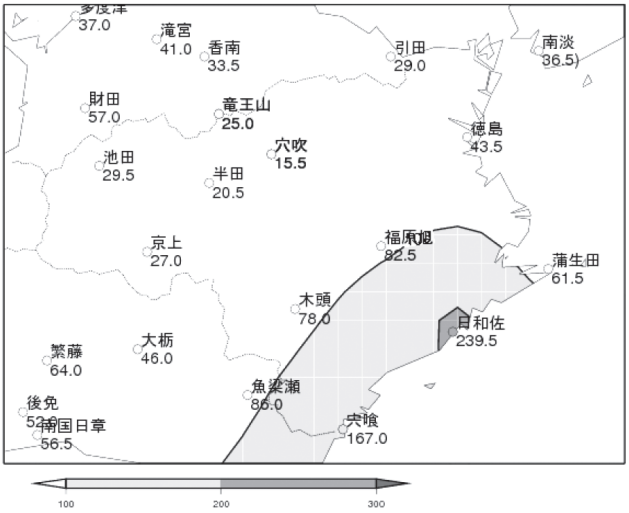
吹き飛ばされてきた建物（徳島新聞社提供）

2008年

［平成 20 年］

2008 年（平成 20 年）4 月 9 日～ 10 日　大雨（南岸低気圧）



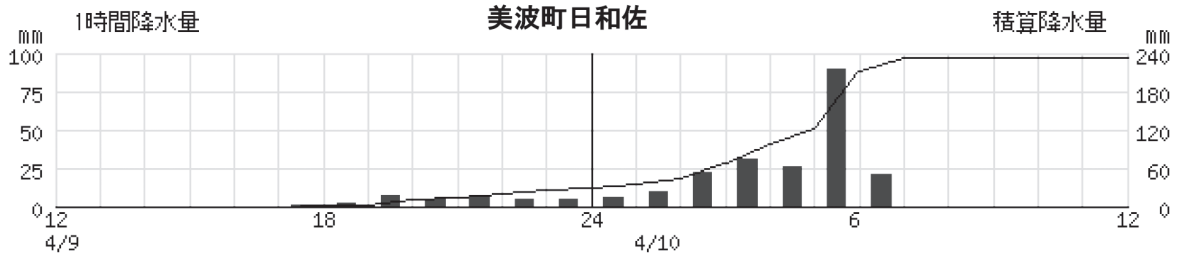


総降水量（㎜）

四国の南岸を低気圧が通過し南部の一部地域で大雨となった。レーダーによる 1 時間解析雨量では 10 日 06 時 00 分に阿南市と美波町で 120㎜以上を観測し，記録的短時間大雨情報を発表した。

日降水量は，美波町日和佐で 10 日に 210.5㎜を観測した。また，美波町日和佐では 06 時 00 分までの 1 時間に 90.0㎜の猛烈な雨を観測した。

総降水量（㎜）



【災害概況】

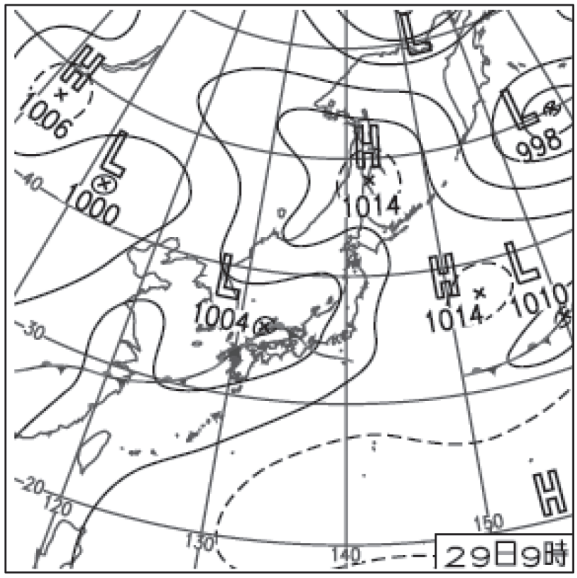
この雨の影響で，床上浸水 5 棟（阿南市 2 棟，美波町 3 棟），床下浸水 123 棟（阿南市 99 棟，美波町 24 棟）の被害が出た。また，がけ崩れが 7 箇所，道路損壊が 3 箇所，河川被害が 15 箇所で発生した。これらの被害に加え道路が冠水した影響で，国道 55 号を含む 6 路線で全面通行止めとなった。JR 牟岐線は阿南～海部間で始発から運転を見合わせ上下 21 本が運休した。また，阿南市と海部郡で小学校 3 校，中学校 2 校，高校 3 校，特別支援学校 1 校の計 9 校が臨時休校となった。ハウス施設等の農業施設，及び農作物（にんじん，いちご，トマト等）にも大きな影響を与え，被害総額は 1 億 9,700 万円に上った。

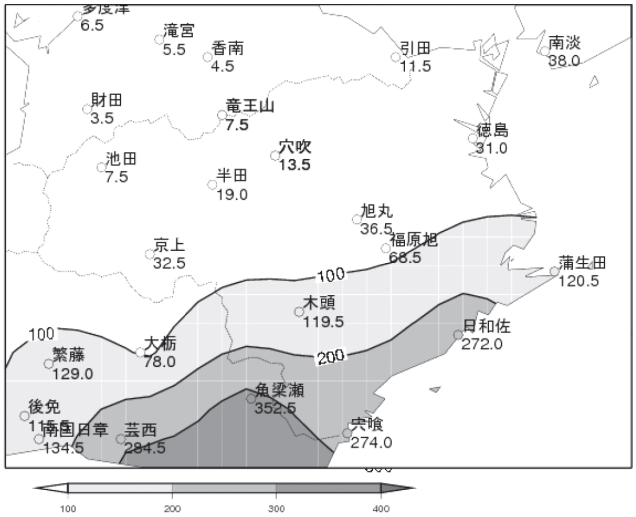
増水で崩れた川沿いの道（徳島新聞社提供）

10 日 03 時 30 分頃，阿南市蒲生田岬南方約 5 ㎞の海上で，台船を曳航中の船舶（第二十五寿

美丸：北九州市）から徳島海上保安部に航行困難との救助要請があった。徳島海上保安部，田辺海上保安部から巡視船及び関西空港海上保安航空基地からヘリコプター１機が出動し，同航，監視をし続けたが，その後海況は小康状態となり自力で航行した。

2008 年（平成 20 年）6 月 28 日～ 29 日　大雨（梅雨前線　暖気の移流）

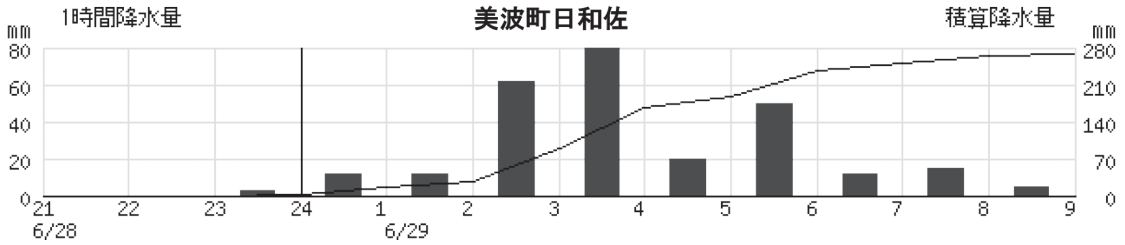




総降水量（㎜）

梅雨前線が 6 月 28 日から 29 日にかけてゆっくりと四国付近を南下した。この梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため，大気の状態が非常に不安定となった。このため徳島県南部では活発な雨雲が次々と流れ込み大雨となった。

28 日から 29 日にかけての総降水量は美波町日和佐で 272.0㎜を観測した。また，美波町日和佐では 29 日 03 時 40 分までの 1 時間に，観測史上第 1 位となる 96.0㎜の猛烈な雨を観測した。



【災害状況】

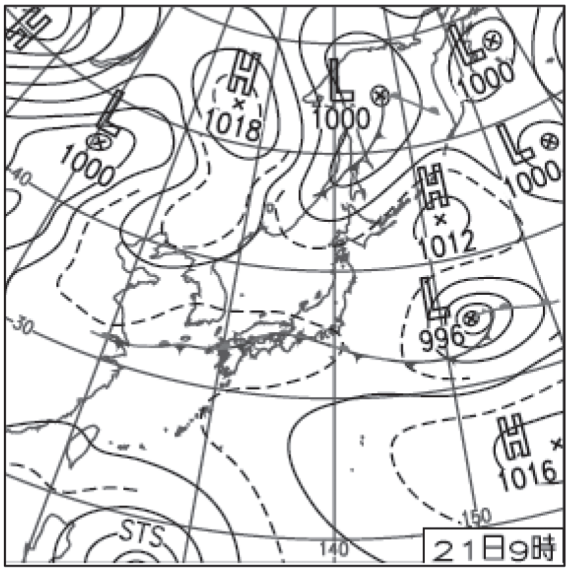
この雨の影響で，床上浸水 13 棟（阿南市 8 棟，美波町 5 棟），床下浸水 87 棟（阿南市 71 棟，美波町 16 棟）の浸水被害が出た。また，美波町で地すべり 1 箇所（住家全壊 1 棟，負傷者 2 名）があったほか，阿南市でがけ崩れが 6 箇所（住家一部破損 1 棟）発生した。

陸上交通関係では，JR 牟岐線が降水量の基準が規制値を超えたため，阿南－海部間で始発便から運休したほか，道路では，山腹崩壊，落石及び冠水等の影響で，8 路線 14 箇所で通行止めとなった。また，農林施設にも被害が出て，被害額は 5,500 万円に上った。

2008 年（平成 20 年）9 月 21 日　竜巻（停滞前線）

徳島県付近には東西にのびる前線が停滞し，9 月 21 日はこの前線に向かって南から暖かく湿った空気が流入した。さらに上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となった。このため，活発な積乱雲が徳島県北部の沿岸部を通過したことに伴い，13 時頃，徳島県鳴門市里浦町で突風が発生した。徳島地方気象台では突風に関する現地調査を行った結果，この突風は竜巻であると推定した。

徳島市では，最大風速が 21 日 13 時 01 分に西北西の風 9.1m/s，最大瞬間風速が 21 日 12 時 58 分に西北西の風 14.8m/s を観測した。



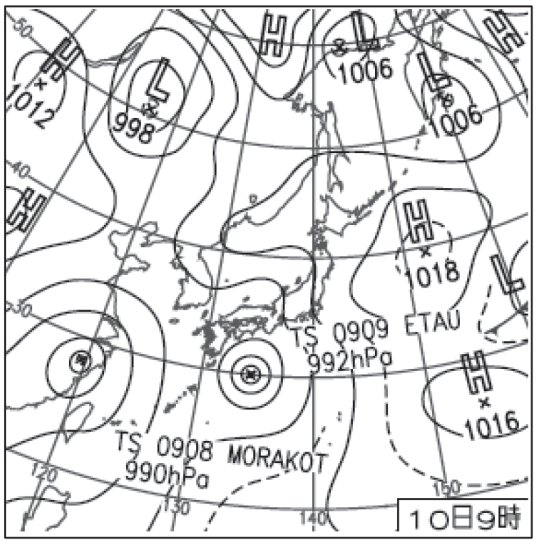
【災害状況】

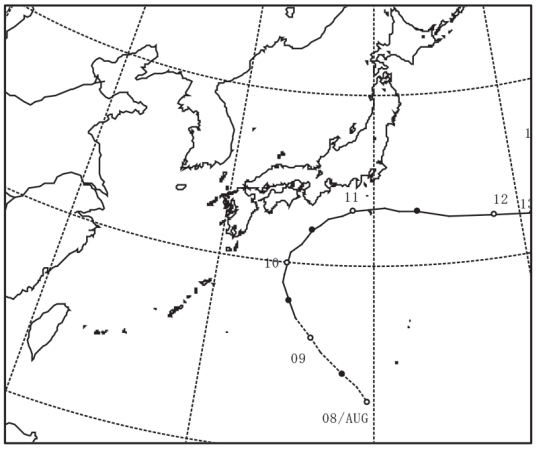
13 時頃，徳島県鳴門市里浦町で竜巻が発生し，鶏舎のトタン屋根が一部飛ばされる被害が発生した。

2009年

［平成 21 年］

2009 年（平成 21 年）8 月 8 日～ 10 日　大雨（台風第 9 号）



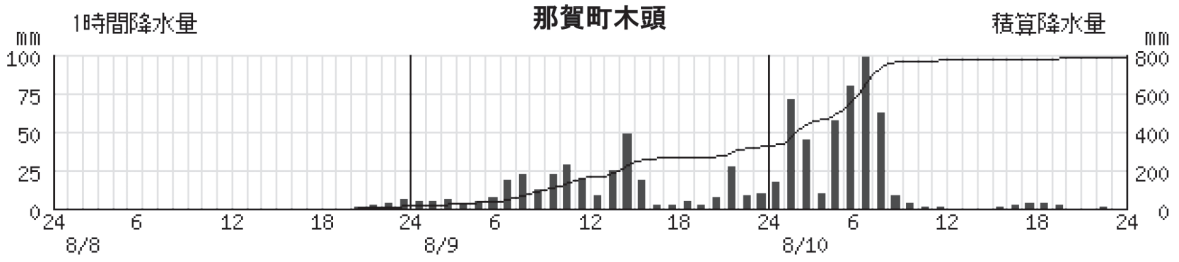


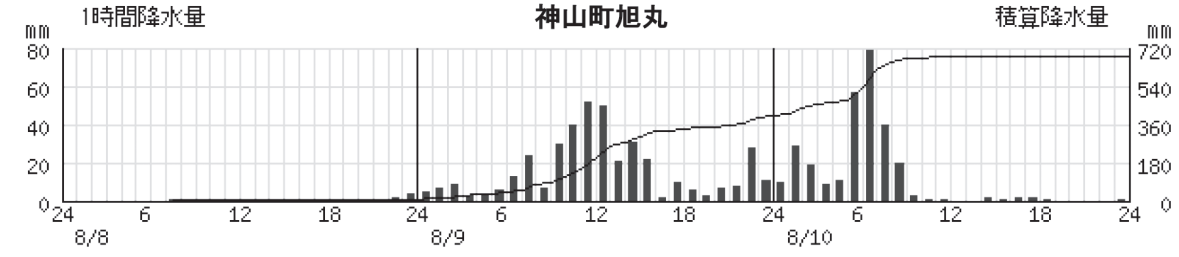
台風第 9 号　経路図

日本の南海上を北上する台風第 9 号の影響で，8 月 8 日から 10 日にかけて，南から暖かく湿った空気が流れ込み，徳島県では大気の状態が非常に不安定となり，県内全域で大雨となった。

8 日から 10 日にかけての総降水量は那賀町木頭出原で 781.5㎜，神山町旭丸で 683.5㎜，日降水量は，那賀町木頭出原で 10 日に 461.0㎜を観測した。また，1 時間降水量は那賀町木頭出原で 10 日 06 時 51 分までに 100.5㎜，徳島市で 10 日 08 時 35 分までに 90.5㎜の猛烈な雨を観測し，いずれも観測史上第 1 位となった。

水没した河川敷の小屋と流された船（徳島新聞社提供）





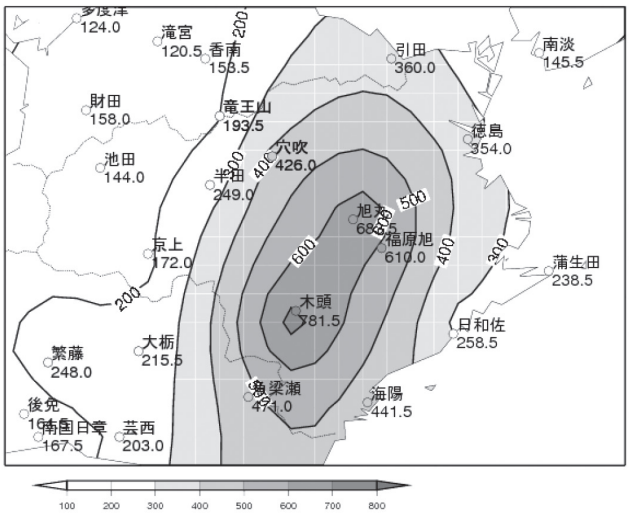
【災害概況】

吉野川市川島町，民家裏山土砂崩れ，家屋倒壊，2 名下敷き。1 名重傷。

徳島市国府町，小学 4 年生男子，増水した用水路に流され死亡。

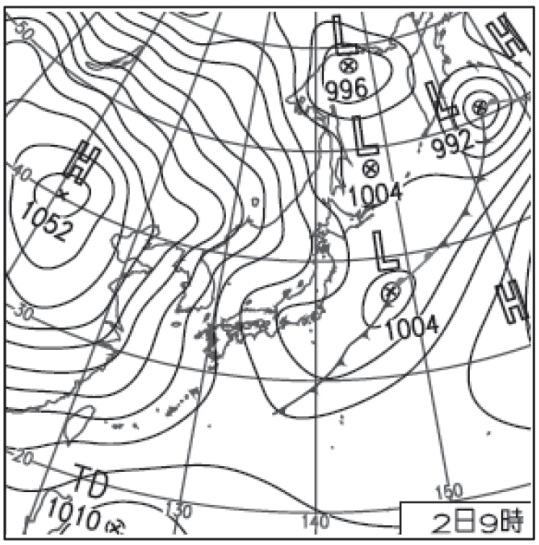
吉野川市鴨島町，男性が吉野川に転落死亡。

徳島市川内町，用水路に車転落。女性 1 名が死亡。



総降水量（mm）

2009 年（平成 21 年）11 月 2 日　強風（寒冷前線，冬型の気圧配置）



寒冷前線通過後，一時的に強い冬型の気圧配置となった。

徳島市では最大風速が 2 日 14 時 11 分に西北西の風 11.3m/s，最大瞬間風速が 2 日 13 時 21 分に西北西の風 20.8m/s を観測した。

【災害概況】

徳島市応神町で強風により防球ネットが倒れ，男子中学生 2 名が重軽傷。

2010年

［平成 22 年］

2010 年（平成 22 年）2 月 28 日　津波

2 月 27 日 15 時 34 分（日本時間）にチリ中部沿岸（36゜07.3'S　72゜53.8'W）の深さ 23㎞を震源とするモーメントマグニチュード 8.8 の地震が発生。

気象庁はこの地震に対し，28 日 09 時 33 分に青森県から宮城県の沿岸に大津波警報を発表したほか，各地の沿岸に津波警報又は津波注意報を発表したが，3 月 1 日 10 時 15 分までに全て解除した。徳島県の津波警報等の発表状況は表 1 の通り。

徳島県では海陽町で養殖筏流失等の被害が生じた。

この地震により太平洋の広い範囲で津波が観測された。2 月 28 日 14 時頃，日本の太平洋沿岸に津波が到達し，花咲で 92㎝の津波を観測した。徳島県内の津波観測施設における津波の観測値は表 2 の通り。

表 1　徳島県の津波警報等

28 日 09 時 33 分	津波警報発表
28 日 23 時 36 分	津波注意報切り替え
1 日 08 時 40 分	解　除

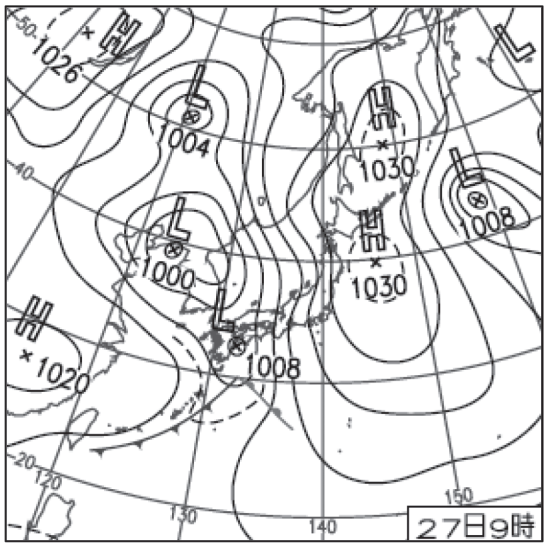
表 2　徳島県内の津波観測施設における津波観測値

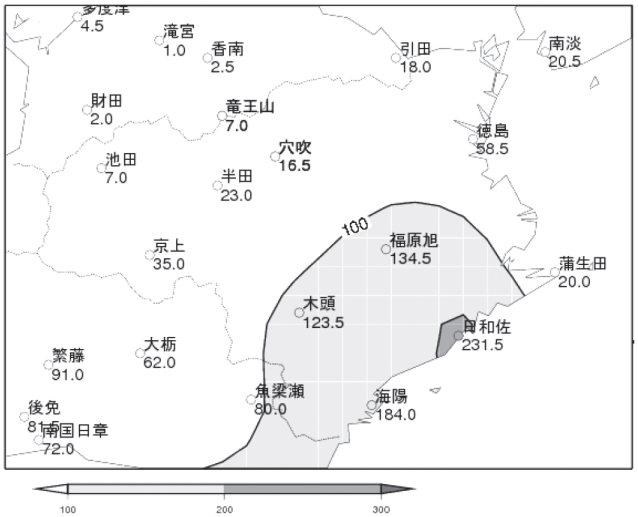
観測地点	第 1 波		最大の高さの波	
	到達時刻	高さ（押し＋，引き－）	ピークの時刻	高さ
小松島	28 日 16 時 02 分	＋ 15cm	28 日 18 時 03 分	37cm
徳島由岐（美波町）	28 日 15 時 26 分	＋ 24cm	28 日 17 時 31 分	47cm

2010 年（平成 22 年）4 月 27 日　大雨強風 波浪（南岸低気圧）

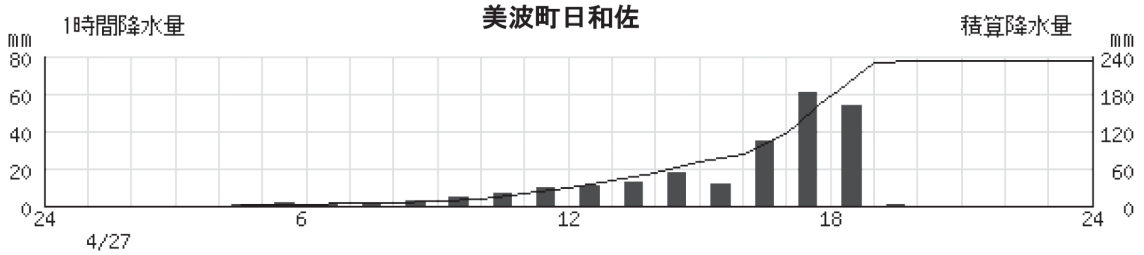
四国の南岸を低気圧が発達しながら北東進し，県南部を中心に大雨や暴風となった。

27 日の日降水量は美波町日和佐で 231.5㎜を観測した。また，阿南市蒲生田では最大風速が 15 時 33 分に東南東の風 20.4m/s，最大瞬間風速が 15 時 13 分に東南東の風 28.0m/s を観測した。





総降水量（㎜）



【災害概況】人的被害なし，住家全壊なし，半壊 1 棟，一部損壊 1 棟，床上浸水 31 棟，床下浸水 256 棟。

避難勧告，阿南市福井町大西（65 世帯 171 人）。

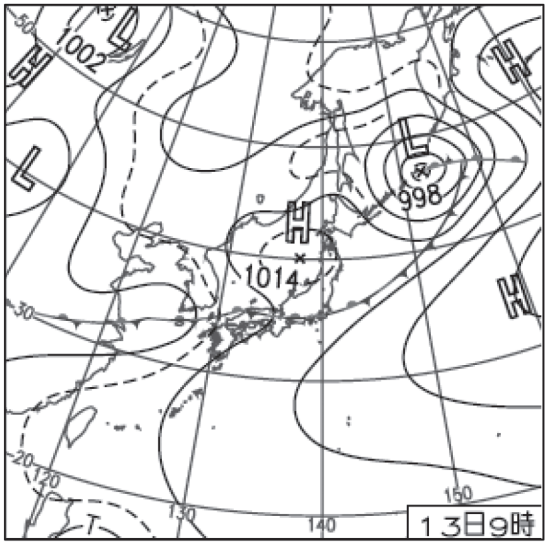
自主避難，阿南市富岡町 2 名を含め 15 世帯 28 人。美波町 5 世帯 7 人。

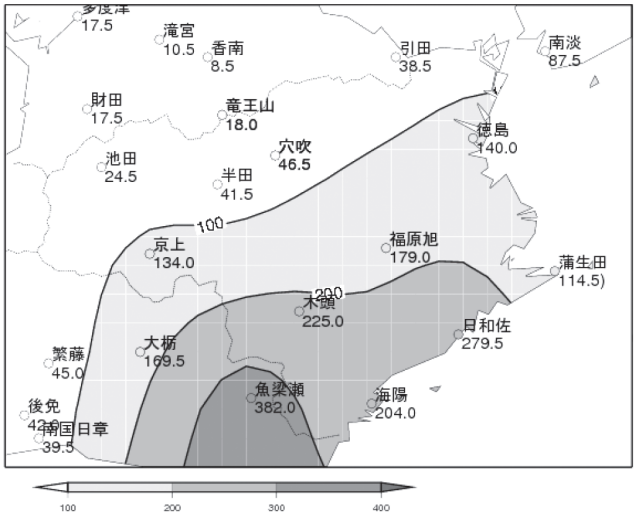
道路通行規制 18 か所（山腹崩壊・落石等 4 か所，道路冠水 9 か所，異常気象のため 5 か所）。美波町の地すべり（高さ 30m，幅 120m）人的被害なし，家屋被害なし。

膝まで濁流の流れる道路（徳島新聞社提供）

鳴門市で養殖わかめのいかだが強風と高波の影響で流出。被害金額 1 億 3 千万円。

2010 年（平成 22 年）7 月 13 日～ 14 日　大雨（梅雨前線）

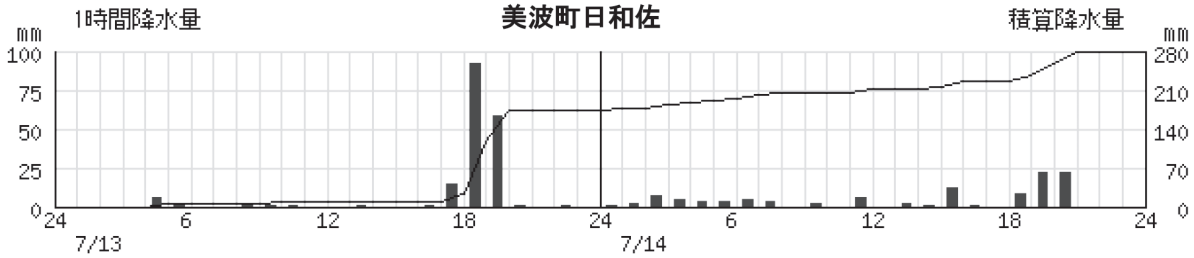




総降水量（mm）

本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため，前線の活動が活発となり県南部を中心に大雨となった。

13 日から 14 日にかけての総降水量は美波町日和佐で 279.5㎜を観測した。また，美波町日和佐では 13 日 19 時 23 分までの 1 時間に 108.5㎜の猛烈な雨を観測した。



【災害概況】人的被害なし。住家被害なし。自主避難美波町西の地地区 1 世帯 1 人。がけ崩れ三好市 1 か所，阿南市 1 か所，つるぎ町 1 か所。JR 四国（牟岐線）一部運転見合わせ。道路通行止め 16 か所。

2011年

［平成 23 年］

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日　地震

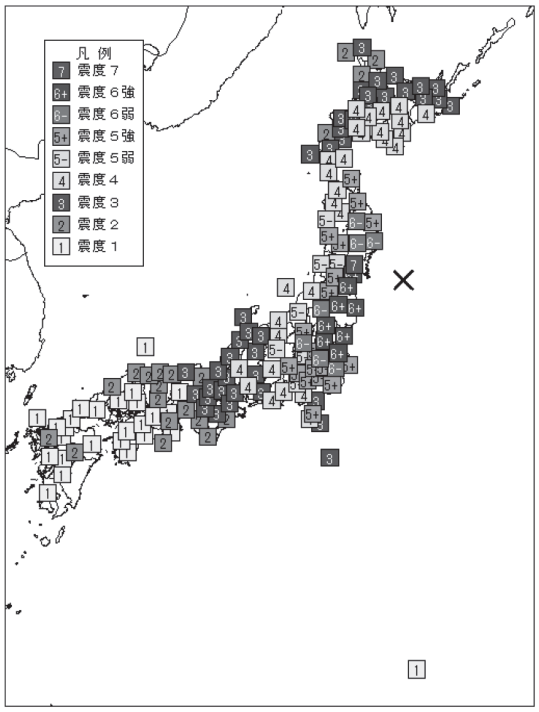


図１　地域ごとの震度分布
（×は震央位置）

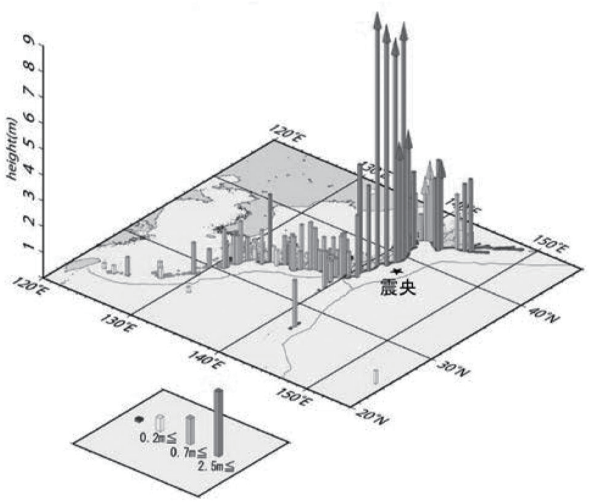


図２　各地で観測された津波の高さ
『気象庁技術報告第 133 号平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震調査報告所』から引用。

14 時 46 分に三陸沖（38°06.2′N　142°51.6′E）の深さ 24km を震源とするモーメントマグニチュード 9.0 の地震が発生。この地震により，宮城県栗原市で震度 7 を観測したほか，東北地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度 6 強～ 1 を観測した（図 1）。徳島県内では 17 市町で震度 2 ～ 1 を観測した。

気象庁は 14 時 49 分に岩手県，宮城県，福島県の沿岸に大津波警報を，北海道から九州にかけての太平洋沿岸と小笠原諸島に津波警報，津波注意報を発表した。その後，津波警報・津波注意報の範囲を拡大する続報を順次発表し，3 月 12 日 03 時 20 分には全ての予報区に対して津波警報・津波注意報を発表した。これらの津波警報・注意報は，3 月 13 日 17 時 58 分までに全て解除した。徳島県の津波警報・注意報の発表状況は表 1 の通り。

表 1　徳島県の津波警報等

11 日 14 時 49 分	津波注意報
11 日 15 時 30 分	津波警報
11 日 16 時 08 分	大津波警報
12 日 13 時 50 分	津波注意報
13 日 07 時 30 分	解　除

この地震による津波は北海道から沖縄の太平洋沿岸及び日本海沿岸，オホーツク海沿岸，東シナ海沿岸の一部で観測され，国内の津波観測施設の高いところでは 9.3m 以上となった（図 2）。

徳島県内の津波観測施設における津波観測値は表 2 の通り。

表 2　徳島県内の津波観測施設における津波観測値

観測地点	第 1 波		最大の高さの波	
	到達時刻	高さ（押し＋，引き－）	ピークの時刻	高さ
小松島	11 日 17 時 08 分	＋ 63cm	11 日 19 時 50 分	75cm
徳島由岐（美波町）	11 日 16 時 37 分	＋ 104cm	11 日 20 時 28 分	115cm

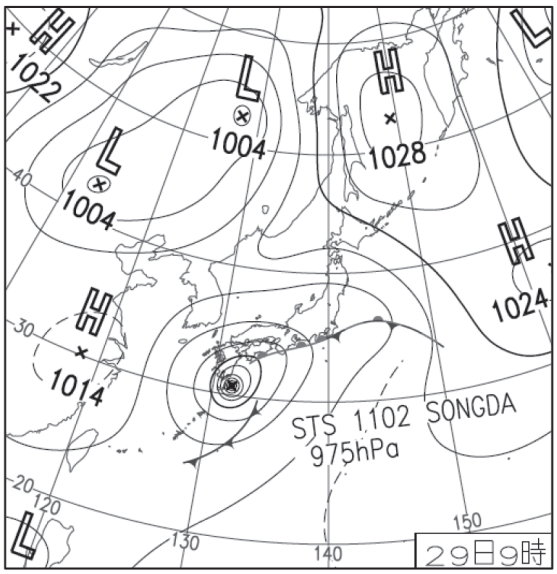
この地震と津波により，東北地方から関東地方にかけて甚大な被害が発生した（死者 19,475 名，行方不明者 2,587 名　平成 28 年 9 月 1 日現在，総務省消防庁による）。

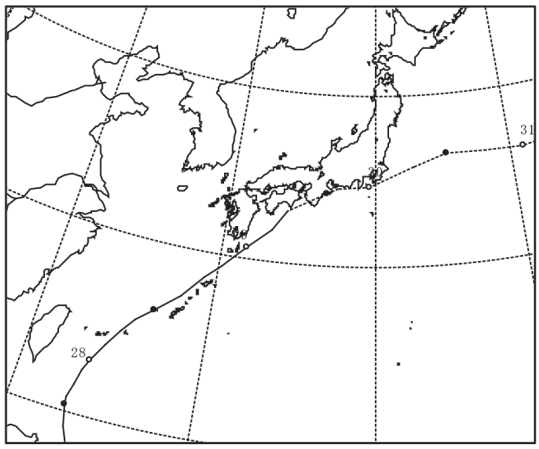
徳島県では地震の揺れによる被害はなかったが，津波により阿南市で道路の冠水，美波町で養殖

筏の破損等の被害が生じた。

気象庁はこの地震を「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」と命名した。また，この地震は国内観測史上最大規模の地震であり，政府はこの地震による災害について「東日本大震災」と呼称することとした。

2011 年（平成 23 年）5 月 26 日～ 29 日　大雨 強風 波浪（台風第 2 号 梅雨前線）

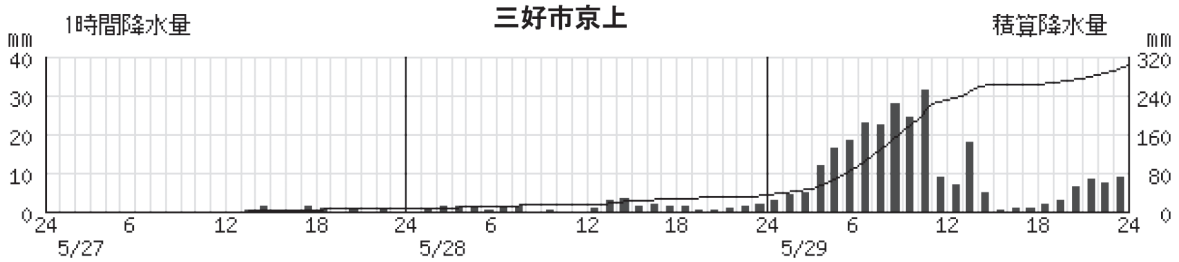


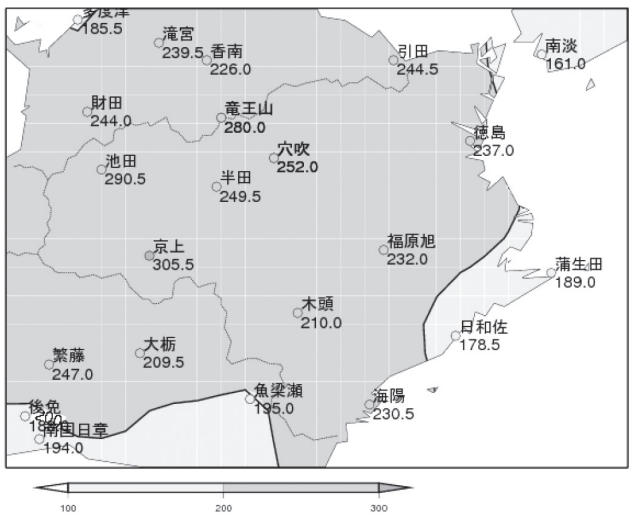


台風第 2 号　経路図

台風第 2 号は 28 日から 29 日にかけて東シナ海から西日本の南海上を北東に進み，29 日 15 時室戸岬沖で温帯低気圧に変わった。このため，徳島県では全域で大雨となった。

5 月 26 日から 5 月 29 日にかけての総降水量は三好市京上で 305.5㎜，日降水量は三好市京上で 267.0㎜，三好市池田で 256.0㎜を観測した。また，徳島市では 29 日 23 時 51 分に西北西の風 23.1m/s の最大瞬間風速を観測した。



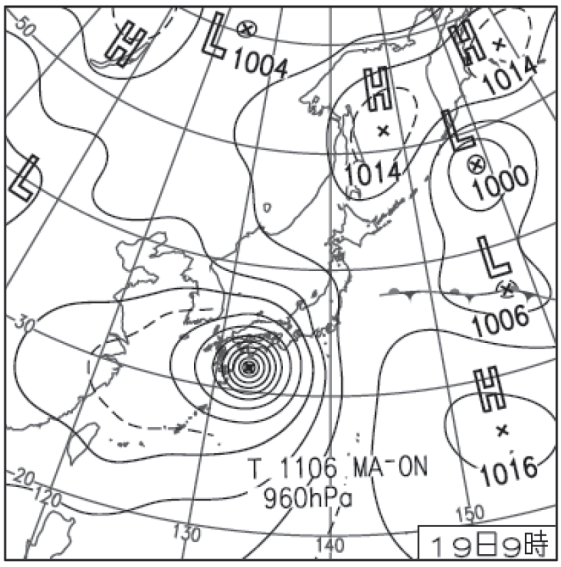


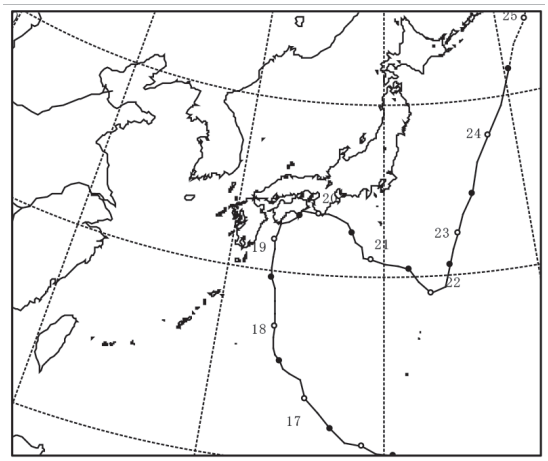
総降水量（㎜）

【災害概況】

三好市山城町黒川，軽自動車一部破損。三好市池田町西山峯ノ久保，建物一部被害。三好市池田町，床下浸水 5 棟。美馬郡つるぎ町貞光字竹屋敷，建物（窓ガラス）一部被害。鉄道：(5/29) JR 四国（土讃線，高徳線，徳島線，牟岐線）運転見合わせ（5/30）JR 四国（牟岐線）一部運転見合わせ

2011 年（平成 23 年）7 月 18 日～ 19 日　強風 大雨　波浪（台風第 6 号）

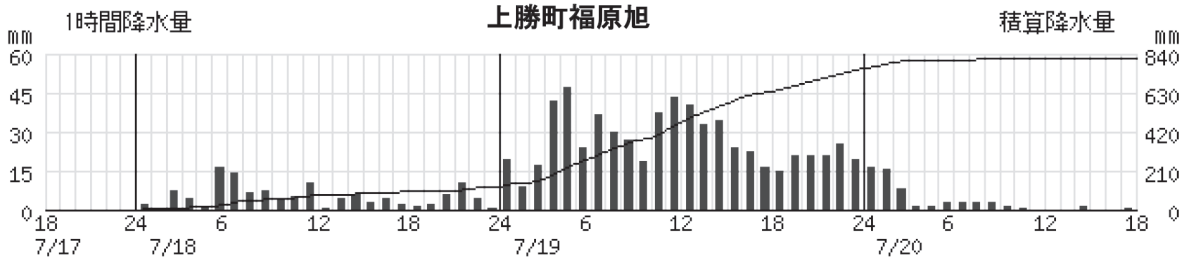


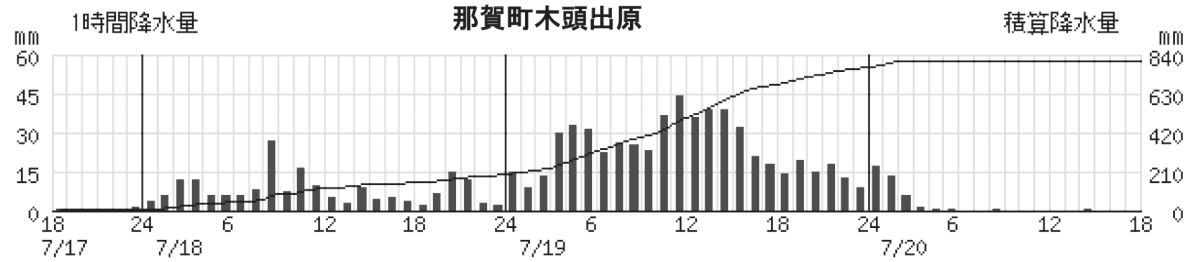


台風第 6 号　経路図

南鳥島近海で発生した台風第 6 号は，南大東島の東海上を北上し，19 日朝，足摺岬沖で進路を北東に変え，室戸岬付近を通過し 19 日 23 時頃，徳島県南部に上陸した。この台風により徳島県では大荒れの天気となり，南部を中心に大雨や暴風となった。

17 日 18 時から 20 日 18 時までの総降水量は上勝町福原旭で 815.0㎜，那賀町木頭出原で 808.5㎜を観測した。19 日の日降水量は上勝町福原旭で 641.5㎜，那賀町木頭出原で 579.0㎜となり，両観測所とも観測史上 1 位となった。また，最大風速は美波町日和佐で 19 日 10 時 57 分に東の風 21.3 m/s，阿南市蒲生田で 19 日 16 時 24 分に東南東の風 21.0m/s（観測史上 1 位），最大瞬間風速は阿南市蒲生田で 19 日 11 時 33 分に東の風 30.6m/s, 美波町日和佐で 19 日 04 時 53 分に東の風 29.3m/s, 徳島市で 19 日 15 時 05 分に東南東の風 27.8m/s を観測した。





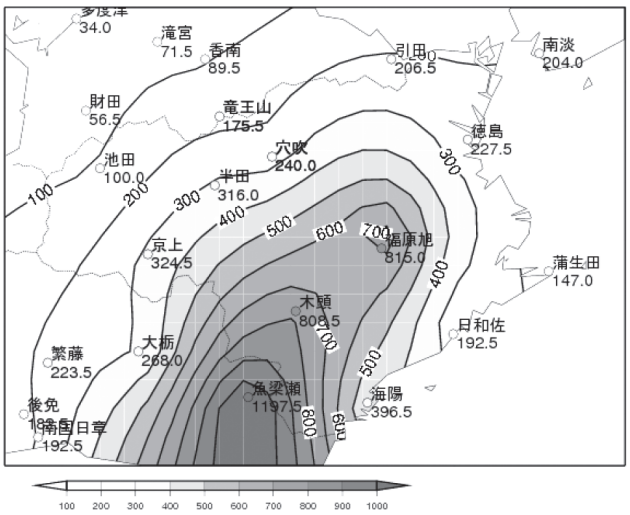
【災害概況】

人的被害：強風による転倒。（重傷）石井町内の女性，（軽傷）鳴門市内の男性

住家被害：一部損壊 3 棟，床上浸水 3 棟，床下浸水 17 棟

非住家被害：折野バス停屋根損壊（鳴門市），太龍寺本堂損傷（阿南市），文化財田中家住宅屋根損壊（石井町），文化財奥村家住宅壁崩落（藍住町），文化財吉田家住宅壁崩落（美馬市）

避難状況:避難指示（那賀町），避難勧告（徳島市，小松島市，阿南市，三好市，神山町，那賀町），

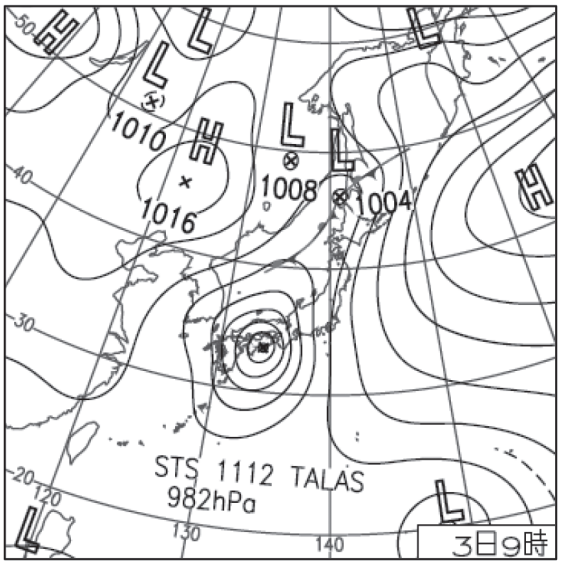


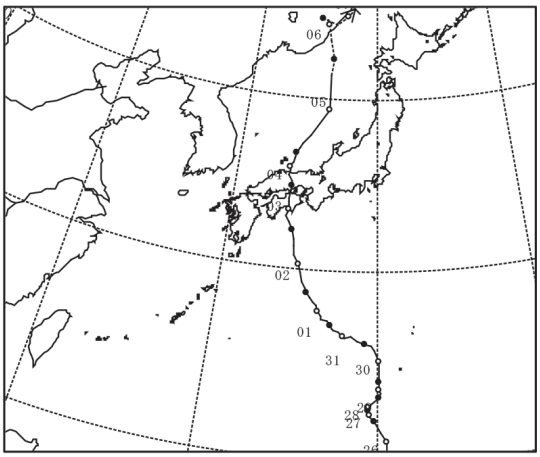
総降水量（mm）

避難準備情報 5 市町村，自主避難 20 市町村

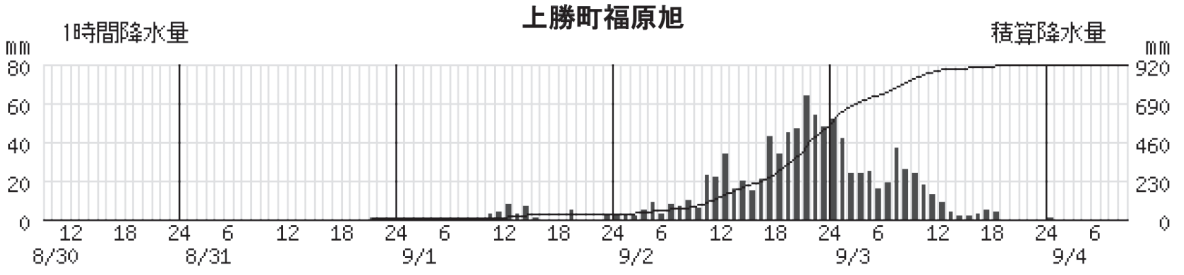
臨時休校等：7 月 19 日 327 校，20 日 238 校

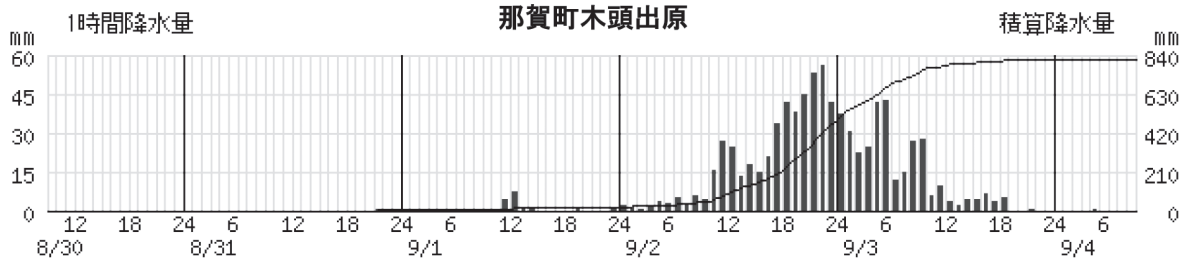
2011 年（平成 23 年）9 月 1 日～4 日　強風 大雨　高潮（台風第 12 号）

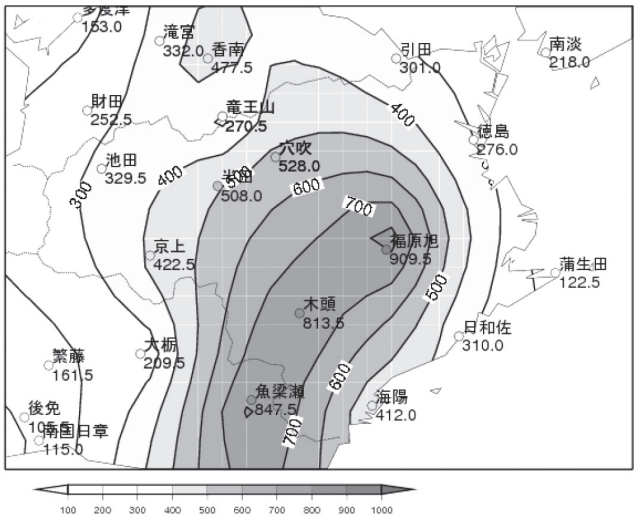




台風第 12 号　経路図







総降水量（mm）

土砂崩れで崩壊した建物（徳島新聞社提供）

マリアナ諸島近海で発生した台風第 12 号は，日本の南海上をゆっくりと北上し，強い勢力を保ったまま 9 月 3 日 10 時前に高知県東部に上陸した。上陸後もゆっくり北上を続け 3 日 18 時過ぎに岡山県南部に再上陸した。この台風により徳島県は大荒れの天気となり，各地で記録的な大雨や暴風となった。

9 月 1 日 02 時から 4 日 09 時までの総降水量は，上勝町福原旭で 909.5㎜，那賀町木頭出原で 813.5㎜を観測した。また，3 日 00 時には県内全域が暴風域に入り，最大風速は，美波町日和佐で 2 日 22 時 37 分に東の風 24.3m/s，阿南市蒲生田で 2 日 22 時 02 分に東の風 23.9m/s（両観測所とも通年の極値順位 1 位）の暴風を観測した。最大瞬間風速は，美波町日和佐で 2 日 20 時 53 分に東の風 33.7m/s，阿南市蒲生田で 2 日 21 時 31 分に東の風 31.8m/s，徳島市で 3 日 06 時 45 分に南東の風 28.6m/s を観測した。高潮は阿波由岐で標高 164cm，小松島で標高 161cmを観測した。

【災害概況】

人的被害：死者 3 人（三好市，佐那河内村，阿南市），負傷者（軽傷）1 人（石井町）

住家等被害：全壊 2 棟（三好市，非住家），半壊 1 棟（三好市），一部損壊 5 棟 (鳴門市 2 棟，阿南市 1 棟，阿波市 1 棟，吉野川市 1 棟)

床上浸水 42 棟，床下浸水 286 棟

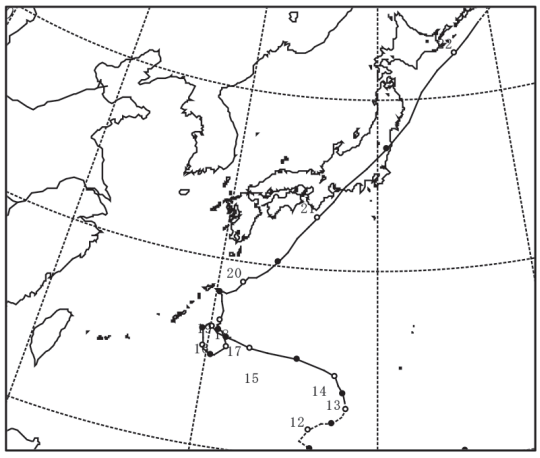
避難状況：避難指示（三好市，那賀町），避難勧告（阿波市，神山町，徳島市，つるぎ町，勝浦町，美馬市，那賀町），避難準備情報（小松島市，吉野川市，勝浦町，那賀町，牟岐町，海陽町），自主避難 18 市町 293 人

臨時休校等：2 日小中高校 325 校

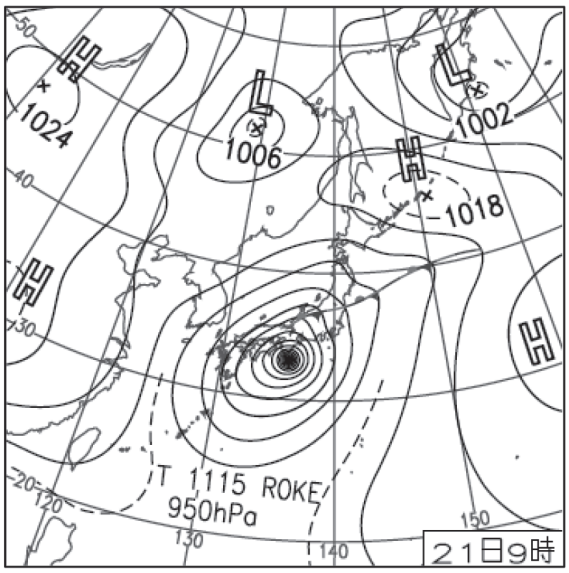
2011 年（平成 23 年）9 月 19 日～ 21 日　強風 大雨　波浪（台風第 15 号）

9 月 13 日に日本の南海上で発生した台風第 15 号は，20 日に種子島の南東海上を北東へ進み，21 日には速度を上げながら和歌山県潮岬沖を通過し，同日 14 時頃に静岡県浜松市付近に上陸した。その後，東日本を北東進し 21 日夜には三陸沖に抜けた。一方，西日本には前線が停滞しており，前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んでいた。この前線や台風の影響で徳島県は全域で荒れた天気となった。

9 月 19 日から 21 日にかけての総降水量は，徳島市で 598.5㎜，三好市京上で 457.0㎜，那賀町木頭出原で 439.5㎜を観測した。また最大瞬間風速は，美波町日和佐で 21 日 09 時 57 分に北西の風 27.0m/s，阿南市蒲生



台風第 15 号　経路図



田で21日09時06分に西北西の風26.7m/sを観測した。

【災害概況】

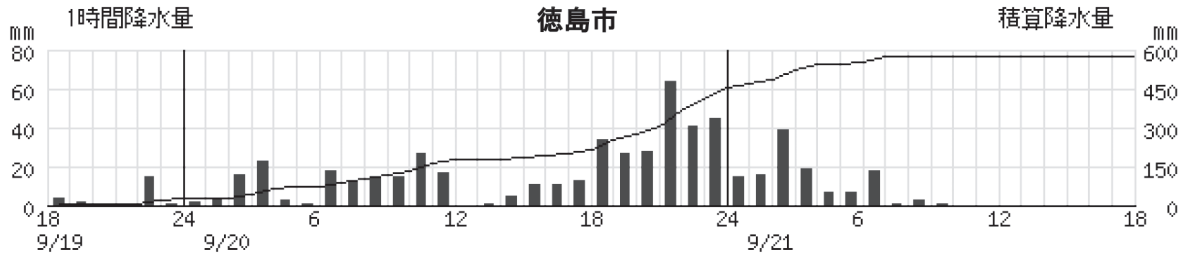
人的被害：（軽傷）徳島市2名

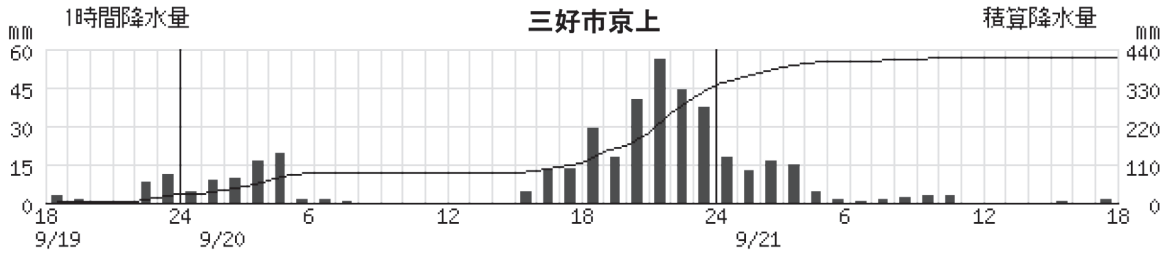
住家被害:全壊1棟, 一部損壊9棟, 床上浸水153棟, 床下浸水856棟

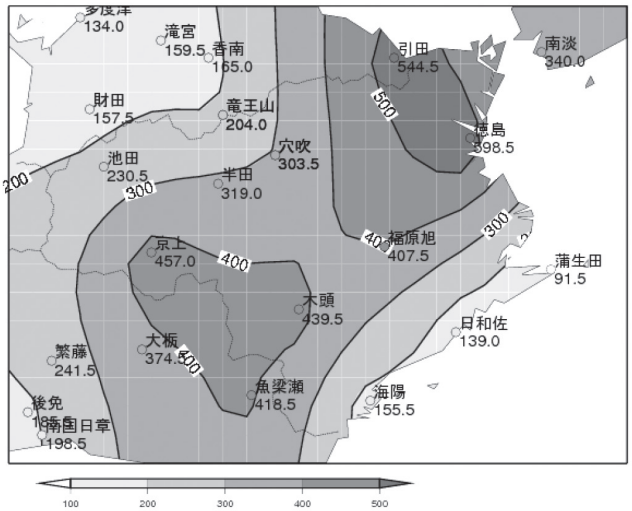
非住家被害：全壊1棟，床上浸水63棟，床下浸水46棟

避難状況：避難指示（三好市，板野郡板野町），避難勧告（徳島市，三好市，阿波市，美馬郡つるぎ町，板野郡上板町），避難準備情報（鳴門市，吉野川市，阿波市，那賀郡那賀町），自主避難17市町村

臨時休校等：21日小中高校318校







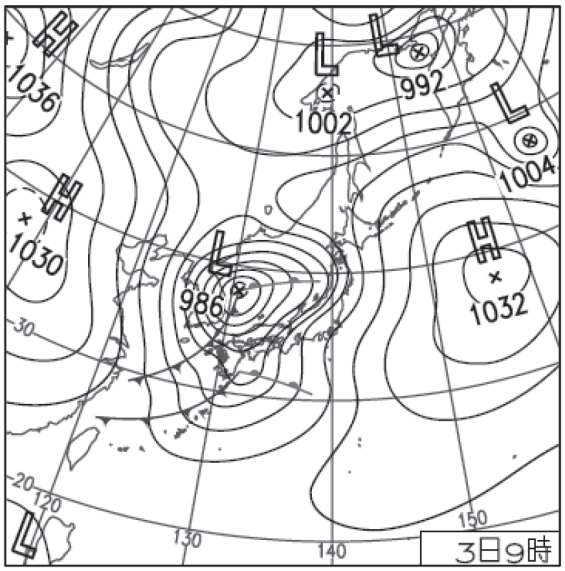
総降水量（mm）

周りが水浸しで孤立する家（徳島新聞社提供）

2012年

［平成 24 年］

2012 年（平成 24 年）4 月 3 日　強風 波浪（日本海低気圧 寒冷前線）



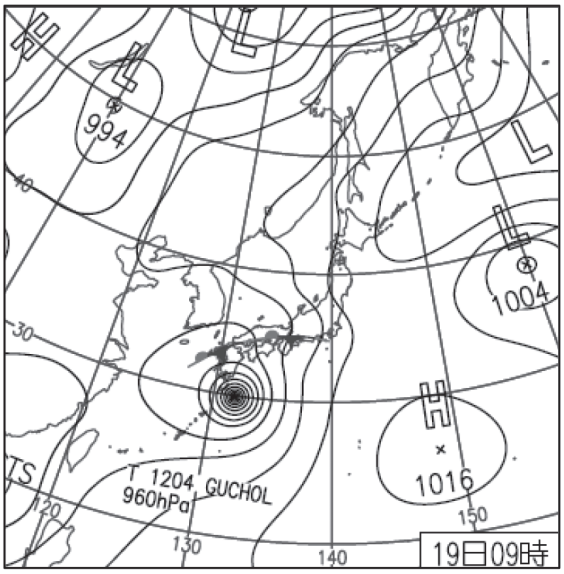
低気圧が急速に発達しながら日本海を東北東に進み，この低気圧からのびる寒冷前線が 3 日の日中四国地方を通過した。このため，徳島県では強風となった。

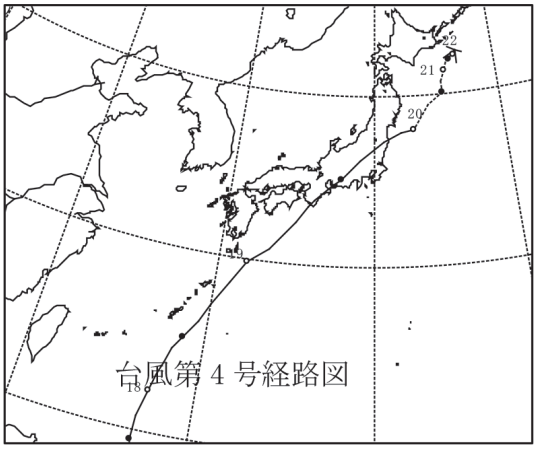
徳島市では最大風速が 3 日 11 時 50 分に南南東の風 17.5m/s，最大瞬間風速が 3 日 12 時 52 分に南南西の風 29.3m/s を観測した。

【災害概況】

強風の影響で，阿南市那賀川町で非住家 1 棟が全壊した。神戸淡路鳴門自動車道が 11 時 10 分から 14 時 40 分まで鳴門 IC から淡路島南 IC 間が通行止めにより JR 四国バス，徳島バスが運休，徳島市川内町鈴江や応神町古川で 1,545 戸が 10 時 54 分から 11 時 05 分にかけて，強風が原因かは不明だが，設備の不具合で停電，阿南市椿町では 12 時 16 分から 18 時 40 分にかけて強風で樹木が電線に倒れて接触したため 983 戸で停電，南海フェリーは全便欠航，オーシャン東九フェリーは東京発の下り便が欠航，航空便は徳島－東京線で 17 便が欠航となった。

2012 年（平成 24 年）6 月 19 日～ 20 日　大雨　強風 波浪（台風第 4 号）



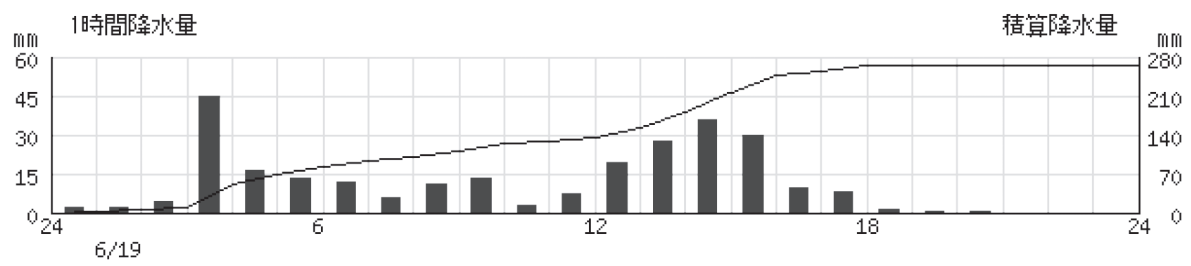


台風第 4 号　経路図

カロリン諸島付近で発生した台風第 4 号は，強い勢力となって 19 日昼過ぎには四国の南海上を通過し，17 時過ぎに和歌山県南部に上陸した。この台風により県南部を中心に荒れた天気となった。

19 日には日降水量が上勝町福原旭で 266.0㎜，最大風速は阿南市蒲生田で 19 日 14 時 09 分に東の風 19.2m/s，最大瞬間風速は美波町日和佐で 19 日 14 時 35 分に東の風 30.2m/s を観測し，6 月としていずれも観測史上 1 位となった。

上勝町福原旭



【災害概況】

橋の崩落：台風第 4 号の大雨によって飯尾川が増水し，石井町浦庄に架かる町道の桧瀬橋（長さ 6m，幅 3m）が崩落。

農業被害：スイートコーンなど 3 品目で 730 万円。

交通障害：海上交通では東九フェリーが 18 日から 19 日にかけて 4 便，南海フェリーは 6 月 19 日 08 時 00 分から 6 月 20 日 11 時 00 分まで 20 便が欠航。

航空便では，強風のため，JAL6 便，ANA6 便，JAC4 便の計 16 便が欠航。

総降水量（mm）

鉄道：三好市西祖谷山村の JR 土讃線大歩危駅構内で，10 時頃，高知発岡山行きの特急「南風 8 号」が倒木と接触し，約 7 分間停止した。けが人はなし。徳島県内の JR 全線（高徳線，土讃線，徳島線，鳴門線，牟岐線）が 19 日 15 時過ぎから終日運休。阿佐海岸鉄道（海部駅～甲浦駅間）が，14 時 55 分から終日運休，運休数は 16 本。

山腹崩壊：20 日 09 時，鳴門市大麻町の県道徳島引田線で山腹崩壊（小崩壊）。

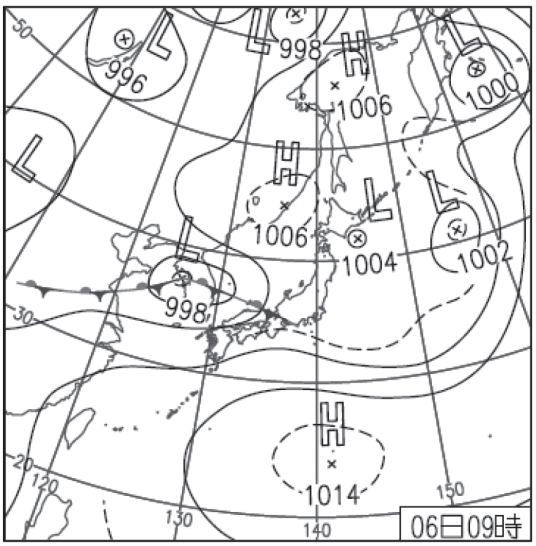
19 日～ 20 日：16 路線の 25 ヶ所（国道 193 号・国道 195 号・国道 438 号・国道 439 号・県道（阿南鷲敷日和佐，山川海南，古川長原港，徳島環状，牛島上下島，日和佐上那賀，木沢上那賀，脇三谷，津田川島，徳島吉野，徳島引田，市場学停車場）

19 日 05 時 00 分～ 21 時 40 分：神戸淡路鳴門自動車道（淡路島南 IC ～鳴門北 IC）が二輪車を通行止め。

停電：19 日 14 時 10 分から 15 時 16 分まで，海部郡美波町阿部で強風により木が電線に接触したため，395 戸で停電。19 日 18 時 54 分から 19 時 38 分まで，鳴門市大麻町大谷で強風により木の枝が電線に接触したため，196 戸で停電。

自主避難：那賀町 17 世帯 20 人，小松島市 5 世帯 5 人，徳島市 4 世帯 6 人，美馬市 6 世帯 6 人，神山町 1 世帯 1 人，美波町 16 世帯 17 人，上板町 2 世帯 2 人，阿南市 3 世帯 5 人，上勝町 2 世帯 2 人，阿波市 1 世帯 1 人，三好市 3 世帯 4 人，勝浦町 1 世帯 1 人，牟岐町 1 世帯 1 人，海陽町 1 世帯 1 人，北島町 1 世帯 1 人，藍住町 2 世帯 2 人，つるぎ町 5 世帯 7 人。

2012 年（平成 24 年）7 月 6 日～ 7 日　強風 雷雨　突風（梅雨前線）



7 月 6 日 20 時 30 分頃，徳島県美馬郡つるぎ町一宇の赤松地区で突風が発生し，樹木の倒木等の被害が発生，倉庫の屋根の一部が吹き飛ばされた。また，周辺で倒木及び弱い樹木の幹折れがあった。6 日から 7 日にかけて梅雨前線に向かって，暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が非常に不安定となっていた。徳島地方気象台では突風に関する現地調査を行った結果，この突風をもたらした現象の特定には至らなかった。

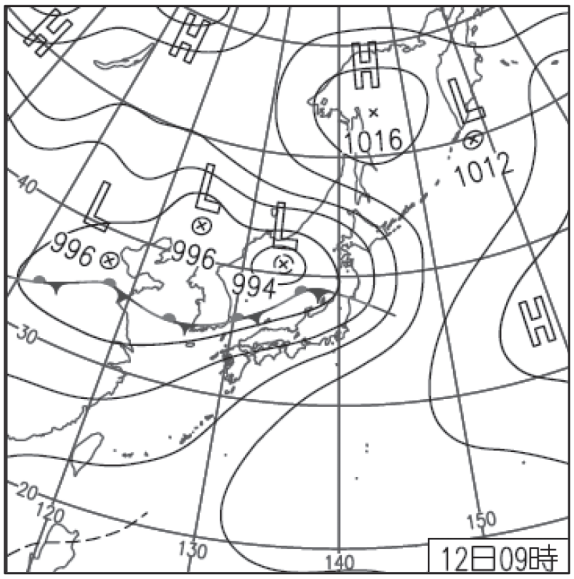
【災害概況】

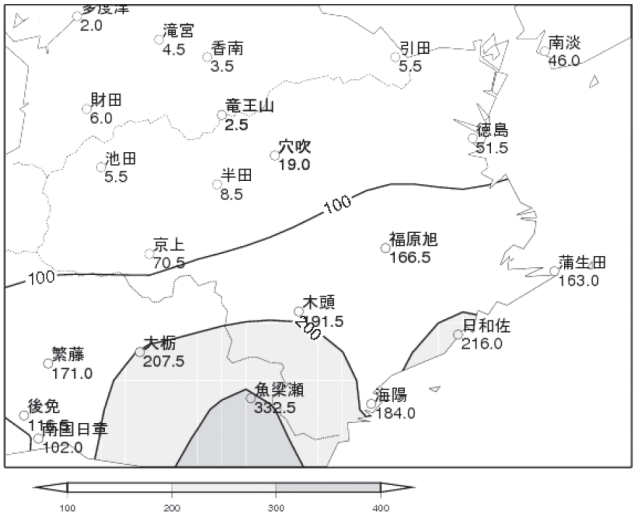
落雷による停電が，6 日：20 時 31 分に美馬市穴吹で 186 戸，20 時 53 分に徳島市新浜町 41 戸，

7 日：05 時 44 分に小松島市小松島町及び中田町で 1,585 戸，05 時 46 分に徳島市三軒屋町で 237 戸，06 時 02 分

に阿南市中川町で 123 戸，06 時 27 分と 06 時 45 分に海部郡海陽町宍喰で 1,288 戸，08 時 49 分に板野郡上板町で 1,095 戸，7 日：09 時 56 分に鳴門市大麻町と北灘町で 6 戸，6 日 20 時 43 分から 7 日 05 時 25 分に美馬郡つるぎ町半田で 1,087 戸，7 日 06 時 26 分から 11 時 30 分に美馬郡つるぎ町一宇で 38 戸。

2012 年（平成 24 年）7 月 12 日　大雨（梅雨前線）



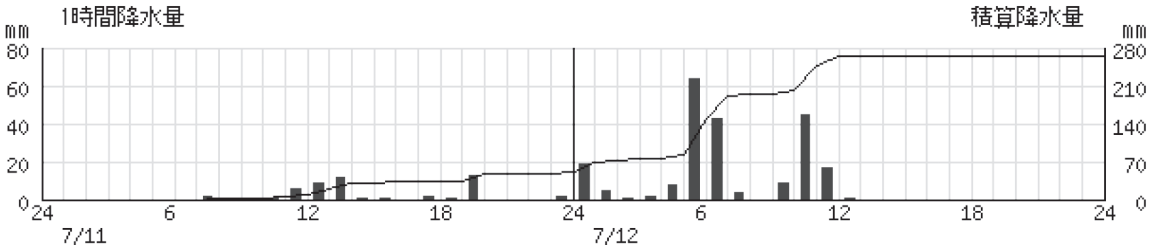


総降水量（㎜）

山陰沿岸にのびる梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が入り，大気の状態が非常に不安定となっていた。このため県南部を中心に大雨となった。

美波町日和佐では日降水量 216.0㎜，06 時 25 分までの 1 時間に 81.0㎜の猛烈な雨を観測した。

美波町日和佐



【災害概況】

12 日 05 時頃，那賀町木頭北川と高知県香美市を結ぶ四つ足峠トンネル付近の国道 195 号で山腹が崩壊。

12 日 07 時頃，阿南市大井町東平の県道阿南鷲敷日和佐線で山側の斜面の崩壊。

12 日 07 時 30 分頃，美波町赤松の町道で山腹崩壊。

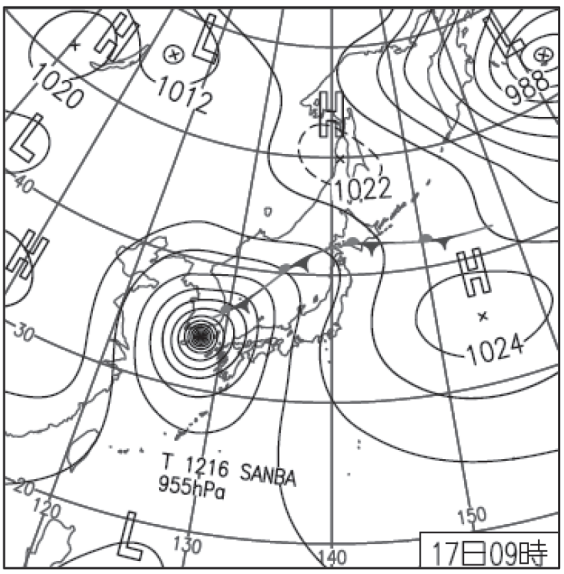
道路の通行止め（降雨による規制），12 日：10 路線 20 ヶ所（国道 193 号，国道 195 号，国道 438 号，国道 439 号，県道（山川海南，木沢上那賀，日和佐上那賀，脇三谷，津田川島，金目宍喰浦）

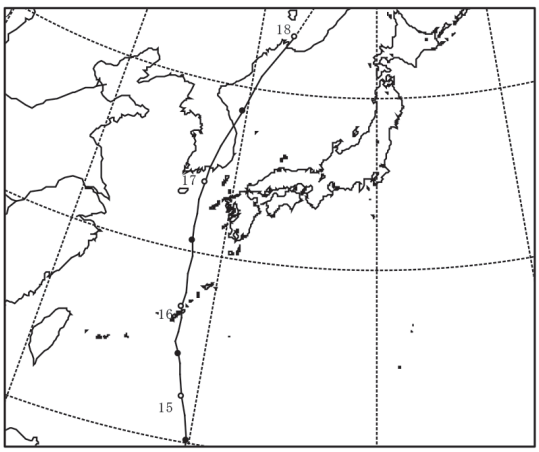
鉄道：牟岐線（徳島駅～牟岐駅）12 日始発より昼過ぎまで運休，牟岐線（阿南駅～海部駅）12 日始発より昼過ぎまで運休，土讃線（阿波池田駅～高知駅）12 日始発より 09 時 13 分頃及び 11 時半頃から昼過ぎまで運休

阿佐海岸鉄道（海部駅～甲浦駅間）午前 11 時から昼過ぎまで運休，運休数は 8 本。

自主避難：那賀町木頭北川 1 世帯 3 人

2012 年（平成 24 年）9 月 16 日～ 18 日　強風　大雨　波浪（台風第 16 号）

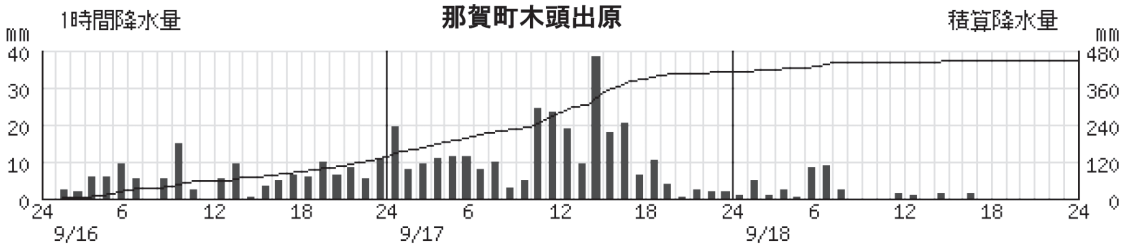


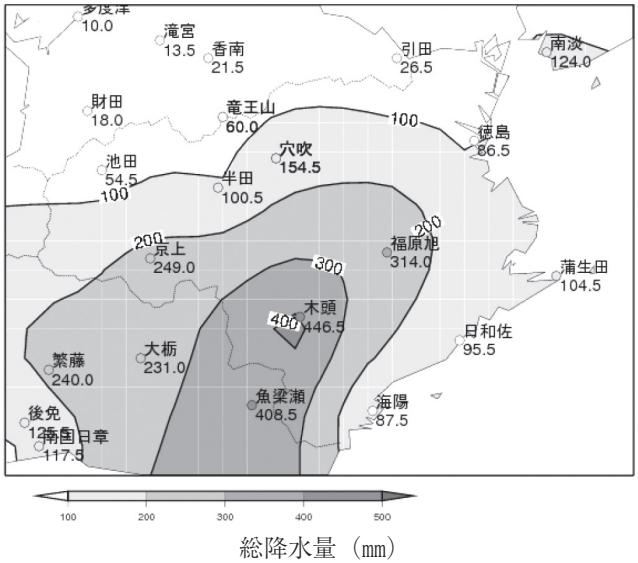


台風第 16 号　経路図

カロリン諸島近海で発生した台風第 16 号は，大型で非常に強い勢力を保ったまま 16 日 07 時 30 分頃に沖縄本島を通過後，九州の西海上を北へ進み，朝鮮半島から日本海西部へ進んで 18 日 09 時に沿海州で温帯低気圧に変わった。徳島県では，台風第 16 号に向かって南から暖かく湿った空気が流入し大気の状態が不安定となり，山地を中心に大雨となった。また，沿岸部を中心に強風が吹いた。

16 日から 18 日にかけての総降水量は那賀町木頭出原で 446.5㎜を観測した。また，徳島市では最大風速が 17 日 08 時 27 分に南南東の風 16.5m/s，最大瞬間風速が 17 日に 03 時 28 分に南の風 27.4m/s を観測した。





総降水量（㎜）

【災害概況】

徳島市川内町では 17 日 10 時頃，風にあおられた屋根を押さえようとした 20 代女性が額に軽傷（切り傷）を負った。

美馬市木屋平川上では 18 日 9 時頃，国道 438 号沿いの山腹が高さ約 30m，幅約 30m にわたって崩壊，同 10 時から全面通行止め。

自主避難：美馬市 4 世帯 4 人，那賀町 3 世帯 4 人

道路の通行止め（強風や降雨による規制）：17 日～ 18 日，16 路線 32 ヶ所（国道 193 号，国道 195 号, 国道 438 号, 国道 439 号, 県道（山川海南，木沢上那賀，日和佐上那賀，土成徳島，脇三谷，

津田川島，市場学停車場，切幡川島，徳島吉野，神山川島，山城東祖谷山，西祖谷山山城））が通行止め。

農業被害（18 日 16 時現在）:青ネギ（徳島市）1.0ha とオクラ（勝浦町，牟岐町，美波町，海陽町）3.3ha，70 万円の被害。

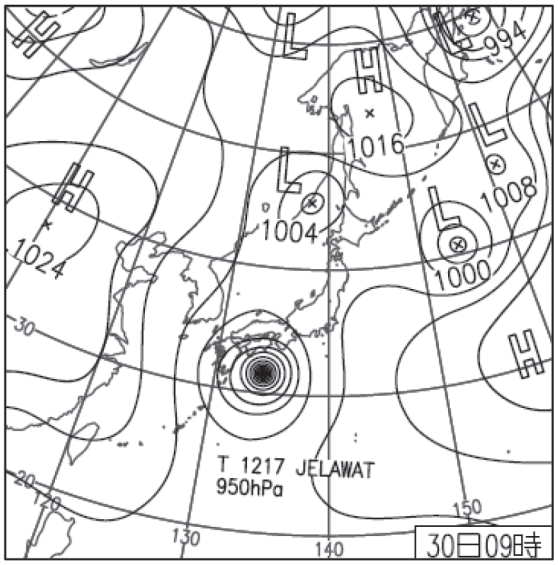
鉄道：雨が規制値を超えたため，18 日 13 時 26 分から 16 時 9 分まで牟岐線の運転を見合わせ，普通列車の上下 2 本が運休した。また，18 日始発から 08 時まで土讃線の運転を見合わせ，普通列車（大歩危－土佐山田）と特急列車（阿波池田－高知）の上下 13 本が運休。

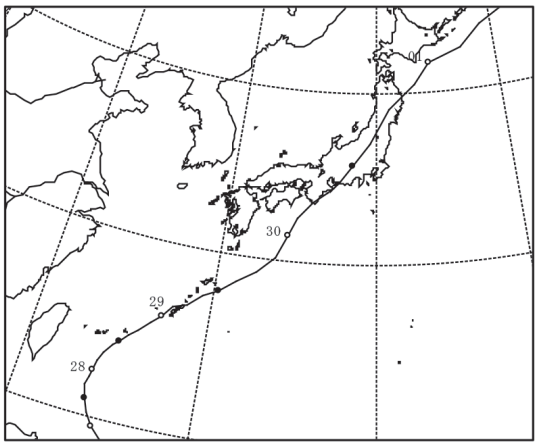
航空便：全日空（ANA）の徳島－東京線で 17 日上下計 4 便が欠航。

船：南海フェリーは 17 日早朝から 18 日にかけて 18 便が欠航。

停電：那賀町で 17 日 09 時 50 分に倒木で高圧線が断線して 148 戸，那賀町の一部地域では 13 時 27 分に高圧線同士が接触して 1,209 戸が停電。

2012 年（平成 24 年）9 月 29 日～ 30 日　強風 波浪（台風第 17 号）





台風第 17 号　経路図

フィリピンの東で発生した台風第 17 号は，非常に強い勢力となり，30 日朝には四国の南海上に接近し，次第に速度を速めながら 30 日 15 時頃に和歌山県潮岬付近を通過した。その後，30 日 19 時頃に愛知県東部に上陸した。このため徳島県では沿岸部を中心に強風が吹いた。

海陽では最大風速が 30 日 13 時 53 分に北西の風 17.3m/s，最大瞬間風速が 30 日 13 時 05 分に西北西の風 33.5m/s を観測した。

【災害概況】

30 日徳島市で 50 歳代女性が，強風であおられ軽傷。

30 日海部郡美波町東由岐本村の民家の瓦及びトタンが，強風によって一部破損した。

自主避難：徳島市 2 世帯 3 人，小松島市 3 世帯 3 人，阿南市 1 世帯 2 人，美馬市 3 世帯 3 人，三好市 4 世帯 9 人，勝浦町 1 世帯 1 人，石井町 1 世帯 1 人，那賀町 1 世帯 2 人，美波町 7 世帯 7 人，上板町 1 世帯 1 人，つるぎ町 2 世帯 2 人

鉄道：美波町山河内で倒木への列車の接触と風雨により，30 日 13 時 20 分頃から 20 時までの間牟岐線で特急と普通列車の上下 20 本が運休。

航空便：日本航空（JAL）と全日空（ANA）の徳島－東京線で 30 日午後の便を中心に上下計 11 便が欠航。

船：南海フェリーは 30 日 03 時から 10 月 1 日 05 時 40 分まで 18 便，オーシャン東九フェリーは 30 日の 2 便が欠航。

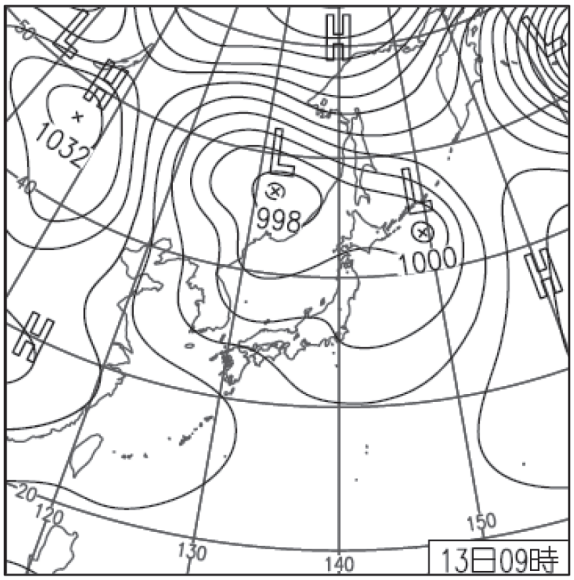
道路の通行止め（強風や降雨による規制）：30 日，15 路線 24 ヶ所（国道 193 号，国道 195 号，

国道 438 号，県道（徳島環状，古川長原港，神山川島，日和佐上那賀，山川海南，徳島引田，徳島北灘，鳴門池田，津田川島，徳島吉野，大谷西須賀，土成徳島））が通行止め。

神戸淡路鳴門自動車道では，30 日 13 時 45 分から 17 時 30 分まで洲本 IC ～鳴門 IC で，全面通行止め。

停電：海陽町で 13 時 20 分に樹木が高圧線に接触して 114 戸，那賀町で 15 時 16 分樹木が高圧線に接触して 1,210 戸，鳴門市で 15 時 30 分高圧線同士が接触して 2,797 戸が停電。

2012 年（平成 24 年）11 月 13 日　竜巻（寒気の移流）



西日本の上空に強い寒気が流れ込んだため，徳島県では大気の状態が非常に不安定となり，鳴門市付近を活発な積乱雲が通過した。この積乱雲により 13 日 15 時 20 分頃，徳島県鳴門市瀬戸町北泊で突風が発生し，非住家の一部損壊などの被害が発生した。徳島地方気象台では突風に関する現地調査を行った結果，この突風をもたらした現象は竜巻と推定した。

なお，徳島市では 13 日 15 時 39 分に西北西の風 20.7m/s の最大瞬間風速を観測した。

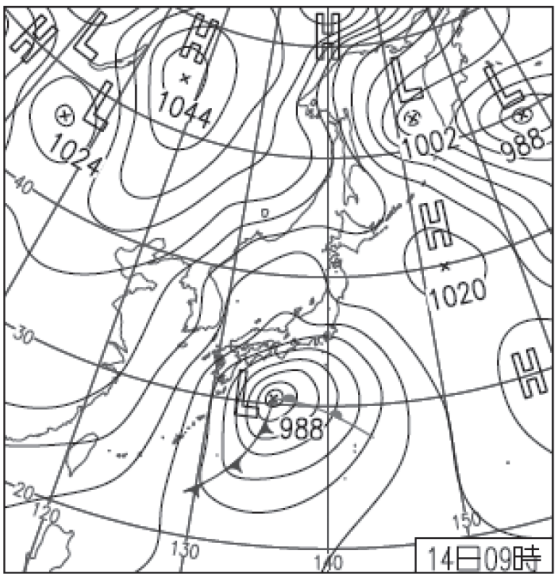
【災害概況】

13 日 15 時 20 分頃，鳴門市瀬戸町北泊で竜巻により，「プレハブ（倉庫）扉と壁面壊れた」，「プレハブ 2 階建てのトタン屋根の北西面の上部の端がめくれた」等の被害があった。また，飛散物により車 7 台の窓ガラスが割れた。けが人は無し。

2013年

［平成 25 年］

2013 年（平成 25 年）1 月 13 日～ 14 日　大雪　強風（南岸低気圧）



13 日から 14 日にかけて四国の南岸を低気圧が急速に発達しながら東進した影響で，徳島県では山地を中心に大雪となった。また，沿岸部を中心に風が強く，徳島市では，最大風速が 14 日 21 時 02 分に西北西の風 10.4m/s，最大瞬間風速は 14 日 23 時 57 分に西の風 22.2m/s を観測した。

【災害概況】

停電：14 日，積雪で倒れた樹木により高圧線が断線したことが原因で，04 時 17 分から那賀町木頭 378 戸，21 時 05 分から那賀町木沢 345 戸，06 時 33 分から三好市 4,468 戸，09 時 06 分から美馬市 1,273 戸，09 時 07 分からつるぎ町 476 戸，09 時 34 分から吉野川市 350 戸，14 時 43 分から東みよし町 569 戸，積雪で倒れた樹木と高圧線が接触したことが原因で 04 時 22 分から神山町 1,668 戸，09 時 06 分から佐那河内村 26 戸，強風によって高圧線が断線したことが原因で 19 時 03 分から鳴門市で 7 戸が停電。

道路の通行止め：徳島自動車道の井川池田インターチェンジと川之江東ジャンクション間が，積雪のため 14 日 00 時から 18 時 20 分まで通行止め。一般道路では，国道 438 号（神山町－美馬市），国道 193 号（神山町－吉野川市）が（14 日から 16 日 17 時まで）積雪のため，国道 193 号（那賀町－海陽町）が（14 日から）雪による倒木のため通行止め。

2013 年（平成 25 年）4 月 13 日　地震

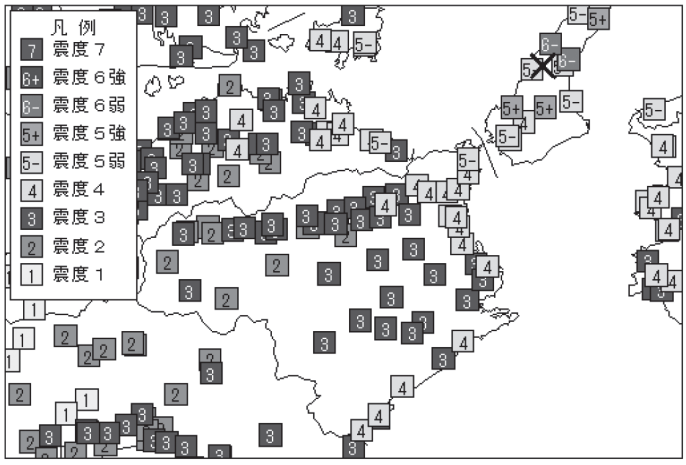


図 1　観測点ごとの震度分布
（×は震央位置）

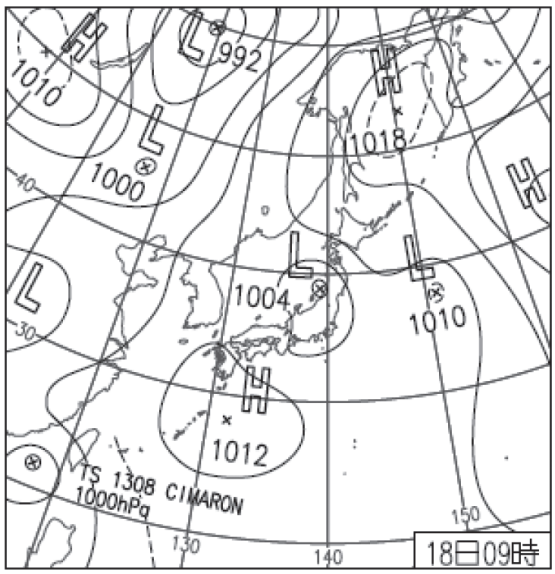
05 時 33 分に淡路島付近（34°25.1′N 134°49.7′E）の深さ 15km を震源とするマグニチュード 6.3 の地震が発生。この地震により，兵庫県淡路市で震度 6 弱，南あわじ市で震度 5 強を観測したほか，東海・甲信地方から九州地方にかけて震度 5 弱～ 1 を観測した。徳島県内では鳴門市で震度 5 弱を観測したほか，県内の市町村で震度 4 ～ 3 を観測した（図 1）。

この地震は，1995 年 1 月 17 日の「平成 7 年（1995 年）兵庫県南部地震」の余震域の南西端に近接する領域で発生した。

この地震により，軽傷者 2 名（徳島市，阿南市）住家一部損壊（北島町）等の被害が生じた。

県内の市町村ごとの震度

震度 5 弱	鳴門市
震度 4	徳島市，小松島市，松茂町，北島町，藍住町，板野町，阿波市，阿南市，牟岐町，美波町，海陽町
震度 3	佐那河内村，石井町，神山町，上板町，吉野川市，美馬市，つるぎ町，三好市，東みよし町，勝浦町，上勝町，那賀町

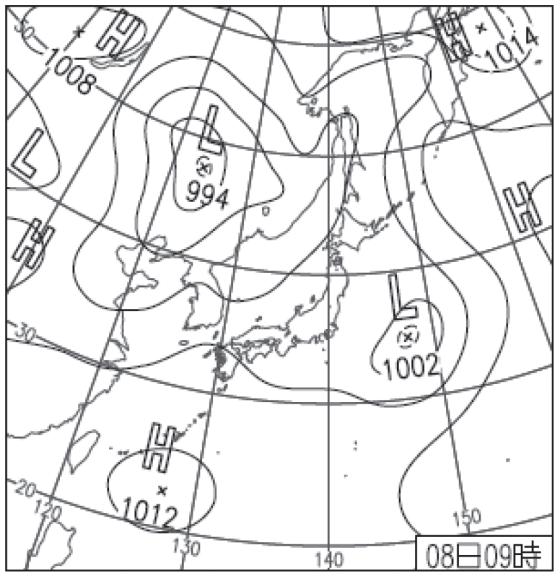


徳島県では，高気圧に覆われて概ね晴れて気温が上昇し美馬市穴吹で日最高気温 34.0℃ を記録した。

【災害概況】

熱中症：美馬市穴吹町で 23 日 16 時頃，男性（76 歳）が熱中症の疑いで死亡。

2013 年（平成 25 年）8 月 8 日　高温（太平洋高気圧）



徳島県では，高気圧に覆われて概ね晴れて気温が上昇し徳島市で日最高気温 33.9℃ を記録した。

【災害概況】

熱中症：名西郡石井町藍畑で 23 日 10 時頃，男性（67 歳）熱中症の疑いで死亡。

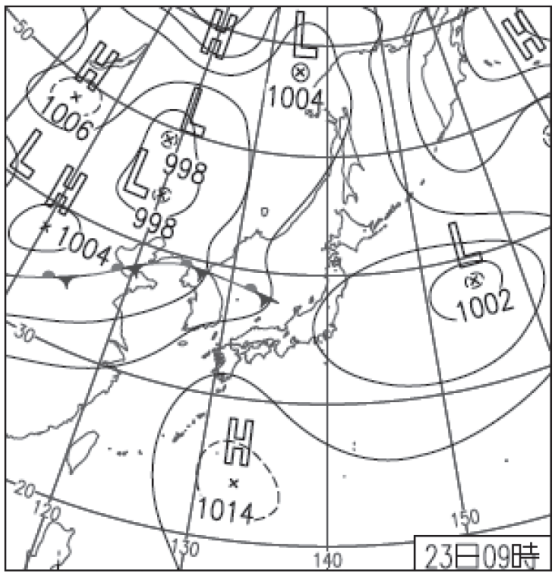
2013 年（平成 25 年）7 月 18 日　高温（太平洋高気圧）

徳島県では，高気圧に覆われて概ね晴れて気温が上昇し美馬市穴吹で日最高気温 32.9℃ を記録した。

【災害概況】

熱中症：阿波市市場町で 18 日昼過ぎ，熱中症と見られる症状で死亡（1 名）。

2013 年（平成 25 年）7 月 23 日　高温（太平洋高気圧）

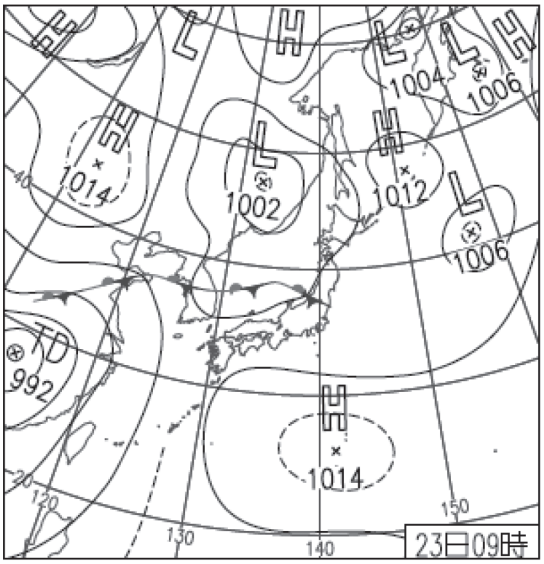


徳島県では，高気圧に覆われて概ね晴れて気温が上昇し美馬市穴吹で日最高気温 35.1℃ を記録した。

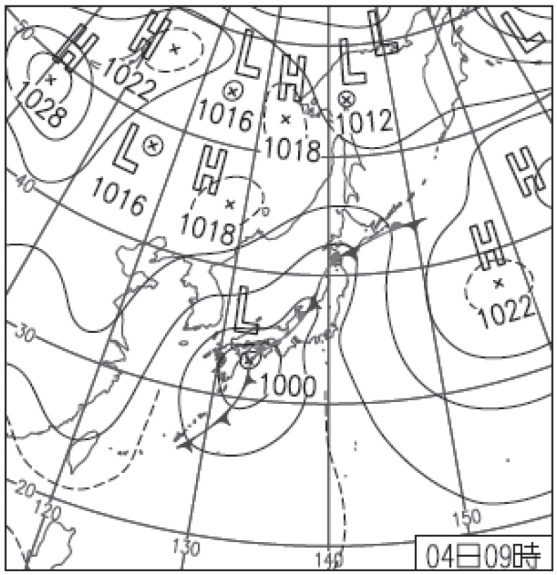
【災害概況】

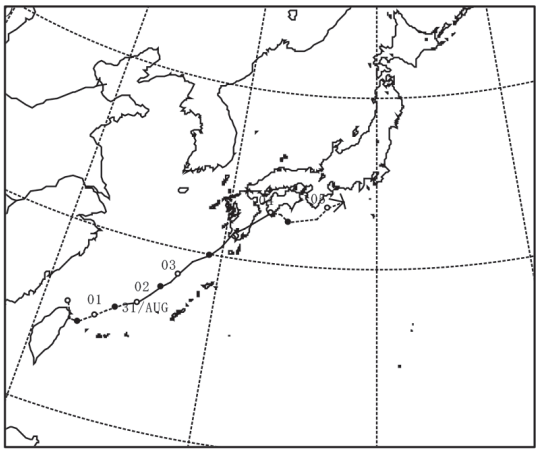
熱中症：美馬市美馬町で 8 日 10 時頃，女性（74 歳）が熱中症と見られる症状で死亡した。

2013 年（平成 25 年）8 月 23 日　高温（太平洋高気圧）



2013 年（平成 25 年）9 月 3 日～ 4 日　大雨　雷，強風（温帯低気圧）

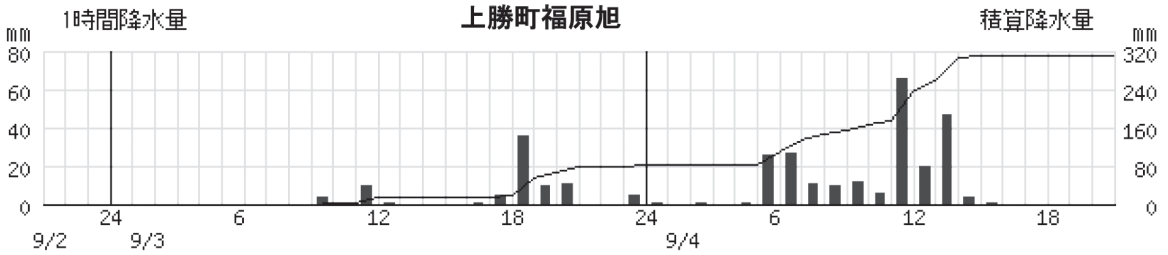


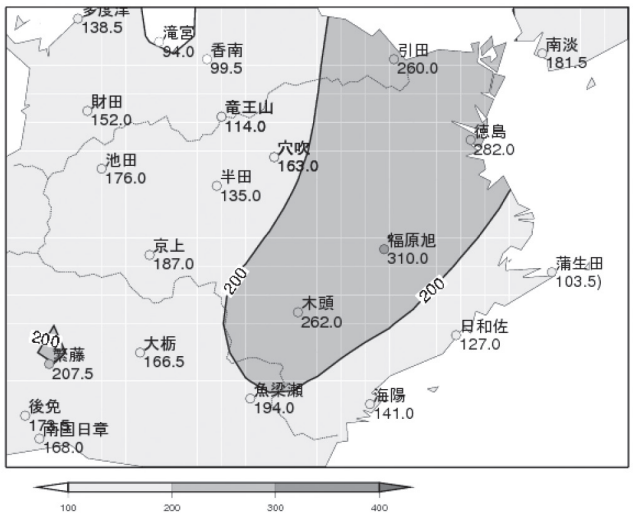


台風第 17 号　経路図

台風第 17 号から変わった温帯低気圧が四国沖を東進した影響で，南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が非常に不安定となり，徳島県では 3 日夕方から 4 日昼過ぎにかけて各地で大雨となり，沿岸部を中心に強風が吹いた。

3 日から 4 日にかけての総降水量は，上勝町福原旭で 310.0㎜，徳島市で 282.0㎜を観測した。また，阿南市蒲生田では 4 日 09 時 37 分に東南東の風 20.5m/s の最大瞬間風速を観測した。





総降水量（㎜）

【災害概況】

住家被害：床上浸水 6 棟（徳島市 3 棟，鳴門市 1 棟，小松島市 2 棟）。床下浸水 38 棟（徳島市 26 棟，鳴門市 3 棟，小松島市 6 棟，佐那河内村 2 棟，松茂町 1 棟）。

非住家被害：床下浸水 8 棟（徳島市 3 棟，鳴門市 3 棟，佐那河内村 2 棟）

公共土木施設被害：護岸損傷 2 個所多々羅川，徳島市渋野町宮前（L=15m 左右岸），大代谷川，鳴門市大津町大代（L=20（左岸））

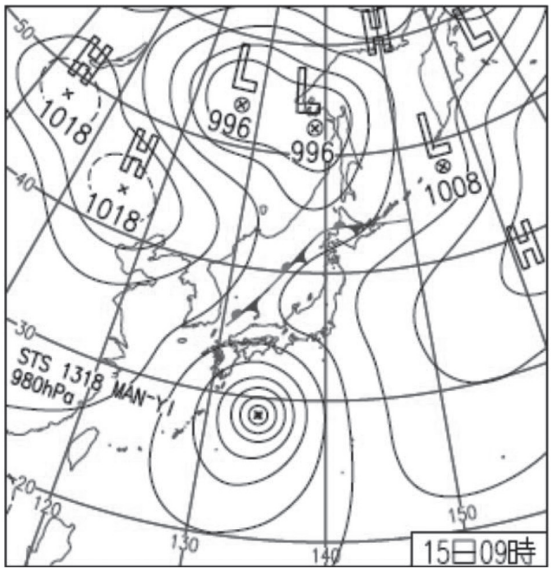
道路の通行止め（降雨による規制）：4 日，全面通行止め 26 路線 51 箇所，高速道道路の通行止め，神戸淡路鳴門自動車道（垂水 JCT ～鳴門 IC，上下線），高松自動車道（引田 IC ～鳴門 IC，上下線），徳島自動車道（徳島 IC ～土成 IC，上下線），（美馬 IC ～川之江東 JCT，上下線）

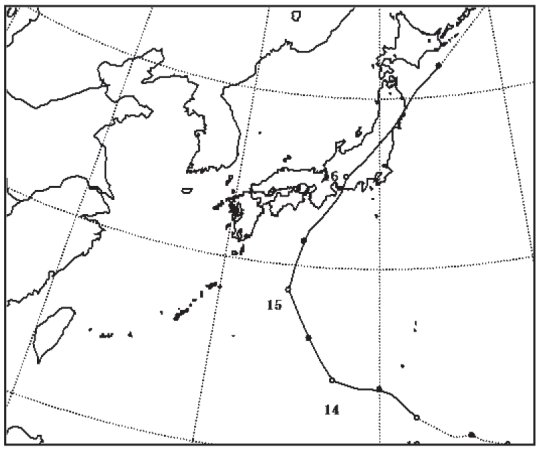
停電：9 月 4 日，徳島県内で落雷や強風により停電が発生，板野郡北島町（北村，中村）336 戸，美馬市美馬町（中横尾）623 戸，板野郡上板町（西分，七條，大寺，下庄，中久保，西中富）2,245 戸，那賀郡那賀町（阿井，百合，百合谷，和食郷，小仁宇，仁宇）610 戸

避難準備情報：徳島市上八万町川北地区（44 世帯約 110 人）13 時 15 分～ 16 時 15 分

自主避難：石井町 1 世帯 1 名，美馬市 2 世帯 2 名，神山町 1 世帯 1 名，三好市 1 世帯 2 名，牟岐町 1 世帯 1 名，鳴門市 1 世帯 8 名

2013 年（平成 25 年）9 月 14 日～ 16 日　大雨　強風　波浪（台風第 18 号）



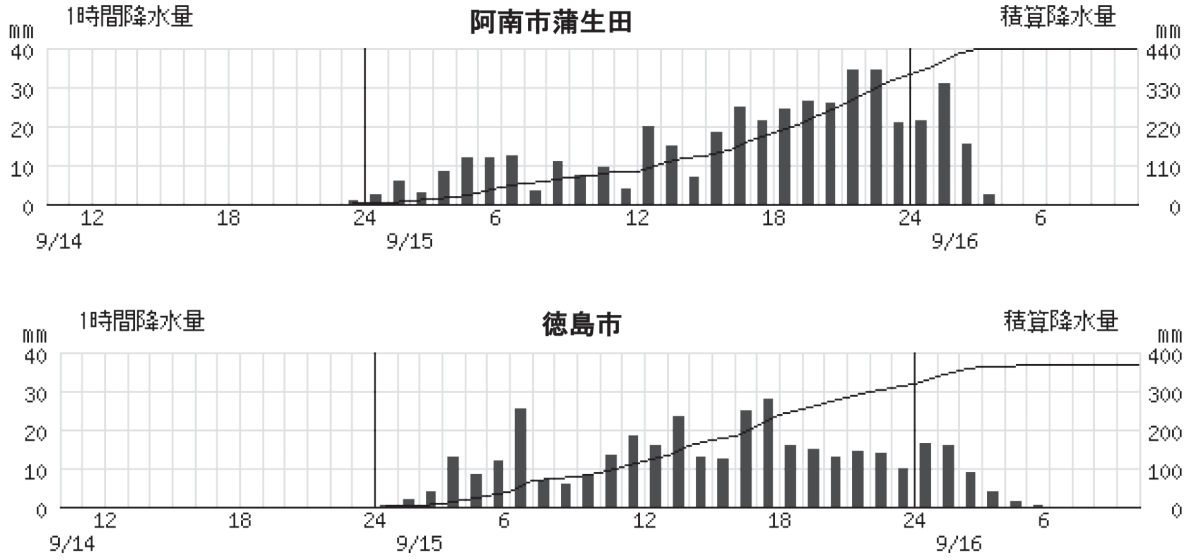


台風第 18 号　経路図

台風第 18 号は，大型の勢力を維持したまま 15 日から 16 日にかけて，四国の南海上を北東進し 16 日 08 時前に愛知県豊橋市付近に上陸した。徳島県では，この台風を取り巻く雨雲により 15 日から 16 日朝にかけて沿岸部を中心に大雨となった。

9 月 14 日から 16 日にかけての総降水量は，阿南市蒲生田で 437.5㎜，徳島市で 367.0㎜を観測した。

また，美波町日和佐では，16 日 00 時 36 分に北西の風 26.8m/s の最大瞬間風速を観測するなど各地で強風が吹いた。

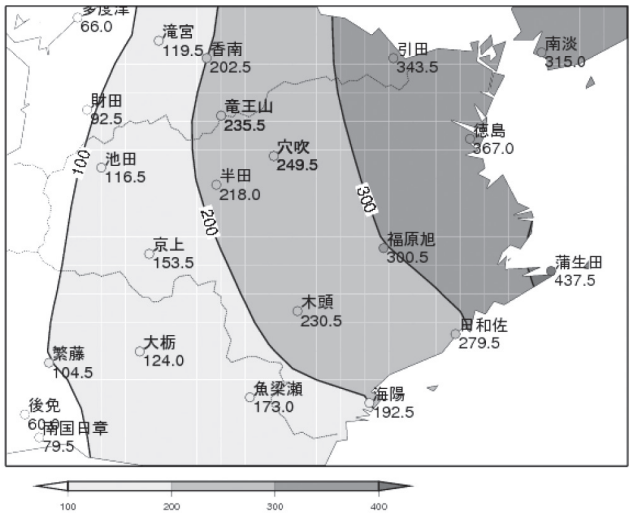


【災害概況】

14 日～ 16 日の大雨で，鳴門市では大津町の大代谷川の片側護岸が増水により約 10m に渡って土が崩れた。同市の鳴門ウチノ海総合公園では，管理事務所のトタン屋根の一部が強風ではがれた。

住家被害：床上浸水 4 棟（小松島市 3 棟，阿南市 1 棟），床下浸水 33 棟（阿南市 10 棟，小松島市 15 棟，鳴門市 8 棟），非住家被害 17 棟（阿南市 15 棟，小松島市 1 棟，鳴門市 1 棟）

道路の通行止め：15 日 29 路線 48 箇所，高速道道路の通行止め，高松自動車道（高松中央 IC ～



総降水量（mm）

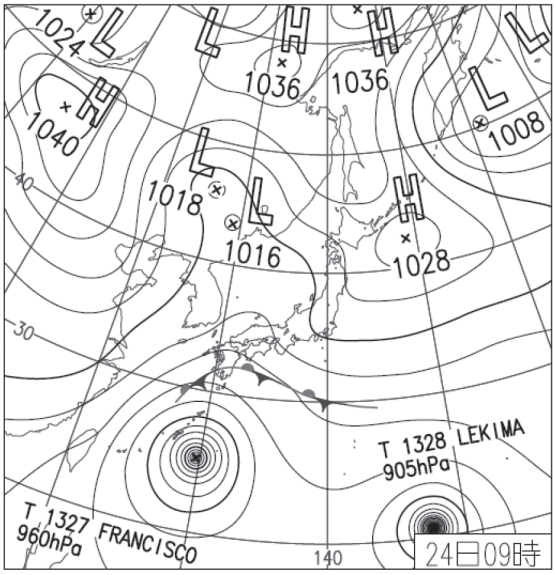
鳴門 IC），神戸淡路鳴門自動車道（東浦 IC ～鳴門 IC），徳島自動車道（徳島 IC ～井川池田 IC）

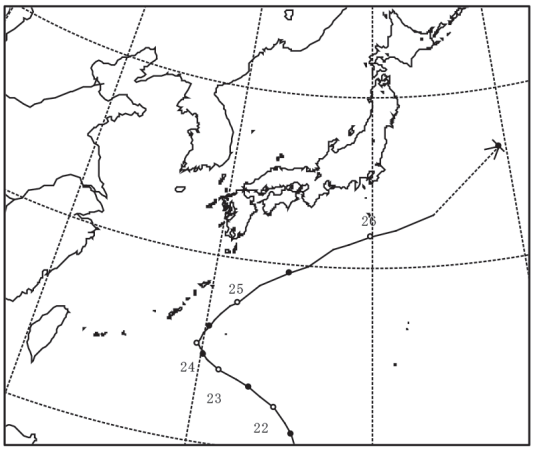
停電：15 日 14 時 46 分発生，16 時 19 分復旧，停電戸数 3,486 戸徳島市金沢，北沖洲，城東町，住吉，停電原因風雨による配電設備の故障

避難準備情報：15 日 18 時 50 分に阿南市福井川流域地区 230 世帯 600，名自主避難：美馬市 6 世帯 6 名，勝浦町 1 世帯 1 名，阿南市 10 世帯 15 名，石井町 1 世帯 1 名，鳴門市 4 世帯 4 名，吉野川市 1 世帯 2 名，板野町 1 世帯 3 名

交通機関：海上；南海フェリー，15 日 10 時 50 分から上下 17 本欠航，航空便；全日空・日本航空あわせて 8 便欠航

2013 年（平成 25 年）10 月 22 日～ 26 日　大雨　波浪　強風（台風第 27 号）

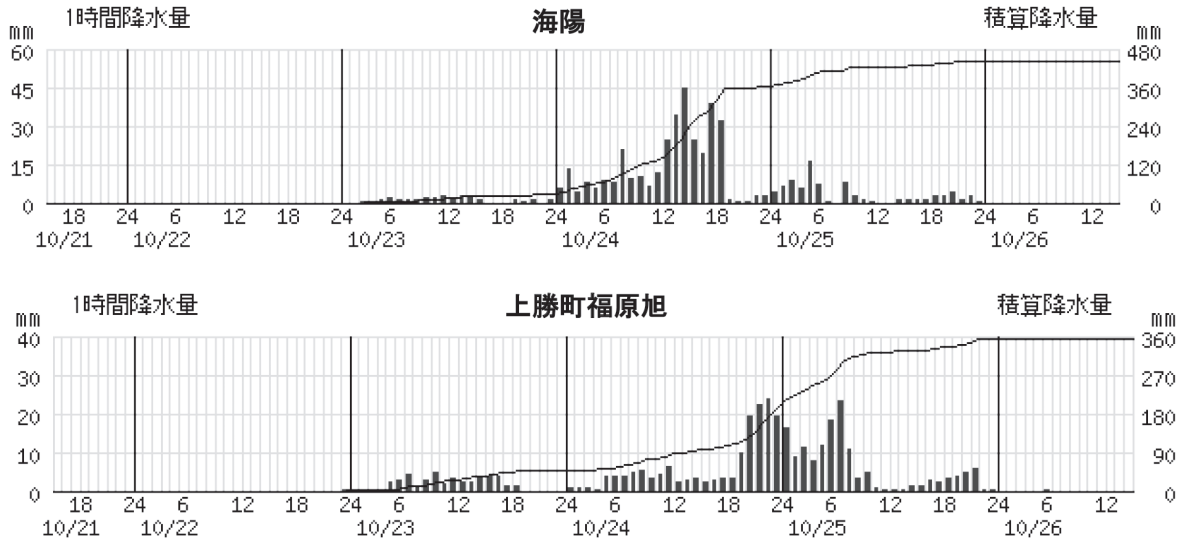




台風第 27 号　経路図

台風第 27 号の周辺を回る暖かく湿った空気が停滞前線に流れ込み，県南部を中心に大雨となった。

10 月 22 日 21 時から 26 日 15 時にかけての総降水量は，海陽で 444.0mm，上勝町福原旭で 353.5 mmを観測した。



【災害概況】

道路の通行止め：24 ～ 25 日 17 路線 31 箇所

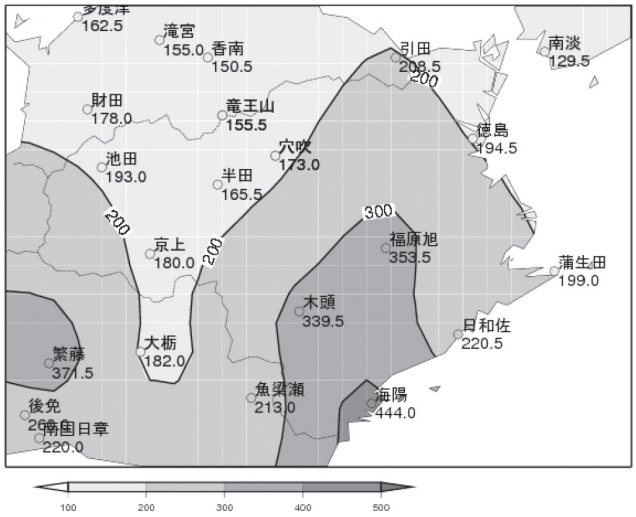
避難勧告：24 日 20 時 15 分海陽町（海陽町全域），25 日 00 時 00 分那賀町（那賀町神那賀地区，木沢地区）

避難準備情報：25 日 10 時 15 分三好市（池田町地区 69 世帯 150 人，井川町地区 16 世帯 26 人，三野町地区 211 世帯 528 人）

避難:海陽町 20 世帯 25 名, 那賀町 4 世帯 5 名,

自主避難：三好市 2 世帯 3 名，上勝町 1 世帯 2 名，美馬市 2 世帯 2 名

交通機関：海上；南海フェリー，25 日上下全便欠航（16 便），26 日上下とも 2 から 3 便まで欠航（4 便）

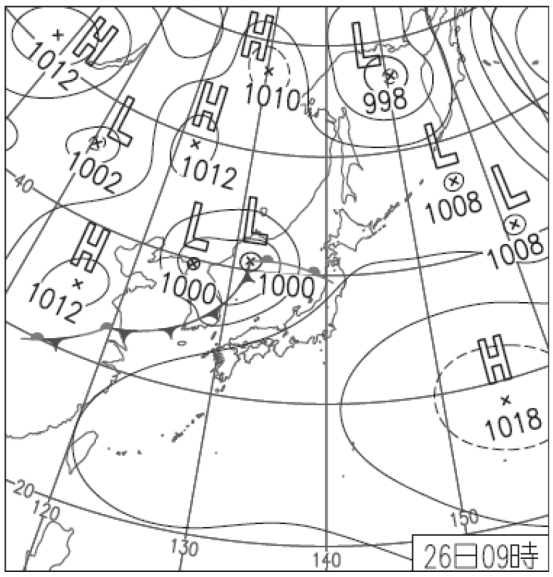


総降水量（mm）

2014年

［平成 26 年］

2014 年（平成 26 年）7 月 23 日～ 26 日　高温（太平洋高気圧）



徳島県では，太平洋高気圧に覆われ，よく晴れて気温が上昇した。

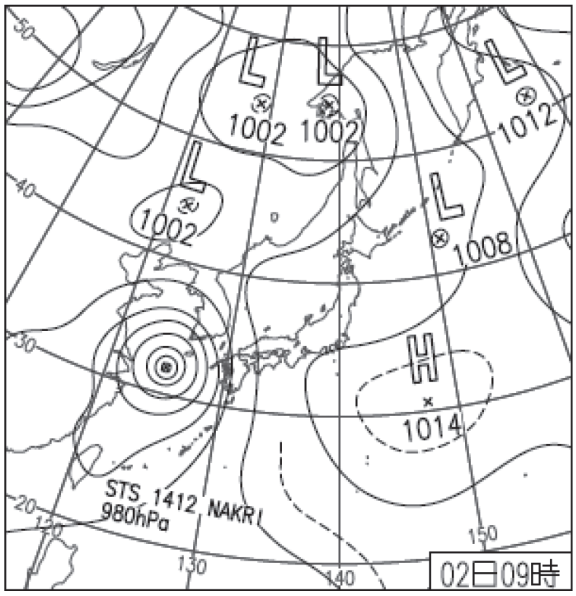
徳島市での日最高気温は，23 日 32.3 ℃，24 日 33.6℃，25 日 35.1℃，26 日 34.0℃を観測した。

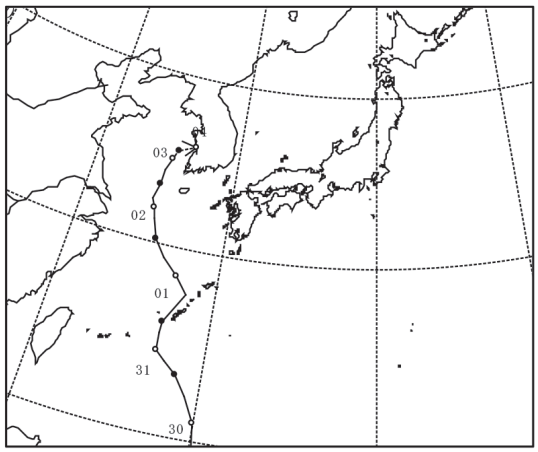
【災害概況】

熱中症：23 日に熱中症の疑いで 6 名が搬送された。

26 日に熱中症の疑いで 16 名が搬送され，鳴門市の 89 歳の女性が意識不明の重体となった。

2014 年（平成 26 年）8 月 1 日～ 6 日　大雨　雷（暖気の移流）



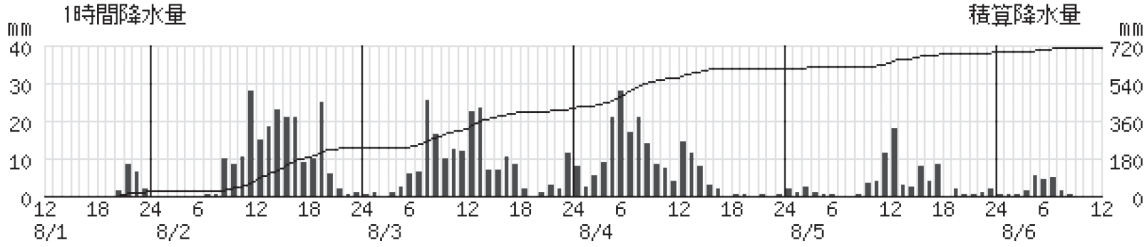


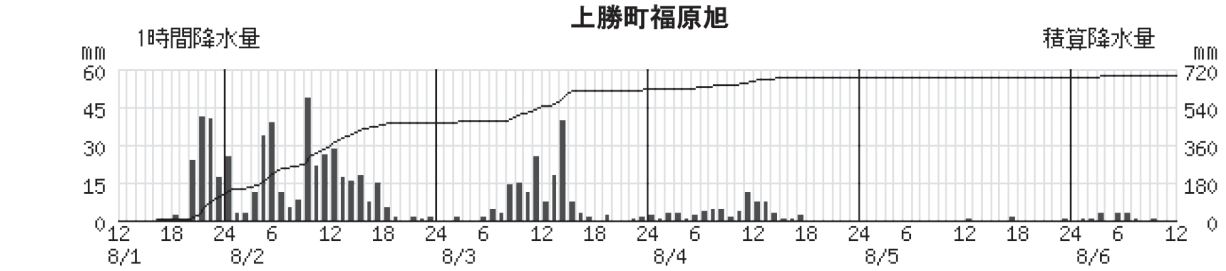
台風第 12 号　経路図

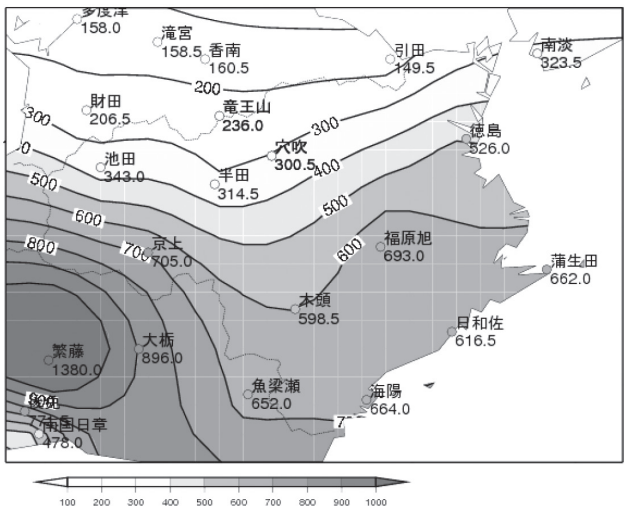
フィリピンの東海上で発生した台風第 12 号は，1 日から 3 日にかけて東シナ海を北上し，3 日 15 時に黄海で熱帯低気圧に変った。この影響で徳島県では南から暖かく湿った空気が流れ込み，大気の状態が非常に不安定となり，各地で雷を伴った激しい雨が断続的に降り大雨となった。

降り始めの 8 月 1 日 12 時から 6 日 24 時までの総降水量は，三好市京上で 705.0㎜，上勝町福原旭で 693.0㎜，海陽で 664.0㎜を観測した。

三好市京上







総降水量（mm）

腰まで水につかりながら船で救出する救助隊
（徳島新聞社提供）

【災害概況】

人的被害：美馬市で増水した川に流された男性が死亡

住家被害：半壊；海陽町 1 棟，一部破損；三好市 1 棟，床上浸水；小松島市 31 棟，阿南市 114 棟，美馬市 1 棟，美波町 6 棟，海陽町 93 棟，つるぎ町 1 棟，東みよし町 1 棟，床下浸水；徳島市 1 棟，小松島市 166 棟，阿南市 553 棟，美馬市 2 棟，三好市 5 棟，美波町 16 棟，海陽町 253 棟

非住家被害：美馬市 2 棟，東みよし町 4 棟

土砂災害：がけ崩れ；海陽町 2 箇所，阿南市 1 箇所，那賀町 1 箇所，地すべり；三好市 1 箇所，土石流；海陽町 3 箇所

停電：8 月 3 日午後 10 時現在停電 1,724 戸

陸上交通：高速バス；26 便運休（8 月 3 日～ 4 日），JR 運転見合わせ，8 月 2 日【牟岐線】阿南駅～牟岐駅間，徳島駅～海部駅（13 時 30 分～），8 月 3 日【高徳線】引田駅～徳島駅，【徳島線】徳島駅～阿波池田駅，【牟岐線】阿南駅～牟岐駅間，徳島駅～海部駅，【鳴門線】池谷駅～鳴門駅，8 月 4 日【牟岐線】阿南駅～海部駅

通行止め：異常気象による規制 30 路線，通行止め 55 路線

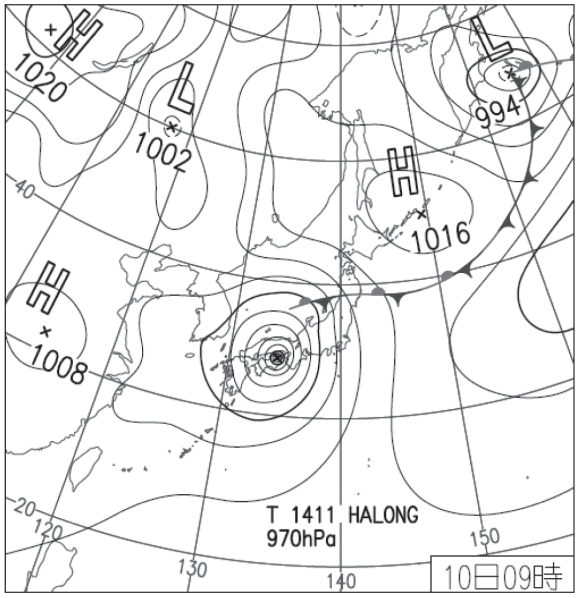
2014 年（平成 26 年）8 月 7 日～ 10 日大雨　強風　波浪（台風第 11 号）

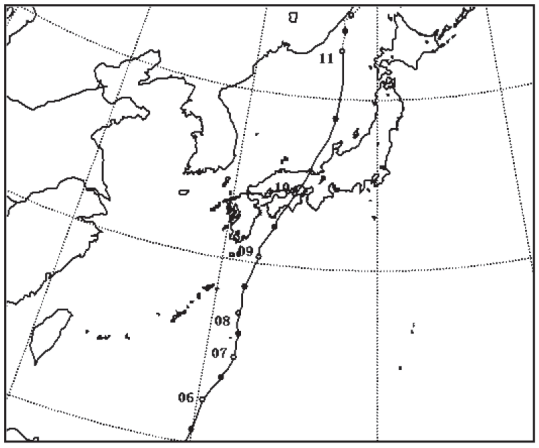
マリアナ諸島近海で発生した台風第 11 号は，強い勢力を維持したまま日本の南海上をゆっくりと北上し，10 日 06 時過ぎに高知県安芸市付近に上陸した。その後，四国地方をゆっくり北北東に進み 10 日 11 時前に兵庫県姫路市付近に再上陸した。この台風を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため，徳島県では大荒れの天気となり各地で大雨となった。

8 月 7 日から 10 日にかけての総降水量は，上勝町福原旭で 817.0mm，那賀町木頭出原で 731.5mm，徳島市で 466.0mm を観測した。

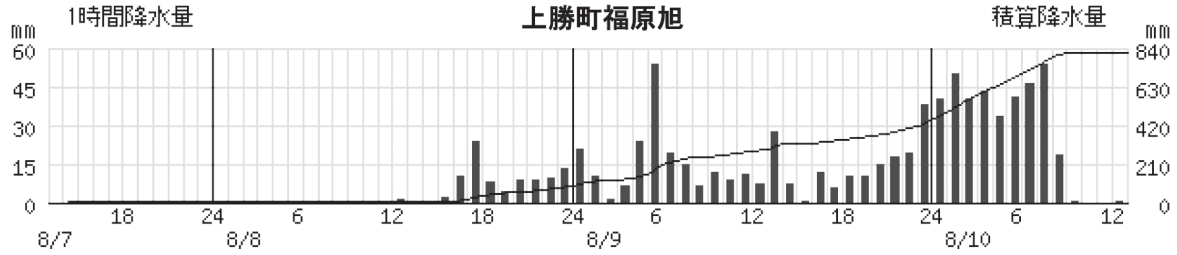
また，各地で暴風となり，徳島市で最大風速が 10 日 08 時 09 分に南南東の風 21.2m/s，最大瞬

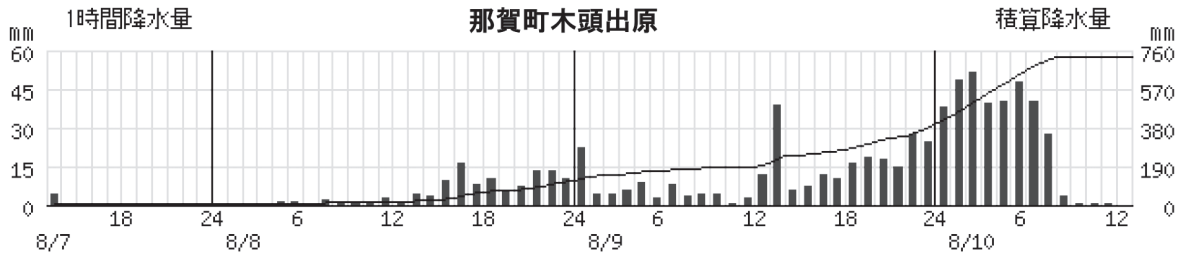
間風速が 10 日 08 時 02 分に南東の風 33.2m/s，阿南市蒲生田で最大風速が 10 日 03 時 33 分に東南東の風 22.2m/s，最大瞬間風速が 10 日 07 時 40 分に東南東の風 44.0m/s，美波町日和佐で最大風速が 10 日 06 時 46 分に東南東の風 22.9m，最大瞬間風速が 10 日 06 時 39 分に東南東の風 35.1m を観測した。





台風第 11 号　経路図





【災害概況】

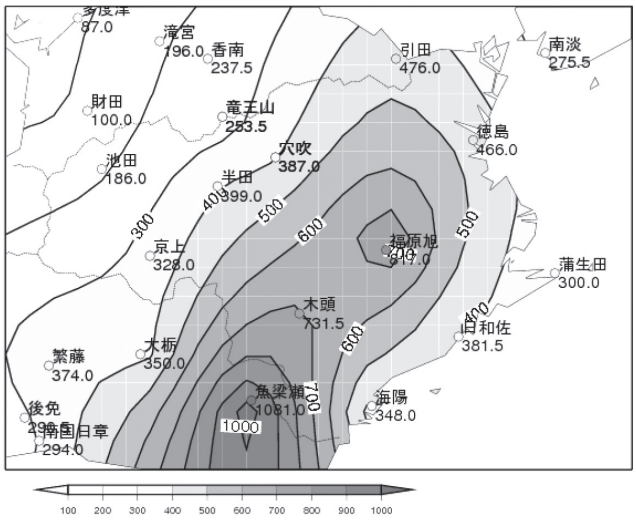
人的被害：軽傷；鳴門市 1 名

住家被害:全壊;東みよし町 1 棟，那賀町 1 棟，半壊;那賀町 137 棟，住家一部損壊;徳島市 21 棟，鳴門市 16 棟，吉野川市 4 棟，美馬市 4 棟，北島町 1 棟，床上浸水；徳島市 15 棟，鳴門市 1 棟，小松島市 33 棟，阿南市 187 棟，吉野川市 23 棟，阿波市 2 棟，美馬市 1 棟，神山町 1 棟，那賀町 111 棟，海陽町 1 棟，床下浸水；徳島市 45 棟，鳴門市 28 棟，小松島市 213 棟，阿南市 47 棟，吉野川市 214 棟，阿波市 27 棟，美馬市 4 棟，石井町 18 棟，那賀町 15 棟，美波町 1 棟，海陽町 18 棟，松茂町 4 棟，北島町 4 棟，藍住町 11 棟，板野町 1 棟

非住家被害：鳴門市 3 棟，吉野川市 46 棟，阿波市 2 棟，美馬市 1 棟，那賀町 94 棟，藍住町 2 棟

土砂災害：がけ崩れ；東みよし町 1 箇所，吉野川市 1 箇所，徳島市 1 箇所，美馬市 1 箇所

停電：8 月 10 日午後 3 時現在，停電 14,888 戸



総降水量（mm）

河川の氾濫で水浸しとなった阿南市加茂谷地区（徳島新聞社提供）

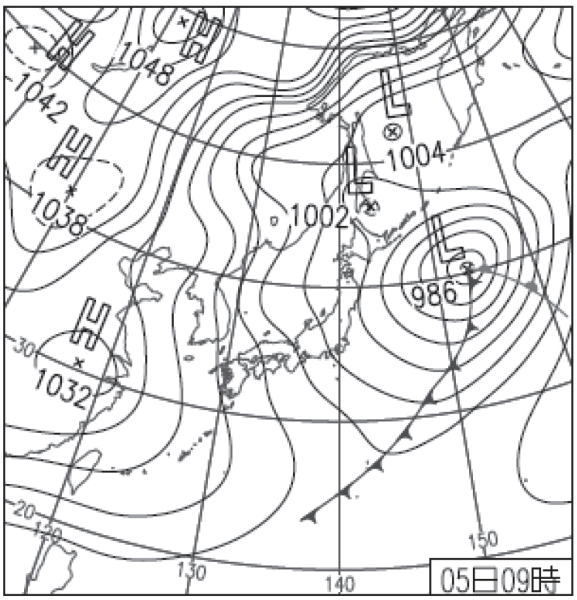
陸上交通：高速バス；517 便運休（8 月 9 ～ 10 日），JR 運転見合わせ【高徳線】志度駅～徳島駅間，【鳴門線】池田駅～鳴門駅間，【牟岐線】徳島駅～海部駅間，【徳島線】徳島駅～阿波池田駅間

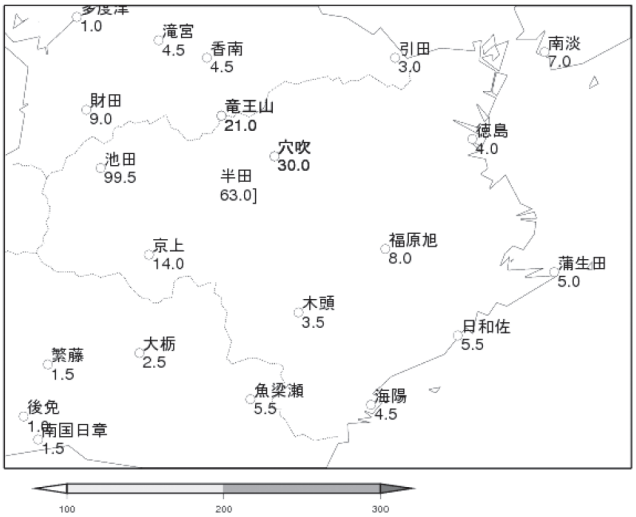
船舶 8 月 9 ～ 10 日：南海フェリー，32 便欠航，

航空便 8 月 9 ～ 10 日：JAL（羽田－徳島）20 便欠航，JAL（徳島－福岡）6 便欠航，ANA（羽田－徳島）12 便欠航

通行止め：8 月 9 ～ 10 日神戸淡路鳴門自動車道；鳴門 IC と洲本 IC 間が上下線通行止，高松自動車道；鳴門 IC と津田東 IC が上下線通行止，徳島自動車道；徳島 IC と土成 IC が上下線通行止，一般道；異常気象による規制 24 路線，通行止め 119 路線

2014 年（平成 26 年）12 月 5 日～ 6 日　大雪（寒気の移流）





総降水量（mm）

5 日から 6 日にかけては，西日本の上空約 5,500m に－30℃以下の強い寒気が流れ込み，強い冬型の気圧配置となって県西部の山地を中心に大雪となった。

【災害概況】

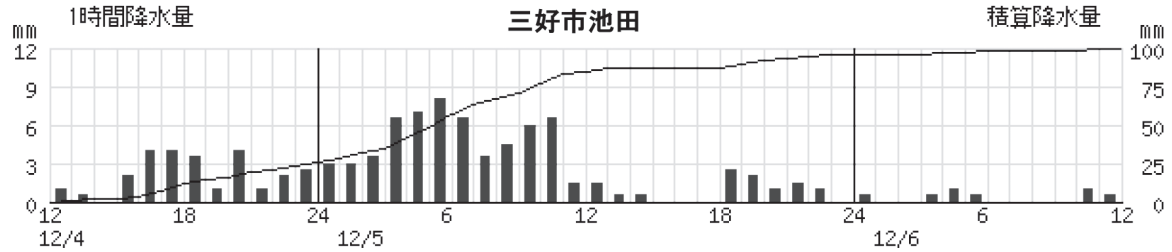
吉野川市で，12 月 5 日に高越山で男性 2 名が死亡。

交通への影響は，路面に積もった雪のため，徳島県と愛媛県の県境の国道 192 号線では，12 月 5 日 05 時半ごろから動けない車が出始め，徳島県側で 50 台の大型トレーラーやトラックなどが立往生し通行止め。

12 月 5 日 22 時頃に立ち往生は解消し，6 日 07 時 30 分に通行止めは解除。

また，倒木や電柱が折れた影響で道路が通れなくなり，三好市，東みよし町，つるぎ町の一部で孤立集落が発生。

着雪による倒木のため，電柱が折れるなどした影響で，三好市，東みよし町，つるぎ町，美馬市で停電が発生。



雪作業をする自衛隊員（徳島新聞社提供）

雪に埋もれた道で作業する除雪車（徳島新聞社提供）

【人的被害】

吉野川市（2 名）

【停電】（12/6 09:00 時点）

三好市（968 戸），東みよし町（271 戸），つるぎ町（1,985 戸），美馬市（147 戸）の 3,371 戸

【通行止め】

12 月 5 日 03 時 20 分から 6 日 14 時 00 分にかけて，徳島自動車道の川之江東 JCT ～井川池田 IC 間の上下線で雪による通行止め，12 月 5 日から 6 日にかけて国道や県道の通行止め。

積雪による通行止め 7 路線，倒木による通行止め 10 路線，落石による通行止め 1 路線

【交通機関】

高速道路等の通行止めの影響で徳島から松山間の高速バスが 1 便運休。

【孤立集落】

三好市（521 世帯，984 名（12/7 16:00 時点））

東みよし町（50 世帯，75 名（12/6 09:00 時点））

つるぎ町（293 世帯，467 名（12/6 16:00 時点））

2015年

［平成 27 年］

2015 年（平成 27 年）2 月 6 日　地震

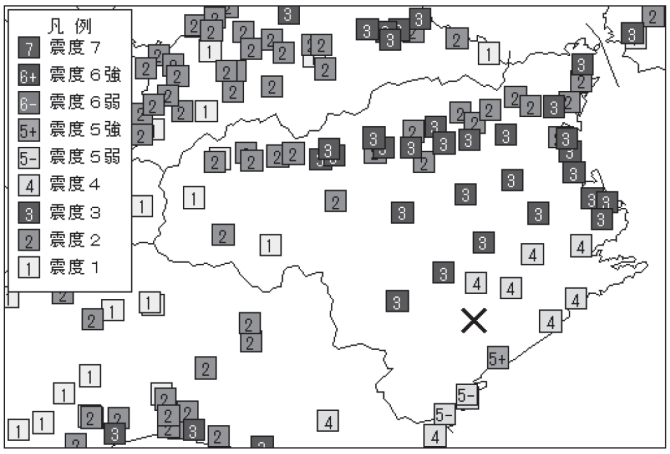
10 時 25 分に徳島県南部（33° 44.0′ E，134° 22.2′ ）の深さ 11kmを震源とするマグニチュード 5.1 の地震が発生。この地震により，牟岐町で震度 5 強，海陽町で震度 5 弱を観測したほか，県内の市町村で震度 4 ～ 2 を観測した（表 1）。また，東海地方から中国・四国地方にかけて震度 4 ～ 1 を観測した。

この地震により，海陽町･那賀町の小中高校の校舎･窓ガラスにヒビ等の小被害が生じた（H27.2.6 徳島県発表資料による）。

なお，この地震の震央の北西約 10kmでは，1955 年（昭和 30 年）7 月 27 日に M6.4 の地震が発生している。

表 1　県内の市町村ごとの震度

震度 5 強	牟岐町
震度 5 弱	海陽町
震度 4	阿南市，那賀町，美波町
震度 3	徳島市，鳴門市，小松島市，佐那河内村，石井町，神山町，北島町 吉野川市，美馬市，つるぎ町，阿波市，勝浦町，上勝町
震度 2	松茂町，藍住町，板野町，上板町，三好市，東みよし町



観測点ごとの震度分布
（×は震央）

崩れた石垣（徳島新聞社提供）

2015 年（平成 27 年）5 月 1 日～ 9 月 30 日　高温（移動性高気圧，太平洋高気圧）

四国地方は 5 月から高気圧に覆われて晴れる日が多く，そのため気温が高くなり，5 月の真夏日の日数は 18 日と歴代 1 位となった。また，7 月 24 日ごろの梅雨明け後から 8 月上旬にかけては太平洋高気圧に覆われる日が多く，晴れて気温が高くなった。9 月には，南部を中心に最高気温が 30℃を超える日もあった。

【災害概況】

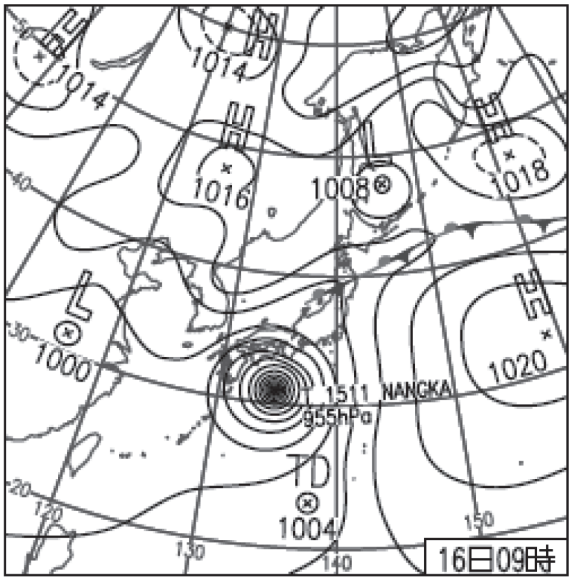
7 月 29 日，美波町で 67 歳男性が熱中症とみられる症状で死亡。

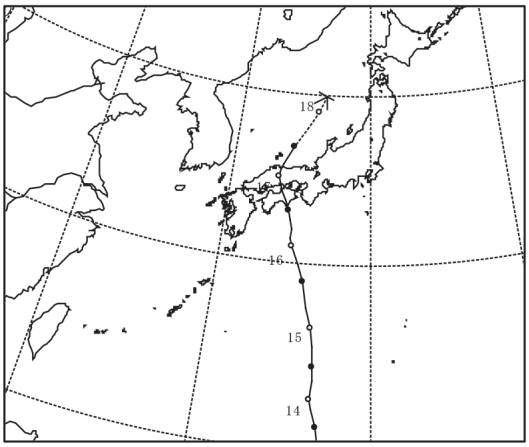
8 月 7 日，板野郡北島町で 75 歳女性が熱中症とみられる症状で死亡。

【総務省消防庁まとめ，熱中症による救急搬送状況】（徳島県）

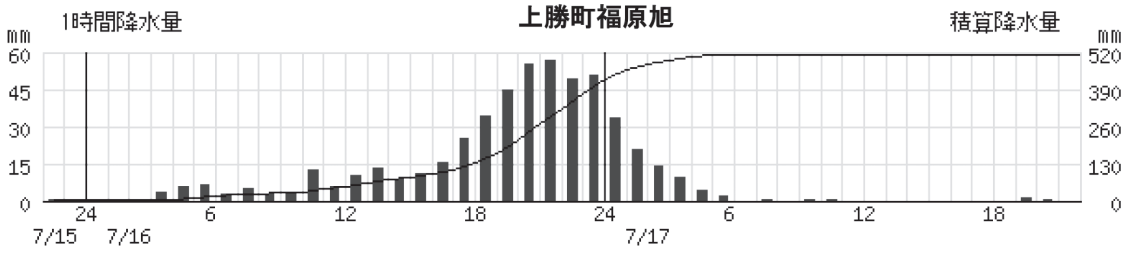
日	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
5 月	0	1	10	18	0	29
6 月	0	1	9	18	1	29
7 月	1	8	52	94	8	163
8 月	1	8	73	94	6	182
9 月	0	2	5	19	0	26
合計	2	20	149	243	15	429

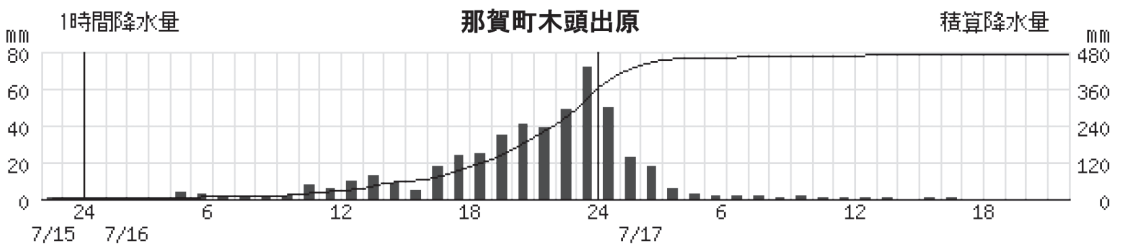
2015 年（平成 27 年）7 月 16 日～ 17 日　大雨　強風　波浪（台風第 11 号）





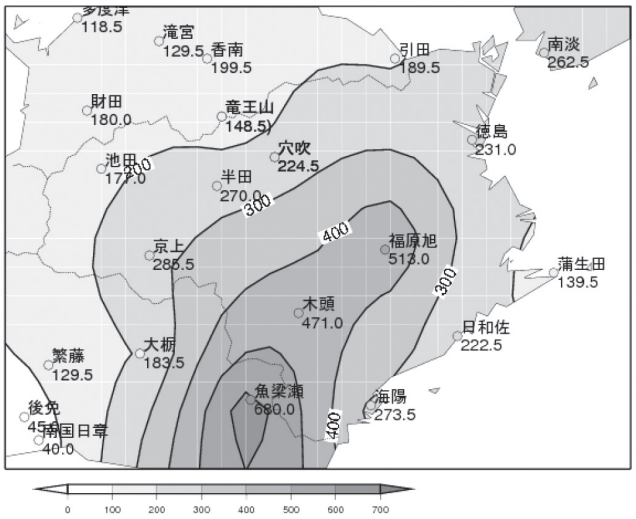
台風第 11 号　経路図





マーシャル諸島付近で発生した台風第 11 号は，大型で強い勢力のまま日本の南をゆっくりと北上し，16 日 23 時頃に高知県室戸市付近に上陸した。その後，勢力を弱めながら四国地方をゆっ

くりと北上し，17 日 06 時頃に岡山県倉敷市付近に再上陸した。17 日午後には中国地方を北上して，日本海へ進んだ。
この台風を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため，徳島県では荒れた天気となり各地で大雨や暴風，高潮が観測された。
7 月 15 日 22 時から 17 日 22 時までの総降水量は，上勝町福原旭で 513.0㎜，那賀町木頭出原で 471.0㎜，徳島市で 231.0㎜を観測した。
最大風速は美波町日和佐で 16 日 22 時 37 分に東の風 29.7m/s，最大瞬間風速は阿南市蒲生田で 16 日 23 時 31 分に南東の風 39.9m/s を観測した。

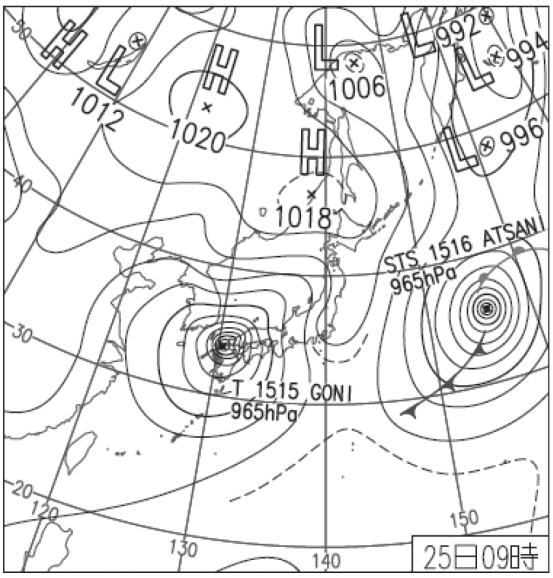


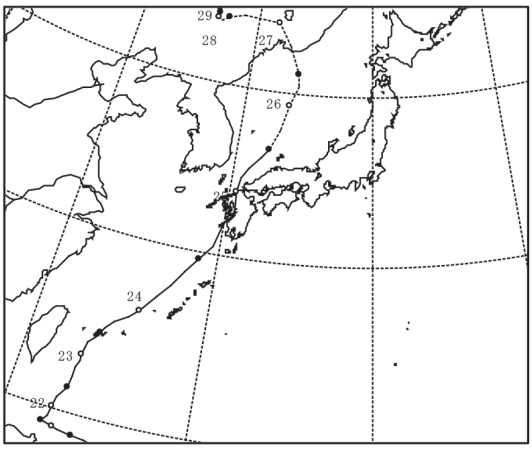
総降水量（㎜）

河川の氾濫で水浸しとなった阿南市加茂谷地区（徳島新聞社提供）

【災害概況】
人的被害：鳴門市；重傷 1 名，軽傷 1 名（7 月 16 日午後 6 時 46 分ごろ，鳴門市の男性が強風にあおられて転倒し，軽いけが）
崖崩れ：阿南市 1 か所
住家被害：住家半壊；2 棟（阿南市 1，三好市 1），一部損壊；25 棟（徳島市 6，阿南市 15，勝浦町 1，美波町 2，東みよし町 1），床上浸水；60 棟（小松島市 1，阿南市 7，吉野川市 4，那賀町 48），床下浸水;159 棟（鳴門市 6，小松島市 6，阿南市 59，吉野川市 56，那賀町 31，海陽町 1）
非住家被害：22 件（5 市 5 町）
道路の通行止（交通規制を含む）:【高速道路】神戸淡路鳴門自動車道；強風のため通行止め【県管理道路】全面通行止;35 路線 60 箇所【市町村道】通行止，2 市 1 町;16 箇所（徳島市 10 箇所，小松島市 5 箇所，勝浦町 1 箇所）
海上交通：7 月 15 日～ 17 日徳島－和歌山，上下各 18 便欠航
航空便：7 月 16 日～ 17 日東京－徳島，31 便（JAL20 便，ANA11 便），徳島－福岡；各 2 便欠航
高速バス：運休，JR 四国及び徳島バスの徳島発着の 119 本が運休
停電：29,838 世帯
避難勧告等:避難指示;阿南市，三好市，神山町，避難勧告;徳島市，小松島市，美馬市，吉野川市，三好市，阿波市，勝浦町，那賀町，牟岐町，つるぎ町，東みよし町，佐那河内村，避難準備情報;徳島市，鳴門市，阿南市，阿波市，上勝町，佐那河内村，石井町，美波町，海陽町，板野町，上板町
避難状況：316 世帯 447 名

2015 年（平成 27 年）8 月 25 日～ 26 日　大雨　強風　波浪（台風第 15 号）

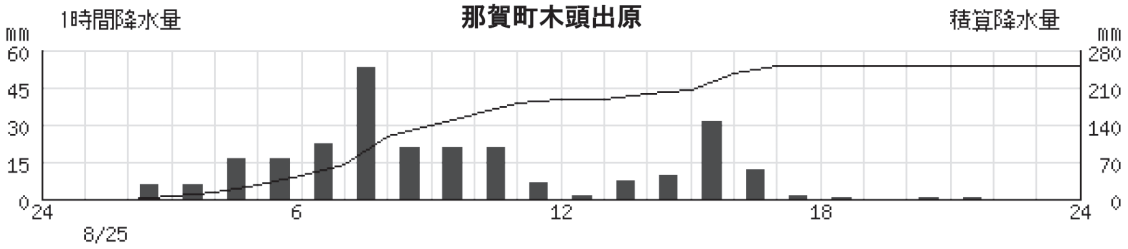


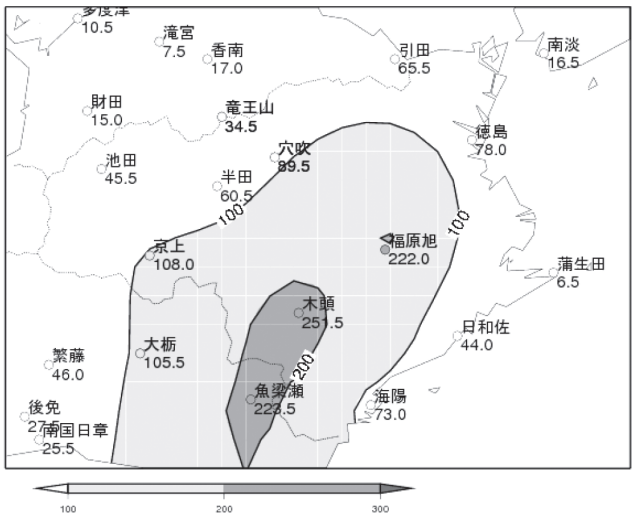


台風第 15 号　経路図

台風第 15 号は，九州の西海上を北北東に進み，25 日 06 時過ぎに熊本県荒尾市付近に上陸した。その後，台風は強い勢力を維持したまま九州北部地方を通過後，日本海に進み，25 日 21 時に日本海で温帯低気圧に変わった。この影響により徳島県では荒れた天気となり，南東斜面を中心に大雨となった。

那賀町木頭出原では，25 日に日降水量 251.5㎜を観測した。また，沿岸部では強風となり，徳島市では最大風速が 25 日 13 時 53 分に南南東の風 16.6m/s，最大瞬間風速が 25 日 13 時 44 分に南南東の風 26.8m/s を観測した。





総降水量（㎜）

【災害概況】

人的被害：徳島市で強風にあおられて 4 人が転倒し軽傷。

崖崩れ：阿南市 1 か所

道路の通行止め（交通規制を含む）:【高速道路】神戸淡路鳴門自動車道;強風のため通行止め，【県管理道路】全面通行止め；10 路線 18 箇所，【市町村道】通行止 1 市 1 町;4 箇所（小松島市 3 箇所，海陽町 1 箇所）

海上交通：8 月 25 日～ 26 日徳島－和歌山，上下各 14 便欠航

航空便:8 月 25 日東京－徳島，14 便（JAL8 便，ANA6 便），徳島－福岡，各 1 便，徳島－札幌（新千歳）各 1 便欠航

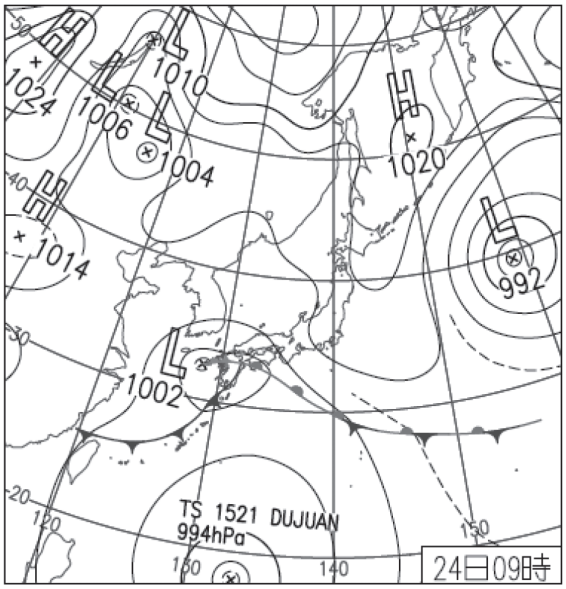
高速バス：運休；JR 四国及び徳島バスの徳島発着の 125 本が運休

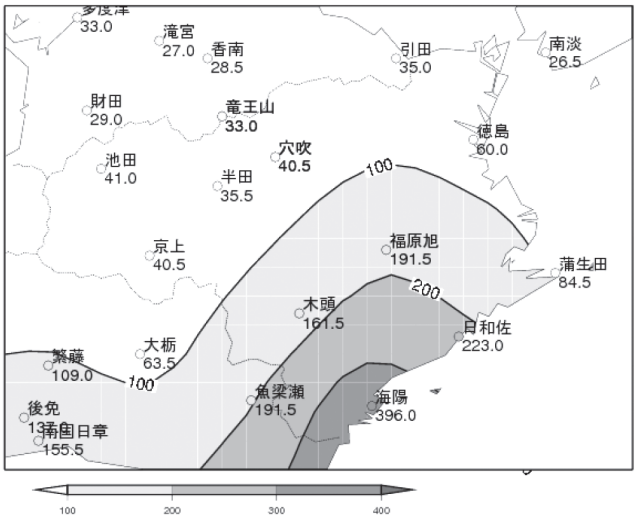
停電：阿南市，美馬市，三好市，勝浦町などで延べ 6,615 世帯

避難勧告等の発令状況：避難勧告；吉野川市，那賀町

避難状況：自主避難；那賀町 1 世帯 2 名，松茂町 1 世帯 1 名，阿南市 1 世帯 1 名

2015 年（平成 27 年）9 月 24 日～ 25 日　大雨（暖気の移流）

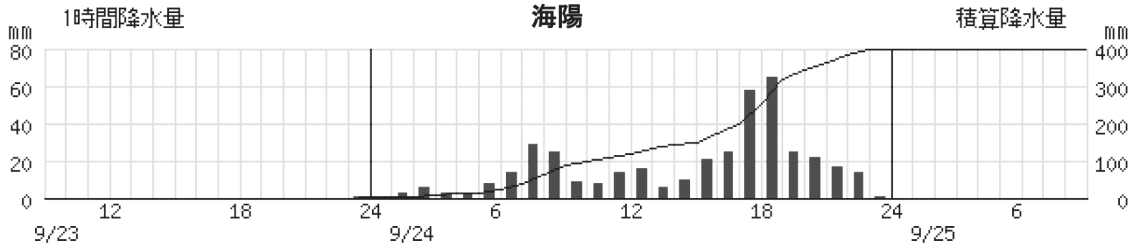




総降水量（mm）

9 月 23 日夜から 25 日未明にかけて，四国南岸を東進した低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため，大気の状態が不安定となり，徳島県では南部を中心に局地的に非常に激しい雨が降った。

23 日 23 時から 25 日 03 時までの総降水量は，海陽で 396.0mm を観測した。また，海陽では 24 日 18 時 27 分までの 1 時間に 77.5㎜の非常に激しい雨を観測した。



【災害概況】

住居等被害：海陽町床上浸水 4 棟，床下浸水 40 棟

交通障害：【県管理道路】道路；6 路線 10 箇所気象による規制，鉄道；阿佐海岸鉄道阿佐東線，15 時 34 分甲浦駅発から上下各 8 本運休

避難勧告等：避難勧告；海陽町，避難準備情報；牟岐町，美波町

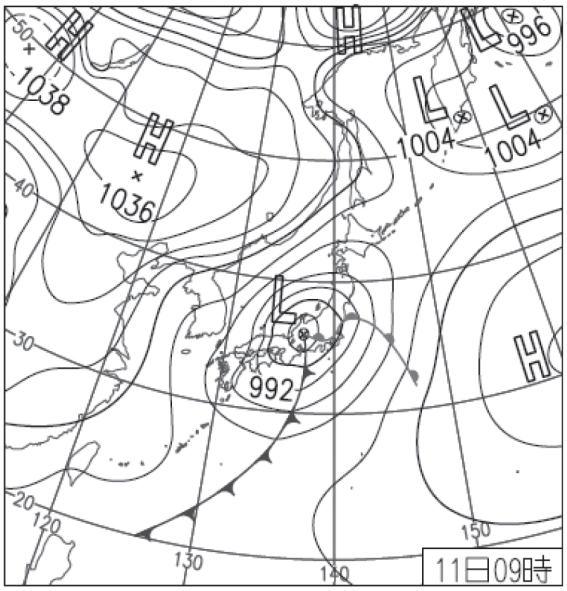
避難状況：避難者，海陽町 12 世帯 22 名，牟岐町 1 世帯 1 名

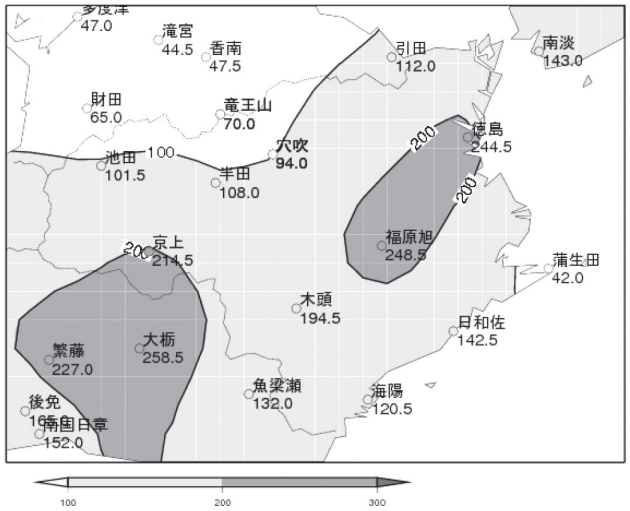
2015 年（平成 27 年）12 月 10 日～ 11 日　大雨　波浪（低気圧）

前線を伴った低気圧が発達しながら 10 日から 11 日にかけて四国地方を通過した。この低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込み，徳島県では大気の状態が非常に不安定となった。このため，徳島県では局地的に猛烈な雨や落雷，暴風となり海上は大しけとなった。

10 日から 11 日にかけての総降水量は，上勝町福原旭で 248.5㎜，徳島市で 244.5㎜，三好市京上で 214.5㎜を観測した。この期間の最大 1 時間降水量は，美波町日和佐で 10 日 21 時 19 分に 82.5㎜，三好市京上で 11 日 02 時 38 分に 65.5㎜，徳島市で 10 日 21 時 33 分に 56.0㎜を観測した。

また，沿岸部では風が強く，阿南市蒲生田で最大風速が 11 日 02 時 38 分に東の風 18.5m/s，最大瞬間風速が 11 日 02 時 35 分に東の風 34.0m/s を観測した。



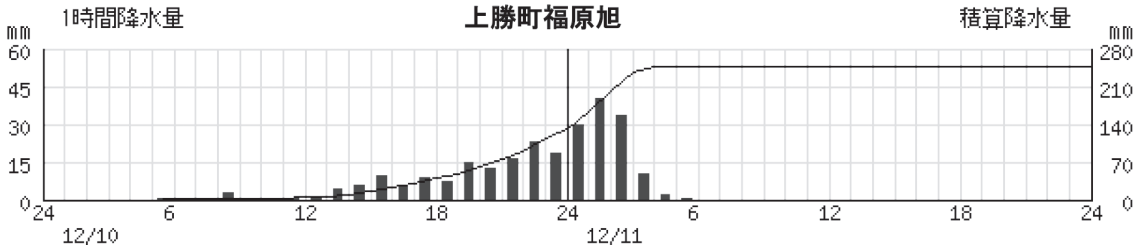


総降水量（㎜）

【災害概況】

住居等被害：徳島市；一部損壊 1 棟，鳴門市；床下浸水 7 棟，小松島市；床上浸水 3 棟，床下浸水 31 棟，松茂町；床上浸水 1 棟，床下浸水 1 棟，東みよし町；床下浸水 1 棟

交通障害：[県管理道路] 道路；道路冠水（10 路線 11 箇所），山腹崩壊（2 路線 2 箇所），異常気象による規制（6 路線 14 箇所），潜水橋冠水（5 路線 6 箇所），その他（2 路線 2 箇所）



高速バス：海部観光大阪線下り 4 便運休

海上交通：南海フェリー上下各 6 本欠航

※海上欠航 12 便は和歌山県の災害報告 201512 を含む。

※最初に道路の規制開始時刻の 12 月 10 日 21 時 00 分を災害発生時刻とした。

あ　と　が　き

この度、徳島県における自然災害の記録を集成した「徳島県自然災害誌」に、平成8年から平成27年までの災害記録を追加し、3回目の改定版として、刊行することとなりました。

折しも、昨年、平成28年は、熊本県、鳥取県で相次いで活断層による地震が発生し、甚大な被害が生じたところです。

こうした大規模自然災害の記憶は、発災当初は鮮明でも、時の経過とともに、やがて風化してしまいますが、過去の災害の教訓は、人々の命・財産を守るための貴重な遺産であり、後世の人々に自然災害誌として伝えていくことは、大きな意義があります。

本県は、およそ100年ごとに繰り返し発生する南海トラフ地震や頻繁に襲来する台風、集中豪雨により、多くの被害を受けてきました。

自然災害から身を守るためには、本県がこれまで経験した過去の自然災害について学び、現在得られる自然災害情報と合わせ、災害時における避難など迅速な行動に繋げることが重要です。

本書を、これまで以上に多くの方々にご覧いただき、更なる防災意識の向上や災害対策に活用いただけることを願っています。

刊行にあたりまして、原稿を作成いただきました徳島地方気象台の皆様、写真の提供をいただきました一般社団法人徳島新聞社、立木写真館、海陽町をはじめ、ご協力いただきました多くの方々に感謝申し上げます。

平成29年3月

徳島県とくしまゼロ作戦課長　坂東　淳

徳島県自然災害誌

発　行　　徳　　島　　県
編　集　　徳島地方気象台
平成 29 年 3 月 30 日発行